

帝國議會 貴族院議事速記錄第三號

第四十五回

大正十一年一月二十三日(月曜日)

午前十時九分開議

議事日程 第三號 大正十一年一月二十三日

午前十時開議

第一 破產法案(政府提出)

第二 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第三 和議法案(政府提出)

第四 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第五 大正十年勅令第三百七十五號(承諾ヲ求ムル件)

會 議

第六 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

會 議

第七 大正十年勅令第三百七十六號(承諾ヲ求ムル件)

會 議

第八 右議案ノ審查ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

會 議

第一讀會

伯爵勸修寺經雄君 子爵立花種忠君 子爵大浦兼一君  
男爵小畠大太郎君 高橋琢也君 安立綱之君  
二階堂三郎左衛門君 鈴木摠兵衛君 山田純精君  
大谷嘉兵衛君 根津啓吉君

主查子爵清岡長言君

副主查男爵佐竹義準君

子爵東坊城德長君 子爵五條爲功君

笠井信一君 男爵中川良長君

男爵周布兼道君 田中源太郎君

島定治郎君 田中清文君

第三分科(內閣、司法省)

子爵吉田清風君 子爵敷篤麿君 子爵竹屋春光君

大山綱昌君 男爵辻太郎君 男爵島津健之助君

川上親晴君 八木久兵衛君 犬上慶五郎君

高橋隆一君 三木與吉郎君

第四分科(陸軍省、海軍)

主查子爵新庄直知君 副主查男爵村木雅美君

侯爵鍋島直映君 子爵京極高義君 子爵米倉昌達君

男爵藤井包總君 男爵山内豊政君 男爵黒川幹太郎君

男爵調所恆德君 星島謹一郎君 平尾喜三郎君

同日決算委員會ニ於テ決定シタル分科及分科擔當委員ノ氏名左ノ如シ

第一分科(歲入、鐵道省)

伯爵兒玉秀雄君 子爵本多忠鋒君 子爵西尾忠方君

男爵毛利五郎君 男爵今園國貞君 倉知鐵吉君

小池靖一君 石橋謹二君 佐藤友右衛門君

伊丹彌太郎君 矢口長右衛門君 橫山章君

兼務男爵横山隆俊君

第二分科(外務省、内務省)

伯爵中川久任君 服部一三君

子爵秋月種英君 子爵白川資長君

子爵秋月種英君 子爵池田政時君

男爵高千穂宣磨君 男爵若王子文健君

男爵若王子文健君 男爵黒田長和君

鍋島桂次郎君 今井五介君

第三分科(陸軍省)

(海軍省)

男爵木越安綱君 子爵高倉永則君 子爵柳生俊久君  
子爵今城定政君 子爵秋田重季君 男爵西村精一君  
男爵眞田幸世君 男爵永山武敏君 中村純九郎君  
土田萬助君 兼務西川甚五郎君 矢口長右衛門君

第四分科(文部省、農商務省、遞信省)

子爵伊集院兼知君 子爵西大路吉光君 内田嘉吉君  
男爵北大路實信君 男爵横山隆俊君 男爵安藤直雄君  
男爵赤松範一君 桑原善吉君 中村圓一郎君

同日政府ヨリ左ノ法律案ヲ提出セリ

銃砲火薬類取締法中改正法律案

○副議長(侯爵黒田長成君) 是ヨリ議事日程ニ移リマス、第一、破産法案、政府提出、第一讀會、尙ほ諸君ニ御諮詢致シマスガ、第三ノ法案モ關聯イタシテ居リマスカラ、併セテ第一讀會ヲ開イテ、政府ノ説明ヲ求メタイト思ヒマスガ、御異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○副議長(侯爵黒田長成君) 御異議ナイト認メマス、第三、和議法案、政府提出、第一讀會、本日ハ通牒文ノ朗讀ハ總テ省略イタシテ御異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲メ茲ニ載錄ス以下之ニ做フ〕

破産法案

右 勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

大正十一年一月十八日

内閣總理大臣兼  
臨時海軍大臣事務管理

内閣總理大臣

外務大臣

農商務大臣

内務大臣

文部大臣

遞信大臣

鐵道大臣

司法大臣

陸軍大臣

子爵高橋是清

伯爵内田康哉

男爵山本達雄

床次竹二郎

中橋徳五郎

野田卯太郎

元田肇

伯爵大木遠吉

山梨半造

○副議長(侯爵黒田長成君) 御異議ナイト認メマス、此際諸君ニ御諮詢致シマスガ、議事ノ都合ニ依リマシテ、議事日程ノ第一ヨリ第四迄唯今議スルコトニ致シマシテ、其後ニ一日ノ質疑ノ續ヲ致シテハ如何カト存ジマスガ、御異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○副議長(侯爵黒田長成君) 御異議ナイト認メマス

破産法

破産法案

第一編 實體規定  
第一章 總則

第一條 破産ハ其ノ宣告ノ時ヨリ效力ヲ生ス

第二條 外國人又ハ外國法人ハ破産ニ關シ日本人又ハ日本法人ト同一ノ地位ヲ有ス

ルトキニ限ル

第三條 日本ニ於テ宣告シタル破産ハ破産者ノ財產ニシテ日本ニ在ルモノ

ニ付テノミ其ノ效力ヲ有ス

外國ニ於テ宣告シタル破産ハ日本ニ在ル財產ニ付テハ其ノ效力ヲ有セズ」

民事訴訟法ニ依リ裁判上ノ請求ヲ爲スコトヲ得ヘキ債權ハ日本ニ在ルモノ

ノト看做ス

第四條 解散シタル法人ハ破産ノ目的ノ範圍内ニ於テハ仍存續スルモノト

看做ス

第五條 相續人又ハ相續財產ニ關スル破産ノ宣告ハ限定承認又ハ財產分離ヲ妨ヶス但シ破産取消若ハ破産廢止ノ決定カ確定シ又ハ破産終結ノ決定アル迄其ノ手續ヲ中止ス

## 第二章 破産財團

第六條 破産者カ破産宣告ノ時ニ於テ有スル一切ノ財產ハ之ヲ破産財團トス

破産者カ破産宣告前ニ生シタル原因ニ基キ將來行フコトアルヘキ請求權

ハ破産財團ニ屬ス

差押フコトヲ得サル財產ハ破産財團ニ屬セス但民事訴訟法第五百七十條第一項第四號第七號ニ掲タルモノ、同條第二項ノ規定ニ依リ差押ノ承諾アリタルモノ及破産宣告後差押フルコトヲ得ルニ至リタルモノハ此ノ限り在ラス

第七條 破産財團ノ管理及處分ヲ爲ス權利ハ破産管財人ニ專屬ス

第八條 破産宣告前ニ破産者ノ爲ニ遺產相續ノ開始アリタル場合ニ於テ破産者カ破産宣告後ニ爲シタル單純承認ハ破産財團ニ對シテハ限定承認ノ效力ヲ有ス

第九條 破産宣告前ニ破産者ノ爲ニ相續ノ開始アリタル場合ニ於テ破産者カ破産宣告後ニ相續ノ拋棄ヲ爲シタルトキト雖破産財團ニ對シテハ限定承認ノ效力ヲ有ス

破産管財人ハ前項ノ規定ニ拘ラス拋棄ノ效力ヲ認ムルコトヲ得此ノ場合

ニ於テハ拋棄アリタルコトヲ知リタル時ヨリ三月内ニ其ノ旨ヲ裁判所ニ申述スルコトヲ要ス

第十條 前二條ノ規定ハ包括遺贈ニ之ヲ準用ス

第十一條 破産宣告前ニ破産者ノ爲ニ特定遺贈アリタル場合ニ於テ破産者カ破産宣告ノ當時承認又ハ拋棄ヲ爲ササリシトキハ破産管財人破産者ニ代リテ其ノ承認又ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得

第十二條 相續財產ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テハ之ニ屬スル一切ノ財產ヲ以テ破産財團トス

被相續人カ相續人ニ對シ又ハ相續人ノ財產ノ上ニ有シタル權利及相續人カ相續財產ノ上ニ有シタル權利ハ消滅セサリシモノト看做ス

第十三條 隱居又ハ入夫婚姻ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テ相續財產ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ留保財產モ亦破産財團ニ屬ス

國籍喪失ニ因ル家督相續ノ場合ニ於テ相續財產ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續開始ノ時ニ於テ前戸主カ有シタル財產ヲ以テ破産財團トス

第十四條 相續人カ相續財產ノ全部又ハ一部ヲ處分シタル後相續財產ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續人カ反対給付ニ付有スル權利ハ破産財團ニ屬ス

相續人カ既ニ反対給付ヲ受ケタルトキハ之ヲ破産財團ニ返還スルコトヲ要ス但シ其ノ當時相續人カ破産ノ原因タル事實又ハ破産ノ申立アリタルコトヲ知ラサリシトキハ其ノ現ニ受クル利益ヲ返還スルヲ以テ足ル前二項ノ規定ハ前戸主カ前條ノ財產ヲ處分シタル場合ニ之ヲ準用ス

## 第三章 破産債權

第十五條 破産者ニ對シ破産宣告前ノ原因ニ基キヲ生シタル財產上ノ請求權ハ之ヲ破産債權トス

第十六條 破産債權ハ破産手續ニ依ルニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

第十七條 期限附債權ハ破産宣告ノ時ニ於テ辨濟期ニ至リタルモノト看做ス

第十八條 債權カ無利息ニシテ其ノ期限カ破産宣告後ニ到來スヘキ場合ニ於テハ破産債權ノ額ハ破産宣告ノ時ヨリ期限ニ至ル迄ノ破産債權ニ對ス

ル法定利息ヲ債権額ヨリ控除スルモノトス

第十九條 前條ノ規定ハ金額及存續期間ノ確定スル定期金債権ニ之ヲ準用ス但シ其ノ總額カ法定利率ニ依リ其ノ定期金ニ相當スル利息ヲ生スヘキ

元本額ヲ超ユルトキハ其ノ元本額ヲ以テ破產債権ノ額トス

第二十條 第十八條ノ場合ニ於テ期限カ不確定ナルトキハ破產宣告ノ時ニ於ケル評價額ヲ以テ破產債権ノ額トス定期金債権ノ金額又ハ存續期間カ

不確定ナルトキ亦同シ

第二十一條 前三條ノ規定ハ法人又ハ相續財產ニ對シテ破產ノ宣告アリタル場合ニハ之ヲ適用セス

第二十二條 債權ノ目的カ金錢ニ非サルトキ又ハ金錢ナルモ其ノ額カ不確定ナルトキ若ハ外國ノ通貨ヲ以テ定ヌタルモノナルトキハ破產宣告ノ時ニ於ケル評價額ヲ以テ破產債権ノ額トス

第二十三條 條件附債権ハ其ノ全額又ハ前條ノ規定ニ依ル評價額ヲ以テ破產債権ノ額トス

前項ノ規定ハ破產者ニ對シテ行フコトアルヘキ將來ノ請求權ニ之ヲ準用ス

第二十四條 數人カ各自全部ノ履行ヲ爲ス義務ヲ負フ場合ニ於テ其ノ全員又ハ其ノ中ノ數人カ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ債権者ハ破產宣告ノ時ニ於テ有スル債権ノ全額ニ付各破產財團ニ對シ破產債権者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第二十五條 保證人カ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ債権者ハ破產宣告ノ時ニ於テ有スル債権ノ全額ニ付破產債権者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第二十六條 數人カ各自全部ノ履行ヲ爲ス義務ヲ負フ場合ニ於テ其ノ全員又ハ其ノ中ノ數人若ハ一人カ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ破產者ニ對シテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得但シ債権者カ其ノ債権ノ全額ニ付破產債権者ト

者トシテ其ノ權利ヲ行ヒタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テ前項ノ求償權ヲ有スル者カ辨濟ヲ爲シタルトキハ其ノ辨濟ノ割合ニ應シテ債権者ノ權利ヲ取得ス

前二項ノ規定ハ擔保ヲ供シタル第三者カ破產者ニ對シテ將來行フコトアラルヘキ求償權ニ付之ヲ準用ス

第二十七條 第二十四條、第二十五條及前條第一項第二項ノ規定ハ數人ノ

保證人カ各自債務ノ一部ヲ負擔スヘキ場合ニ於テ其ノ負擔部分ニ付之ヲ準用ス

第二十八條 法人ノ債務ニ付其ノ債権者ニ對シテ無限ノ責任ヲ負フ者カ破產ノ宣告ヲ受ケタルトキハ法人ノ債権者ハ破產宣告ノ時ニ於テ有スル債權ノ全額ニ付破產債権者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得任ヲ負フ者ニ對シテ其ノ債務ニ付其ノ債権者ニ對シテ有限ノ責任ヲ負フ者又ハ其ノ法人ナ破產ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ法人ノ債権者ハ有限ノ責任ヲ負フ者ニ對シテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得斯但シ法人ハ出資ノ請求ニ付破產債権者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ妨ケス

第二十九條 相續人カ破產ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ財產ノ分離アリタルトキト雖相續債権者及受遺者ハ其ノ債権ノ全額ニ付破產債権者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第三十條 相續人カ破產ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ相續財產及前戶主、相續人及前戶主又ハ相續財產相續人及前戶主ニ於テ相續財產及前戶主、相續人及前戶主又ハ相續財產相續人及前戶主ニ對シテ破產ノ宣告アリタルトキ亦同シ

第三十二條 前二條ノ場合ニ於テ破產ノ宣告ヲ受ケタル相續人カ限定承認ヲシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得ス第八條又ハ第九條第一項ノ規定ニ依リ限定承認ノ效力ヲ有スル場合亦同シ

第三十三條 相續財產ニ對シテ破產ノ宣告アリタルトキハ相續人ハ其ノ被相續人ニ對スル債権及被相續人ノ債務消滅ノ爲ニ爲シタル出捐ニ付相續債權者ト同一ノ權利ヲ有ス

第三十四條 相續財產ニ對シテ破產ノ宣告アリタルトキハ相續人ノ債権者ハ破產債権者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得ス

第三十五條 相續財產ニ對シテ破產ノ宣告アリタル場合ニ於テ第十三條ノ財產アルトキハ相續開始後ノ前戶主ノ債権者ハ債権ノ全額ニ付破產債権者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第三十六條 相續財產及前戶主ニ對シテ破產ノ宣告アリタル場合ニ於テ第

十三條ノ財産アルトキハ相續開始後ノ前戸主ノ債権者ハ債権ノ全額ニ付各破産財團ニ對シ破産債権者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得第三十七條 民法第九百八十九條又ハ第九百九十一條ノ場合ニ於テ相續財產ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ前戸主ハ將來行フコトアルヘキ求償權ノカ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ此ノ限り在ラス全額ニ付破産債権者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得第二十六條第一項但書及第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス第三十八條 左ニ掲タル請求權ハ之ヲ破産債権トセス但シ法人又ハ相續財產ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ此ノ限り在ラス一 破産宣告後ノ利息二 破産宣告後ノ不履行ニ因ル損害賠償及違約金三 破産手續參加ノ費用四 罰金、科料、刑事訴訟費用、追徴金及過料第三十九條 破産財團ニ屬スル財產ニ付一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權アル破産債権ハ他ノ債権ニ先ツ第四十條 同一順位ニ於テ辨濟スヘキ債権ハ各其ノ債權額ノ割合ニ應シテ之ヲ辨濟ス第四十一條 優先權カ一定ノ期間内ノ債權額ニ付存在スル場合ニ於テハ其ノ期間ハ破産宣告ノ時ヨリ遡リテ之ヲ計算ス第四十二條 相續財產ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續債権者及受遺者ノ債権ハ相續開始後ノ前戸主ノ債権者ノ債権ニ先ツ相續債権者ノ債権ハ受遺者ノ債権ニ先ツ第四十三條 相續財產ニ對シ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル期間内ノ申立て因リ相續人ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續人ノ債権者ノ債権ハ相續債権者及受遺者ノ債権ニ先チ相續財產ニ付テハ相續債権者及受遺者ノ債権ハ相續人ノ債権ニ先ツ第四十四條 相續財產及相續人ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續人ノ債権者ノ債権ハ相續人ノ破産財團ニ付テハ相續債権者及受遺者ノ債権ニ先ツ第四十五條 相續財產及前戸主ニ對シテ破産ノ宣告アリタルトキハ相續開始後ノ前戸主ノ債権者ノ債権ハ前戸主ノ破産財團ニ付テハ相續債権者ノ債権ニ先ツ

第四十六條 法人又ハ相續財產ニ對シテ破産ノ宣告アリタル場合ニ於テハ債權額ト第十八條乃至第二十條ノ規定ニ依リテ定ル額トノ差額ノ請求權及第三十八條ニ掲タル請求權ハ法人ノ債権者又ハ相續債権者ノ他ノ債權ニ後ル第四章 財團債権第四十七條 左ニ掲タル請求權ハ之ヲ財團債権トス一 破産債権者ノ共同ノ利益ノ爲ニスル裁判上ノ費用二 國稅徵收法又ハ國稅徵收ノ例ニ依リ徵收スルコトヲ得ヘキ請求權但シ破産宣告後ノ原因ニ基ク請求權ハ破産財團ニ關シテ生シタルモノニ限ル三 破産財團ノ管理、換價及配當ニ關スル費用四 破産財團ニ關シ破産管財人ノ爲シタル行為ニ因リテ生シタル請求權五 事務管理又ハ不當利得ニ因リ破産財團ニ對シテ生シタル請求權六 委任終了又ハ代理權消滅ノ後急迫ノ必要ノ爲ニ爲シタル行為ニ因リ破産財團ニ對シテ生シタル請求權七 第五十九條第一項ノ規定ニ依リ破産管財人カ債務ノ履行ヲ爲ス場合ニ於テ相手方カ有スル請求權八 破産宣告ニ因リテ雙務契約ニ關シ解約ノ申入アリタル場合ニ於テ其ノ終了ニ至ル迄ノ間ニ生シタル請求權九 破産者及之ニ扶養セラル者ノ扶助料十ス第四十八條 破産管財人負擔附遺贈ノ履行ヲ受ケタルトキハ負擔ノ利益ヲ受クヘキ請求權ハ遺贈ノ目的ノ價額ヲ超エサル限度ニ於テ之ヲ財團債権トス第四十九條 財團債権ハ破産手續ニ依ラスシテ隨時之ヲ辨濟ス第五十條 財團債権ハ破産財團ヨリ先ツ之ヲ辨濟ス第五十一條 破産財團カ財團債権ノ總額ヲ辨濟スルニ不足ナルコト分明ナルニ至リタルトキハ財團債権ノ辨濟ハ法令ニ定ムル優先權ニ拘ラス未タ辨濟セサル債權額ノ割合ニ應シテ之ヲ爲ス但シ財團債権ニ付存スル留置權、特別ノ先取特權、質權及抵當權ノ效力ヲ妨ケス第五十二條 第十七條乃至第二十條、第二十二條及第二十三條第一項ノ規定ハ第四十七條第七號及第四十八條ニ規定スル財團債権ニ之ヲ準用ス

## 第五章 法律行爲ニ關スル破産ノ效力

第五十三條 破産者カ破産宣告ノ後破産財團ニ屬スル財產ニ關シテ爲シタル法律行爲ハ之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

破産者カ破産宣告ノ日ニ於テ爲シタル法律行爲ハ破産宣告後ニ之ヲ爲シタルモノト推定ス

第五十四條 破産宣告ノ後破産財團ニ屬スル財產ニ關シ破産者ノ法律行爲ニ因ラスシテ權利ヲ取得スルモ其ノ取得ハ之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ取得ニ之ヲ準用ス

第五十五條 不動産又ハ船舶ニ關シ破産宣告前ニ生シタル登記原因ニ基キ

第五十五條 不動産又ハ船舶ニ關シ破産宣告前ニ生シタル登記法第二條第一號ノ規定ニ依ル假登記ハ之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得ス但シ登記權利者カ破産宣告ノ事實ヲ知ラスシテ爲シタル登記又ハ假登記ニ付テハ此ノ限ニ在

前項ノ規定ハ權利ノ設定、移轉又ハ變更ニ關スル登錄又ハ假登錄ニ付之ヲ準用ス

第五十六條 破産宣告ノ後其ノ事實ヲ知ラスシテ破産者ニ爲シタル辨濟ハ之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得

破産宣告ノ後其ノ事實ヲ知リテ破産者ニ爲シタル辨濟ハ破産財團カ受ケタル利益ノ限度ニ於テノミ之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得

第五十七條 爲替手形ノ振出人又ハ裏書人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ支拂人又ハ豫備支拂人カ其ノ事實ヲ知ラスシテ引受又ハ支拂ヲ爲シタルトキハ之ニ因リテ生シタル債權ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

前項ノ規定ハ小切手及金錢其ノ他ノ物又ハ有價證券ノ給付ヲ目的トスル有價證券ニ之ヲ準用ス

第五十八條 前三條ノ規定ノ適用ニ付テハ破産宣告ノ公告前ニ在リテハ其ノ事實ヲ知ラサリシモノト推定シ公告後ニ在リテハ其ノ事實ヲ知リタルモノト推定ス

第五十九條 雙務契約ニ付破産者及其ノ相手方カ破産宣告ノ當時未タ共ニ其ノ履行ヲ完了セサルトキハ破産管財人ハ其ノ選擇ニ從ヒ契約ノ解除ヲ

爲シ又ハ破産者ノ債務ヲ履行シテ相手方ノ債務ノ履行ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ相手方ハ破産管財人ニ對シ相當ノ期間ヲ定メ其ノ期間内ニ契約ノ解除ヲ爲スカ又ハ債務ノ履行ヲ請求スルカヲ確答スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ得破産管財人カ其ノ期間内ニ確答ヲ爲ササルトキハ契約ノ解除ヲ爲シタルモノト看做ス

第六十條 前條ノ規定ニ依リ契約ノ解除アリタルトキハ相手方ハ其ノ返還ヲ請求シ現存セサルトキハ其ノ價額ニ付財團債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得破産者ノ受ケタル反對給付カ破産財團中ニ現存スルトキハ相手方ハ其ノ賠償ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第六十一條 取引所ノ相場アル商品ノ賣買ニ付一定ノ日時又ハ一定ノ期間内ニ履行ヲ爲スニ非サレハ契約ヲ爲シタル目的ヲ達スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ時期カ破産宣告後ニ到來スヘキトキハ契約ノ解除アリタル

モノト看做ス此ノ場合ニ於テ損害賠償ノ額ハ履行地又ハ其ノ地ノ相場ノ標準ト爲ルヘキ地ニ於ケル同種ノ取引ニシテ同一ノ時期ニ履行スヘキモノノ相場ト賣買ノ代價トノ差額ニ依リテ之ヲ定ム

前條第一項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル損害賠償ニ付之ヲ準用ス

第六十二條 第五十九條第二項ノ規定ハ民法第六百二十一條、第六百三十一條又ハ第六百四十二條第一項ノ規定ニ依リ相手方又ハ破産管財人カ有

スル解除權ノ行使ニ付之ヲ準用ス

第六十三條 貸貸人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テハ借貸ノ前拂又ハ借貸ノ債權ノ處分ハ破産宣告ノ時ニ於ケル當期及次期ニ關スルモノヲ除クノ外之ヲ以テ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

前項ノ規定ニ依リ破産債權者ニ對抗スルコトヲ得サルニ因リテ損害ヲ受ケタル者ハ其ノ損害ノ賠償ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

前二項ノ規定ハ地上權及永小作權ニ付之ヲ準用ス

第六十四條 破産者カ請負契約ニ因リ仕事ヲ爲ス義務ヲ負擔スルトキハ破産管財人ハ必要ナル材料ヲ供シ破産者ヲシテ其ノ仕事ヲ爲サシムルコトヲ得其ノ仕事カ破産者自ラ爲スコトヲ要セサルモノナルトキハ第三者ヲ

シテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ破産者カ其ノ相手方ヨリ受クヘキ報酬ハ破産財團ニ屬ス

第六十五條 委任者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ受任者カ破産宣告ノ通知ヲ受ケス且破産宣告ノ事實ヲ知ラスシテ委任事務ヲ處理シタルトキハ之ニ因リテ生シタル債權ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第六十六條 交互計算ハ當事者ノ一方カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ終了ス此ノ場合ニ於テハ各當事者ハ計算ヲ閉鎖シ殘額ノ支拂ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル請求權ハ破産者之ヲ有スルトキハ破産財團ニ屬シ相手方之ヲ有スルトキハ破産債權トス

第六十七條 數人共同シテ財產權ヲ有スル場合ニ於テ共有者ノ中破産ノ宣傳ヲ受ケタル者アルトキハ分割ヲ爲ササル定アルトキト雖破産手續ニ依ラスシテ其ノ分割ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ他ノ共有者ハ相當ノ價金ヲ拂ヒテ破産者ノ持分ヲ取得スルコトヲ得

第六十八條 民法第七百九十六條第二項第三項及第七百九十七條ノ規定ハ配偶者ノ財產ヲ管理スル者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ、同法第八百九十七條ノ規定ハ親權ヲ行フ者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十九條 破産財團ニ屬スル財產ニ關シ破産宣告ノ當時繫屬スル訴訟ハ

破産管財人又ハ相手方ニ於テ之ヲ受繼クトヲ得第四十七條第七號ニ掲タル請求權ニ關スル訴訟ニ付亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ訴訟費用ハ之ヲ財團債權トス

第七十條 破産債權ニ付破産財團ニ屬スル財產ニ對シ爲シタル強制執行、假差押又ハ假處分ハ破産財團ニ對シテハ其ノ效力ヲ失フ但シ強制執

行ニ付テハ破産管財人ニ於テ破産財團ノ爲其ノ手續ヲ續行スルコトヲ妨前項但書ノ規定ニ依リ破産管財人カ強制執行ノ手續ヲ續行スルトキハ破產用ハ之ヲ財團債權トシ強制執行ニ對スル第三者ノ異議ノ訴ニ付テハ破產

管財人ヲ被告トス

前二項ノ規定ハ一般ノ先取特權者カ破産財團ニ屬スル財產ニ對シ爲シタル競賣手續ニ之ヲ適用ス

第七十一條 破産財團ニ屬スル財產ニ對シ國稅徵收法又ハ國稅徵收ノ例ニ依ル滯納處分ヲ爲シタル場合ニ於テハ破産手續ノ解止ニ至ル迄之ヲ中斷スケス

第六十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第六章 否認權

第七十二條 左ニ掲タル行爲ハ破産財團ノ爲之ヲ否認スルコトヲ得

一 破産者カ破産債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル行爲但シ之ニ因

リテ利益ヲ受ケタル者カ其ノ行爲ノ當時破産債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知ラサリシトキハ此ノ限ニ在ラス

二 破産者カ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタル後ニ爲シタル擔保ノ供與、債務消滅ニ關スル行爲其ノ他破産債權者ヲ害スル行爲但シ之ニ因リテ利益ヲ受ケタル者カ其ノ行爲ノ當時支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタルコトヲ知リタルトキニ限ル

三 前號ノ行爲ニシテ破産者ノ親族、戸主、家族又ハ同居者ヲ相手方トスルモノ但シ相手方カ其ノ行爲ノ當時支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタルコトヲ知ラサリシトキハ此ノ限ニ在ラス

四 破産者カ支拂ノ停止若ハ破産ノ申立アリタル後又ハ其ノ前三十日内ニ爲シタル擔保ノ供與又ハ債務ノ消滅ニ關スル行爲ニシテ破産者ノ義務ニ屬セス又ハ其ノ方法若ハ時期カ破産者ノ義務ニ屬セサルモノ但シ債權者カ其ノ行爲ノ當時支拂ノ停止若ハ破産ノ申立アリタルコト又ハ破産債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知ラサリシトキハ此ノ限ニ在ラス

五 破産者カ支拂ノ停止若ハ破産ノ申立アリタル後又ハ其ノ前六月内ニ爲シタル無償行爲及之ト同視スヘキ有償行爲

第七十三條 前條ノ規定ハ破産者ヨリ手形ノ支拂ヲ受ケタル者カ其ノ支拂ヲ受ケサレハ債務者ノ一人又ハ數人ニ對スル手形上ノ權利ヲ失フヘカリ

シ場合ニハ之ヲ適用セス

前項ノ場合ニ於テ最終ノ償還義務者又ハ手形ノ振出ヲ委託シタル者カ振出ノ當時支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタルコトヲ知リ又ハ過失ニ因リテ之ヲ知ラサリシトキハ破産管財人ハ之ヲシテ破産者カ支拂ヒタル金額ヲ償還セシムルコトヲ得

第七十四條 支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタル後權利ノ設定、移轉又ハ變更ヲ以テ第三者ニ對抗スルニ必要ナル行爲ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ行爲カ權利ノ設定、移轉又ハ變更アリタル日ヨリ十五日ヲ經過シタル後惡意ニテ爲シタルモノナルトキハ之ヲ否認スルコトヲ得但シ登記及登錄ニ付テハ假登記又ハ假登錄アリタル後本登記又ハ本登錄ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ權利取得ノ效力ヲ生スル登錄ニ付之ヲ準用ス

第七十五條 否認權ハ否認セムトスル行爲ニ付執行力アル債務名義アルトキ又ハ其ノ行爲カ執行行爲ニ基クモノナルトキト雖之ヲ行フコトヲ妨ケ

第七十六條 否認權ハ訴又ハ抗辯ニ依リ破産管財人之ヲ行フ

第七十七條 否認權ノ行使ハ破産財團ヲ原狀ニ復セシム

第七十二條第五號ニ掲タル行爲カ否認セラレタル場合ニ於テ相手方カ行

爲ノ當時善意ナリシトキハ其ノ現ニ受クル利益ヲ償還スルヲ以テ足ル

第七十八條 破產者ノ行爲カ否認セラレタル場合ニ於テ其ノ受ケタル反對給付カ破産財團中ニ現存スルトキハ相手方ハ其ノ返還ヲ請求シ反對給付

ニ因リテ生シタル利益ガ現存スルトキハ其ノ利益ノ限度ニ於テ財團債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

反對給付ニ因リテ生シタル利益カ現存セサルトキハ相手方ハ其ノ價額ノ償還ニ付破產債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得反對給付ノ價額カ現存スル利益ヨリ大ナル場合ニ於テ其ノ差額ニ付亦同シ

第七十九條 破產者ノ行爲カ否認セラレタル場合ニ於テ相手方カ其ノ受ケタル給付ヲ返還シ又ハ其ノ價額ヲ償還シタルトキハ相手方ノ債權ハ之ニ因リテ原狀ニ復ス

第八十條 第七十二條、第七十三條及前二條ノ規定ハ相續財產ニ對シテ

破產ノ宣告アリタル場合ニ於テ被相續人、相續人、相續財產管理人及遺

言執行者カ相續財產ニ關シテ爲シタル行爲並前戸主カ第十三條ノ財產ニ關シテ爲シタル行爲ニ之ヲ準用ス

第八十一條 相續財產ニ對シ破產ノ宣告アリタル場合ニ於テ受遺者ニ對スル辨濟其ノ他債務ノ消滅ニ關スル行爲カ其ノ債權ニ先ツ債權ヲ有スル破產債權者ヲ害スルトキハ之ヲ否認スルコトヲ得

第八十二條 相續財產ニ對シテ破產ノ宣告アリタル場合ニ於テ第八十條ニ規定スル行爲カ否認セラレタルトキハ相續債權者ニ辨濟ヲ爲シタル後否認セラレタル行爲ノ相手方ニ其ノ權利ノ價額ニ應シテ殘餘財產ヲ分配スルコトヲ要ス

第八十三條 左ノ場合ニ於テハ否認權ハ轉得者ニ對シテモ亦之ヲ行フコトヲ得

一 轉得者カ轉得ノ當時各其ノ前者ニ對スル否認ノ原因アルコトヲ知リタルトキ

二 轉得者カ破產者ノ親族、戸主、家族又ハ同居者ナルトキ但シ轉得ノ當時各其ノ前者ニ對スル否認ノ原因アルコトヲ知ラサリシトキハ此ノ限ニ在ラス

三 轉得者カ無償行爲又ハ之ト同視スヘキ有償行爲ニ因リテ轉得シタル場合ニ於テ各其ノ前者ニ對シ否認ノ原因アルトキ

第七十七條第二項ノ規定ハ前項第三號ノ規定ニ依リ否認權ノ行使アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第八十四條 破產宣告ノ日ヨリ一年前ニ爲シタル行爲ハ支拂停止ノ事實ヲ知リタルコトヲ理由トシテ之ヲ否認スルコトヲ得ス

第八十五條 否認權ハ破產宣告ノ日ヨリ二年間之ヲ行ハサルトキハ時效ニ因リテ消滅ス行爲ノ日ヨリ二十年ヲ超過シタルトキ亦同シ

第八十六條 民法第四百二十四條ノ規定ニ依リ破產債權者ノ提起シタル訴訟カ破產宣告ノ當時繫屬スルトキハ其ノ訴訟手續ハ受繼又ハ破產手續ノ解止ニ至ル迄之ヲ中斷ス

第六十九條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

## 第七章 取戻權

第八十七條 破產ノ宣告ハ破產者ニ屬セサル財產ヲ破產財團ヨリ取戻ス權利ニ影響ヲ及ホサス

第八十八條 破産宣告前破産者ニ財産ヲ譲渡シタル者ハ擔保ノ目的ヲ以テシタルコトヲ理由トシテ其ノ財産ヲ取戻スコトヲ得ス

第八十九條 賣主カ賣買ノ目的タル物品ヲ買主ニ發送シタル場合ニ於テ買主カ未タ代金ノ全額ヲ辨濟セス且到達地ニ於テ其ノ物品ヲ受取ラサル間ニ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ賣主ハ其ノ物品ヲ取戻スコトヲ得但シ破産管財人カ代金ノ全額ヲ支拂ヒテ其ノ物品ノ引渡ヲ請求スルコトヲ妨ケス

前項ノ規定ハ第五十九條ノ規定ノ適用ヲ妨ヶス

第九十條 前條第一項ノ規定ハ物品買入ノ委託ヲ受ケタル問屋カ其ノ物品ヲ委託者ニ發送シタル場合ニ之ヲ準用ス

第九一條 破産者カ破産宣告前取戻權ノ目的タル財產ヲ譲渡シタル場合ニ於テハ取戻權者ハ反對給付ノ請求權ノ移轉ヲ請求スルコトヲ得破産管財人カ取戻權ノ目的タル財產ヲ譲渡シタル場合亦同シ  
前項ノ場合ニ於テ破産管財人カ反對給付ヲ受ケタルトキハ取戻權者ハ破産管財人カ反對給付トシテ受ケタル財產ノ給付ヲ請求スルコトヲ得

#### 第八章 別除權

第九十二條 破産財團ニ屬スル財產ノ上ニ存スル特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ其ノ目的タル財產ニ付別除權ヲ有ス

第九十三條 破産財團ニ屬スル財產ノ上ニ存スル留置權ニシテ商法ニ依ルモノハ破産財團ニ對シテハ之ヲ特別ノ先取特權ト看做ス此ノ先取特權ハ他ノ特別ノ先取特權ニ後ル

前項ニ規定スルモノヲ除クノ外留置權ハ破産財團ニ對シテハ其ノ效力ヲ失フ

第九十四條 數人共同シテ財產權ヲ有スル場合ニ於テ其ノ一人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ之ニ對シ共有ニ關スル債權ヲ有スル他ノ共有者ハ分割

第九十五條 別除權ハ破産手續ニ依ラシテ之ヲ行フ

第九十六條 別除權者ハ其ノ別除權ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハナル債權額ニ付テノミ破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得但シ別除權ヲ拋棄シタル債權額ニ付破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ妨ケス

第九十七條 破産財團ニ屬セサル破産者ノ財產ノ上ニ特別ノ先取特權、質權又ハ抵當權ヲ有スル者ハ其ノ權利ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能

ハサル債權額ニ付テノミ破産債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得華族世襲財產ヲ差押フル權利ヲ有スル者及破産者カ更ニ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ前ノ破産ニ付破産債權ヲ有スル者亦同シ

前項ニ掲タル權利ヲ有スル者ニハ第二編中別除權ニ關スル規定ヲ準用ス

#### 第九章 相殺權

第九十八條 破産債權者カ破産宣告ノ當時破産者ニ對シテ債務ヲ負擔スルトキハ破産手續ニ依ラシテ相殺ヲ爲スコトヲ得

第九十九條 破産債權者ノ債權カ破産宣告ノ時ニ於テ期限附若ハ解除條件附ナルトキ又ハ第二十二條ニ掲タルモノナルトキト雖相殺ヲ爲スコトヲ妨ヶス債務カ期限附若ハ條件附ナルトキ又ハ將來ノ請求權ニ關スルモノナルトキ亦同シ

第一百條 停止條件附債權又ハ將來ノ請求權ヲ有スル者カ其ノ債務ヲ辨濟スル場合ニ於テハ後日相殺ヲ爲ス爲其ノ債權額ノ限度ニ於テ辨濟額ノ寄託ヲ請求スルコトヲ得

第一百一條 解除條件附債權ヲ有スル者カ相殺ヲ爲ストキハ其ノ相殺額ニ付擔保ヲ供シ又ハ寄託ヲ爲スコトヲ要ス

第一百二條 第十八條乃至第二十條、第二十二條及第二十三條ノ規定ハ破產債權者ノ債權ニ之ヲ準用ス

第一百三條 破産債權者カ貨借人ナルトキハ破産宣告ノ時ニ於ケル當期及次期ノ借貸ニ付相殺ヲ爲スコトヲ得敷金アルトキハ其ノ後ノ借貸ニ付亦同シ

前項ノ規定ハ地代及小作料ニ付之ヲ準用ス

第一百四條 左ノ場合ニ於テハ相殺ヲ爲スコトヲ得ス

一 破産債權者カ破産宣告ノ後破産財團ニ對シテ債務ヲ負擔シタルトキ

二 破産者ノ債務者カ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立アリタルコトヲ知リテ

債務者カ支拂ノ停止若ハ破産ノ申立アリタルコトヲ知リタル時ヨリ一年前ニ生シタル原因ニ基クトキ又ハ破産宣告ノ時ヨリ一年前ニ生シタ

ル原因ニ基クトキハ此ノ限ニ在ラス

## 第二編 手續規定

### 第一章 總則

第一百五條 破産事件ハ債務者カ營業者ナルトキハ其ノ主タル營業所ノ所

在地、外國ニ主タル營業所ヲ有スルトキハ日本ニ於ケル主タル營業所ノ所在地、營業者ニ非サルトキ又ハ營業所ヲ有セサルトキハ其ノ普通裁判籍ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第一百六條 相續財產ニ關スル破産事件ハ相續開始地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第一百七條 前二條ノ規定ニ依ル管轄裁判所ナキトキハ財產ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ管轄ニ專屬ス

債權ハ裁判上ノ請求ヲ爲スコトヲ得ル地ヲ以テ其ノ所在地ト看做ス

前二項ノ規定ニ依リ二以上ノ裁判所カ管轄權ヲ有スルトキハ先ニ破産ノ申立アリタル裁判所ノ管轄ニ專屬ス

第一百八條 破産手續ニ關シテハ本法ニ別段ノ定ナキトキハ民事訴訟法ヲ準用ス

第一百九條 破産事件ニ關シテハ裁判所ハ互ニ法律上ノ輔助ヲ求ムルコトヲ得

第一百十條 破産手續ニ關スル裁判ハ口頭辯論ヲ經スシテ之ヲ爲スコトヲ得

裁判所ハ職權ヲ以テ破産事件ニ關シ必要ナル調査ヲ爲スコトヲ得

第一百十一條 破産手續ニ關スル裁判ハ職權ヲ以テ其ノ送達ヲ爲スコトヲ要ス

第一百十二條 破産手續ニ關スル裁判ニ對シテハ本編ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外其ノ裁判ニ付利害關係ヲ有スル者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得其ノ期間ハ裁判ノ公告アリタル場合ニ於テハ其ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間トス

第一百十三條 抗告裁判所ノ決定ハ確定ノ後ニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス但シ裁判所ハ其ノ決定ヲ以テ直ニ效力ヲ生スヘキコトヲ定ムルコトヲ得

抗告裁判所ノ破産ノ宣告ハ前項ノ規定ニ拘ラス直ニ其效力ヲ生ス

第一百十四條 破産手續ニ關スル申立、陳述及抗告ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之

ヲ爲スコトヲ得

第一百五條 本編ノ規定ニ依リ爲スヘキ公告ハ官報及登記事項ノ公告ヲ掲載スヘキ新聞紙ヲ以テ之ヲ爲ス

公告ハ最終ノ掲載アリタル日ノ翌日ニ於テ其ノ效力ヲ生ス

第一百六條 裁判所ノ管轄内ニ前條第一項ノ新聞紙ナキトキハ公告ハ裁判所及破産者ノ營業所若ハ住所ノ所在地ノ出張所又ハ其ノ管轄内ノ市役所、町村役場若ハ之ニ準スヘキ公署ノ掲示場ニ掲示シテ之ヲ爲ス此ノ場合ニ於テハ公告ハ掲示ノ日ヨリ三日ヲ經過シタル後其ノ效力ヲ生ス

第一百七條 本編ノ規定ニ依リ送達ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ公告ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第一百八條 本編ノ規定ニ依リ公告ノ外送達ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ送達ハ書類ヲ郵便ニ付シテ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ公告ハ一切ノ關係人ニ對スル送達ノ效力ヲ有ス

第一百九條 法人ニ對シテ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキハ裁判所ハ職權ヲ以テ遲滯ナク囑託書ニ破産決定書ノ謄本ヲ添附シテ破産ノ登記ヲ各營業所

又ハ各事務所ノ所在地ノ登記所ニ囑託スルコトヲ要ス

第一百二十條 裁判所カ破産者ニ關スル登記アルコトヲ知リタルトキハ職權ヲ以テ遲滯ナク囑託書ニ破産決定書ノ謄本ヲ添附シテ破産ノ登記ヲ登記

所ニ囑託スルコトヲ要ス破産財團ニ屬スル權利ニシテ登記シタルモノアルコトヲ知リタルトキ亦同シ

第一百二十一條 前二條ノ規定ハ破産取消、破産廢止又ハ強制和議取消ノ決

定カ確定シタル場合及破産終結ノ決定アリタル場合ニ之ヲ準用ス破産管財人カ破産ノ登記アリタル權利ヲ破産財團ヨリ拋棄シタル場合ニ於テ登記囑託ノ申立アリタルトキ亦同シ

第一百二十二條 登記所カ前三條ノ規定ニ依リテ登記ノ囑託ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク其ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ登記ニ付テハ登録税ヲ課セス

第一百二十三條 登記ノ原因タル行爲カ否認セラレタルトキハ破産管財人ハ

否認ノ登記ヲ爲スコトヲ要ス登記カ否認セラレタルトキ亦同シ

第一百二十四條 前四條ノ規定ハ破産財團ニ屬スル權利ニシテ登録シタルモ

ノニ之ヲ準用ス

第百二十五條 法人ニ對シテ破産ノ宣告ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ法人ノ設立又ハ目的タル事業ニ付官廳ノ許可アリタルモノナルトキハ裁判所ハ破産ノ宣告アリタル旨ヲ主務官廳ニ通知スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ破産取消、破産廢止若ハ強制和議取消ノ決定カ確定シ又ハ破産終結ノ決定アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第二章 破産宣告

第百二十六條 債務者カ支拂ヲ爲スコト能ハサルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ破産ヲ宣告ス

債務者カ支拂ヲ停止シタルトキハ支拂ヲ爲スコト能ハサルモノト推定ス

第百二十七條 法人ニ對シテハ其ノ財産ヲ以テ債務ヲ完済スルコト能ハサル場合ニ於テモ亦破産ノ宣告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ合名會社及合資會社ノ存立中ハ之ヲ適用セス

第百二十八條 法人ニ對シテハ其ノ解散ノ後ト雖殘餘財產ノ引渡又ハ分配カ終了セサル間ハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第百二十九條 相續財產ヲ以テ相續債權者及受遺者ニ對スル債務ヲ完済スルコト能ハサルトキハ裁判所ハ申立ニ因リ決定ヲ以テ破産ヲ宣告ス

第百三十條 破産ノ申立又ハ破産ノ宣告アリタル後相續カ開始シタルトキハ破産手續ハ相續財產ニ對シテ之ヲ續行ス

破産ノ申立又ハ破産ノ宣告アリタル後ニ於ケル國籍ノ喪失ハ破産手續ニ關シテハ其ノ效力ヲ有セス

第百三十一條 相續財產ニ對シテハ民法第千四十一條ノ規定ニ依リ財產分離ノ請求ヲ爲スコトヲ得ル間ニ限り破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得其ノ間ニ

限定承認又ハ財產分離アリタル場合ニ於テハ相續債權者及受遺者ニ對スル辨濟カ未タ終了セサル間亦同シ

第百三十二條 債權者又ハ債務者ハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第百三十三條 民法ニ依リテ設立シタル法人又ハ產業組合ニ對シテハ理事、合名會社合資會社又ハ株式合資會社ニ對シテハ無限責任社員、株式會社又ハ相互保險會社ニ對シテハ取締役ハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ニ規定スル法人ニ對シテハ清算人モ亦破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第百三十四條 理事、無限責任社員、取締役又ハ清算人ノ全員カ破産ノ申立ヲ爲サル場合ニ於テハ破産ノ原因タル事實ヲ疏明スルコトヲ要ス

第百三十五條 前二條ノ規定ハ第百三十三條ニ規定スル法人以外ノ法人ニ之ヲ準用ス

第百三十六條 相續財產ニ對シテハ相續債權者及受遺者ノ外相續人、相續財產管理人及遺言執行人モ亦破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得

相續財產管理人、遺言執行人又ハ限定承認若ハ財產分離アリタル場合ニ於テハ相續人カ相續財產ヲ以テ相續債權者及受遺者ニ對スル債務ヲ完済スルコト能ハサルコトヲ發見シタルトキハ直ニ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ要ス

相續人、相續財產管理人又ハ遺言執行人カ破産ノ申立ヲ爲ストキハ破産ノ原因タル事實ヲ疏明スルコトヲ要ス

第百三十七條 破産申立ノ當時既ニ外國ニ於テ破産ノ宣告アリタルトキハ破産申立人ハ破産ノ原因タル事實ヲ疏明スルコトヲ要セス

第百三十八條 破産申立人カ債權者ニ非サルトキハ申立ト同時ニ財產ノ概況ヲ示スヘキ書面並債權者及債務者ノ一覽表ヲ提出スルコトヲ要ス申立ト同時ニ提出スルコト能ハサルトキハ爾後遲滯ナク之ヲ提出スルコトヲ要ス

第百三十九條 債權者カ破産ノ申立ヲ爲ス場合ニ於テハ破産手續ノ費用トシテ裁判所カ相當ト認ムル金額ノ豫納アルコトヲ要ス豫納ナキトキハ裁判所ハ其ノ申立ヲ棄却スルコトヲ得

第百四十條 破産申立人カ債權者ニ非サルトキハ破産手續ノ費用ハ假ニ國庫ヨリ之ヲ支辨ス破産申立人カ債權者ナル場合ニ於テ費用ノ豫納ナキニ拘ラス裁判所カ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキ、豫納金カ不足ナルニ至リタルトキ及裁判所カ職權ヲ以テ破産ノ宣告ヲ爲シタルトキ亦同シ

第百四十一條 破産決定書ニハ破産宣告ノ年月日時ヲ記載スルコトヲ要ス

第百四十二條 裁判所ハ破産ノ宣告ト同時ニ破産管財人ヲ選任シ且左ノ事項ヲ定ムルコトヲ要ス

一 債權届出ノ期間但シ其ノ期間ハ破産宣告ノ日ヨリ一週間以上四月以

下ナルコトヲ要ス

二 第一回ノ債權者集會ノ期日但シ其ノ期日ハ破產宣告ノ日ヨリ一月以内ナルコトヲ要ス

三 債權調査ノ期日但シ其ノ期日ト債權届出期間ノ末日トノ間ニハ一週間以上一月以下ノ期間ヲ存スルコトヲ要ス

前項第二號及第三號ノ期日ハ之ヲ併合スルコトヲ妨ケス

第一百四十三條 裁判所カ破產ノ宣告ヲ爲シタルトキハ直ニ左ノ事項ヲ公告スルコトヲ要ス

一 破產決定ノ主文

二 破產管財人ノ氏名及住所

三 前條ノ規定ニ依リ定メタル期間及期日

四 破產者ノ債務者及破產財團ニ屬スル財產ノ所持者ハ破產者ニ辨濟ヲ爲シ又ハ其ノ財產ヲ交付スヘカラサル旨及債務ヲ負擔スルコト又ハ其ノ財產ヲ所持スルコト、所持者カ別除權ヲ有スルトキハ其ノ債權ヲ有スルコト一定ノ期間内ニ破產管財人ニ届出ツヘキ旨ノ命令知レタル債權者、債務者及財團所持者ニハ前項ニ掲タル事項ヲ記載シタル書面ヲ送達スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ第一項第二號乃至第四號ニ掲タル事項ニ變更ヲ生シタル場合ニ之ヲ準用ス

第一項第四號ノ届出ヲ怠リタル者ハ之ニ因リテ破產財團ニ生シタル損害ヲ賠償スルコトヲ要ス

第一百四十四條 裁判所カ破產ノ宣告ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ檢事ニ通知スルコトヲ要ス

第一百四十五條 裁判所カ破產財團ヲ以テ破產手續ノ費用ヲ償フニ足ラスト認ムルトキハ破產ノ宣告ト同時ニ破產廢止ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス此ノ

場合ニ於テハ裁判所ハ破產決定ノ主文並破產廢止ノ決定ノ主文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ破產廢止ノ決定ノ取消カ確定シタルトキハ前三條ノ規定ヲ準用ス

組合其ノ他ノ法人ニハ之ヲ適用セス破產手續ノ費用ヲ償フニ足ルヘキ金額ノ規定ハ無限責任又ハ保證責任ノ相互保險會社、產業

額ノ豫納アリタル場合亦同シ  
第一百四十七條 破產者ハ裁判所ノ許可ヲ得ルニ非サレハ其ノ居住地ヲ離ルコトヲ得ス

第一百四十八條 裁判所ハ必要ト認ムルトキハ破產者ノ引致ヲ命スルコトヲ得致ハ引致狀ヲ發シテ之ヲ爲ス

引致ニハ刑事訴訟法中勾引ニ關スル規定ヲ準用ス

第一百四十九條 破產者カ逃走シ又ハ財產ヲ隱匿若ハ毀棄スル虞アルトキハ裁判所ハ其ノ監守ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ決定書ノ正本ヲ檢事ニ送致スルコトヲ要ス

檢事ハ破產者ノ居住地ヲ管轄スル警察官署ニ命シテ監守ヲ執行セシム

第一百五十條 監守ヲ命セラレタル破產者ハ裁判所ノ許可ヲ得ルニ非サレハ外人ト面接又ハ通信スルコトヲ得ス

第一百五十一條 監守ノ必要カ止ミタルトキハ裁判所ハ破產者若ハ破產管財人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ監守ノ決定ヲ取消スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ決定書ノ正本ヲ檢事ニ送致スルコトヲ要ス

檢事ハ警察官署ニ命シテ監守ヲ解カシム

第一百五十二條 前五條ノ規定ハ破產者ノ法定代理人、理事及之ニ準スヘキ者並支配人ニ付之ヲ準用ス相續財團ニ對スル破產ニ於テ相續人及前戸主並其ノ法定代理人及支配人ニ付亦同シ

第一百五十三條 破產者、其ノ代理人並其ノ理事及之ニ準スヘキ者ハ破產管財人、監查委員又ハ債權者集會ノ請求ニ因リ破產ニ關シ必要ナル説明ヲ爲スコトヲ要ス相續財團ニ對スル破產ニ於テ相續人、前戸主、相續財產管理人、遺言執行人並相續人及前戸主ノ代理人亦同シ

前項ノ規定ハ前ニ前項ニ規定スル資格ヲ有シタル者ニ之ヲ準用ス

第一百五十四條 破產ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ破產宣告前ト雖利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破產財團ニ關シ假差押、假處分其ノ他

ノ必要ナル保全處分ヲ命スルコトヲ得

裁判所ハ前項ノ規定ニ依ル處分ヲ變更シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲ス

第百五十六條 破産取消ノ決定カ確定シタル場合ニ於テハ裁判所ハ直ニ其

ノ主文ヲ公告スルコトヲ要ス

第百四十三條第二項、第百四十四條、第百五十一條第二項、第百五十二

條及第三百五十五條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

### 第三章 破産管財人

第百五十七條 破産管財人ハ裁判所之ヲ選任ス

第百五十八條 破産管財人ハ一人トス但シ裁判所必要ト認ムルトキハ數人

ヲ選任スルコトヲ得

第百五十九條 裁判所ハ破産管財人ニ其ノ選任ヲ證スル書面ヲ交付スルコ

トヲ要ス

破産管財人ハ其ノ職務ヲ行フニ當リ利害關係人ノ請求アルトキハ前項ノ

書面ヲ示スコトヲ要ス

第百六十條 破産管財人ハ正當ノ事由アルニ非サレハ其ノ任務ヲ辭スル

コトヲ得ス

破産管財人カ其ノ任務ヲ辭セムトスルトキハ裁判所ニ申立ヲ爲スコトヲ

要ス

第百六十一條 破産管財人ハ裁判所ノ監督ニ屬ス

第百六十二條 破産財團ニ關スル訴ニ付テハ破産管財人ヲ以テ原告又ハ被

告トス

第百六十三條 破産管財人數人アルトキハ共同シテ其ノ職務ヲ行フ但シ裁

判所ノ許可ヲ得テ職務ヲ分掌スルコトヲ得

破産管財人數人アルトキハ第三者ノ意思表示ハ其ノ一人ニ對シテ之ヲ爲

スヲ以テ足ル

第百六十四條 破産管財人ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其ノ職務ヲ行フ

コトヲ要ス

破産管財人カ前項ノ注意ヲ怠リタルトキハ其ノ破産管財人ハ利害關係人

ニ對シ連帶シテ損害賠償ノ責ニ任ス

第百六十五條 破産管財人ハ臨時故障アル場合ニ於テ其ノ職務ヲ行ハシム

ル爲自己ノ責任ヲ以テ豫メ代理人ヲ選任スルコトヲ得

前項ノ代理人ノ選任ハ裁判所ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第一百六十六條 破産管財人ハ費用ノ前拂及報酬ヲ受クルコトヲ得其ノ額ハ

裁判所之ヲ定ム

第一百六十七條 裁判所ハ債權者集會ノ決議若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ

職權ヲ以テ破産管財人ヲ解任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ破産管財人

ヲ審訊スルコトヲ要ス

第一百六十八條 破産管財人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ破産管財人又ハ其ノ

相續人ハ遲滯ナク債權者集會ニ計算ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

破産者、破産債權者又ハ後任ノ破産管財人カ債權者集會ニ於テ計算ニ付

異議ヲ述ヘサリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス

破産管財人ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲計算報告書及監査委員ノ意見

書ヲ債權者集會ノ日ヨリ三日前ニ裁判所ニ提出スルコトヲ要ス

第一百六十九條 破産管財人ノ任務終了ノ場合ニ於テ急迫ノ事情アルトキハ

破産管財人又ハ其ノ相續人ハ後任ノ破産管財人又ハ破産者カ財產ヲ管理

スルコトヲ得ルニ至ル迄必要ナル處分ヲ爲スコトヲ要ス

### 第四章 監査委員

第一百七十條 監査委員ヲ置クカ否ハ第一回ノ債權者集會ニ於テ之ヲ議決

スルコトヲ要ス但シ後ノ債權者集會ニ於テ其ノ決議ヲ變更スルコトヲ得

第一百七十一條 監査委員ハ三人以上トシ債權者集會ニ於テ之ヲ選任ス

監査委員ノ選任決議ハ裁判所ノ認可ヲ得ルコトヲ要ス

第一百七十二條 監査委員ノ職務ノ執行ハ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ表決ヲ爲スコトヲ得ス

第一百七十三條 各監査委員ハ何時ニテモ破産管財人ニ對シテ破産財團ニ關

スル報告ヲ求メ又ハ破産財團ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得

第一百七十四條 監査委員ハ何時ニテモ債權者集會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任ス

ルコトヲ得

重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ監査委員ヲ解

任スルコトヲ得

第一百七十五條 第百六十四條及第一百六十六條ノ規定ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ

第百七十六條 債權者集會ハ破産管財人若ハ監査委員ノ申立ニ因リ又ハ

職權ヲ以テ裁判所之ヲ招集ス届出ヲ爲シタル總債權ニ付裁判所ノ評價シタル額ノ五分ノ一以上ニ當ル破產債權者ノ申立アリタルトキ亦同スルコトヲ要ス

債權者集會ノ延期又ハ續行ニ付言渡アリタルトキハ送達又ハ公告ヲ爲スコトヲ要セス

債權者集會ハ裁判所之ヲ指揮ス  
第一百七十九條 債權者集會ノ決議ニハ議決權ヲ行フコトヲ得ヘキ出席破產債權者ノ過半數ニシテ其ノ債權額カ其ノ者ノ總債權ノ半額ヲ超ユル者ノ同意アルコトヲ要ス

債權者集會ノ決議ニ付特別ノ利害關係ヲ有スル者ハ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得ス

第一百八十一條 前條ノ規定ニ依リ決議ヲ爲スコト能ハサルトキト雖議決スヘキ事項ニ付同意シタル者ノ債權額カ議決權ヲ行フコトヲ得ヘキ出席破產債權者ノ總債權ノ半額ヲ超ユルトキハ裁判所ハ決定ヲ以テ決議アリタルモノト看做スコトヲ得

前項ノ決定ハ裁判所之ヲ公告スルコトヲ要ス其ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第一百八十二條 破產債權者ハ代理人ヲ以テ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ提出スルコトヲ要ス

第一百八十三條 破產債權者ハ確定債權額ニ應シテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得未確定債權、停止條件附債權、將來ノ請求權又ハ別除權ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサルヘキ債權額ニ付破產管財人又ハ破產債權者ノ異議アルトキハ裁判所ハ議決權ヲ行ハシムヘキカ否及如何ナル金額ニ付之ヲ行ハシムヘキカラ定ム

裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ何時ニテモ前項ノ規定ニ依ル決定ヲ變更スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル決定ハ其ノ言渡アリタルトキハ送達ヲ爲スコトヲ要セス其ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第一百八十三條 債權者集會ノ決議ハ之ヲ以テ監查委員ノ同意ニ代フルコトヲ得

第一百八十四條 債權者集會ノ決議カ破產債權者ノ一般ノ利益ニ反スルトキハ裁判所ハ破產管財人、監查委員若ハ破產債權者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ其ノ決議ノ執行ヲ禁止スルコトヲ要ス

議決權ヲ有セサリシ破產債權者カ前項ノ申立ヲ爲スニハ其ノ破產債權者タルコトヲ疏明スルコトヲ要ス  
第一項ノ規定ニ依ル禁止決定ハ其ノ言渡アリタルトキハ送達ヲ爲スコトヲ要セス

#### 第六章 破產財團ノ管理及換價

第一百八十五條 破產管財人ハ就職ノ後直ニ破產財團ニ屬スル財產ノ占有及管理ニ著手スルコトヲ要ス

第一百八十六條 破產管財人必要ト認ムルトキハ裁判所書記、執達吏又ハ公證人ヲシテ破產財團ニ屬スル財產ニ封印ヲ爲サシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ封印ヲ爲シタル者ハ調書ヲ作ルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ封印除去ノ場合ニ之ヲ準用ス

第一百八十七條 裁判所書記ハ破產宣告ノ後直ニ破產者ノ財產ニ關スル帳簿ヲ閉鎖シ之ニ署名捺印シ且調書ヲ作リ之ニ帳簿ノ現狀ヲ記載スルコトヲ要ス

第一百八十八條 破產管財人ハ遲滯ナク裁判所書記、執達吏又ハ公證人ノ立合ニ於テハ遲滯ノ虞アル場合ヲ除クノ外破產者ノ立會ヲ求ムルコトヲ要ス

ス

第一百八十九條 破產管財人ハ財產目錄及貸借對照表ヲ作ルコトヲ要ス  
破產管財人ハ財產目錄及貸借對照表ノ謄本ニ署名捺印シ之ヲ裁判所ニ提出スルコトヲ要ス

利害關係人ハ前項ニ規定スル書類ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第一百九十分 裁判所ハ通信官署又ハ公衆通信取扱所ニ對シ破產者ニ宛テタル郵便物又ハ電報ヲ破產管財人ニ配達スヘキ旨ヲ囑託スルコトヲ要ス  
破產管財人ハ其ノ受取リタル前項ノ郵便物又ハ電報ノ開披ヲ爲スコ

トヲ得

破産者ハ前項ノ郵便物又ハ電報ノ閲覽ヲ求メ且破産財團ニ關セサルモノノ交付ヲ求ムルコトヲ得

第一百九十一條 裁判所ハ破産者ノ申立ニ因リ破産管財人ノ意見ヲ聽キ前條

第一項ノ囑託ヲ取消シ又ハ之ヲ制限スルコトヲ得

破産取消若ハ破産廢止ノ決定カ確定シタルトキ又ハ破産終結ノ決定アリタルトキハ裁判所ハ前條第一項ノ囑託ヲ取消スコトヲ要ス

第一百九十二條 第一回ノ債權者集會前ニ於テハ破産管財人ハ裁判所ノ許可

ヲ得テ破産者及之ニ扶養セラル者ニ扶助料ヲ與ヘ又ハ破産者ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得

貨幣、有價證券其ノ他ノ高價品ノ保管方法ハ裁判所之ヲ定ム

第一百九十三條 破産管財人ハ破産宣告ニ至リタル事情並破産者及破産財團ニ關スル經過及現狀ニ付第一回ノ債權者集會ニ報告ヲ爲スコトヲ要ス

第一百九十四條 第一回ノ債權者集會ニ於テハ扶助料ノ給與、營業ノ廢止又ハ繼續及高價品ノ保管方法ニ付決議ヲ爲スコトヲ要ス

第一百九十五條 破産管財人ハ別除權者ニ對シ其ノ權利ノ目的タル財產ヲ示スヘキコトヲ求ムルコトヲ得

第一百九十六條 一般ノ債權調査ノ終了前ニ於テハ破産管財人ハ破産財團ノ換價ヲ爲スコトヲ得ス一般ノ債權調査ノ終了前強制和議ノ提供アリタル

場合ニ於テ其ノ落著ニ至ル迄亦同シ  
破産財團ニ屬スル財產ニシテ遲滯ナク之ヲ換價スルニ非サレハ破産財團ニ損害ヲ生スル虞アルモノハ前項ノ規定ニ拘ラス監査委員ノ同意、監査委員ナキトキハ裁判所ノ許可ヲ得テ破産管財人其ノ換價ヲ爲スコトヲ得

第一百九十七條 破産管財人左ニ掲タル行為ヲ爲スニハ監査委員ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス但シ第七號乃至第十四號ニ掲タル行為ニ付千圓以上ノ價額

ヲ有スルモノニ關セサルトキハ此ノ限ニ在ラス

一 不動產ニ關スル物權、登記スヘキ日本船舶及外國船舶ノ任意賣却  
二 鑛業權、漁業權、特許權、意匠權、實用新案權及著作權ノ任意賣却  
三 營業ノ讓渡

四 商品ノ一括賣却

五 借財  
六 第九條第二項ノ規定ニ依ル相續拋棄ノ承認、第十條ノ規定ニ依ル包括遺贈拋棄ノ承認及第十一條第一項ノ規定ニ依ル特定遺贈ノ拋棄

七 動產ノ任意賣却  
八 債權及有價證券ノ讓渡  
九 第五十九條第一項ノ規定ニ依ル履行ノ請求  
十 訴ノ提起

十一 和解及仲裁契約  
十二 權利ノ拋棄

十三 財團債權、取戻權及別除權ノ承認  
十四 別除權ノ目的ノ受戻

第百九十八條 第一回ノ債權者集會前ニ於テ前條ノ規定ニ依リ監査委員ノ同意ヲ要スル行為ヲ爲スノ必要アルトキハ破産管財人ハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

監査委員ヲ置カサル場合ニ於テハ破産管財人ハ債權者集會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス但シ急迫ノ必要アルトキハ裁判所ノ許可ヲ得ルヲ以テ足ル

第百九十九條 前二條ノ場合ニ於テ破産管財人ハ遲滯ノ虞アル場合ヲ除クノ外破産者ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

第二百條 破産管財人カ第百九十七條ニ掲タル行為ヲ爲スニ付監査委員ノ同意ヲ得タルトキト雖裁判所ハ破産者ノ申立ニ因リ其ノ行為ノ執行ノ中止ヲ命シ且其ノ行為ニ關スル決議ヲ爲サシムル爲債權者集會ヲ招集スルコトヲ得

第二百一條 破産管財人カ第百九十六條乃至第百九十八條ノ規定ニ違反シ又ハ前條ノ規定ニ依ル執行中止ノ命令ニ違反シタルトキト雖之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二百二條 第百九十七條第一號及第二號ニ掲タルモノノ換價ハ民事訴訟法ニ依リテ之ヲ爲ス

第二百三條 破産管財人ハ民事訴訟法ニ依リ別除權ノ目的タル財產ノ換價ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ別除權者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ別除權者ノ受クヘキ金額カ未タ確定セサルトキハ破產

管財人ハ代金ヲ別ニ寄託スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ別除權ハ代金

ノ上ニ存ス

第二百四條 別除權者カ法律ニ定メタル方法ニ依ラシテ別除權ノ目的ヲ

處分スル權利ヲ有スルトキハ裁判所ハ破産管財人ノ申立ニ因リ別除權者

カ其ノ處分ヲ爲スヘキ期間ヲ定ム

別除權者カ前項ノ期間内ニ處分ヲ爲ササルトキハ前項ノ權利ヲ失フ

第二百五條 破産管財人ハ債權者集會ノ定ムル所ニ依リ債權者集會又ハ監

查委員ニ破産財團ノ狀況ヲ報告スルコトヲ要ス

第二百六條 破産管財人カ其ノ寄託シタル貨幣、有價證券其ノ他ノ高價品

ノ返還ヲ求ムルニハ監査委員ノ同意、監査委員ナキトキハ裁判所ノ許可

ヲ得ルコトヲ要ス但シ債權者集會ニ於テ別段ノ決議ヲ爲シタルトキハ其

ノ決議ニ依ル

破産管財人カ前項ノ規定ニ違反シタル場合ニ於テ受寄者カ善意ニシテ且

過失ナキトキハ辨濟ハ其ノ效力ヲ有ス

前二項ノ規定ハ破産管財人カ受寄者ヲシテ支拂其ノ他ノ給付ヲ爲サシム

ル爲證券ヲ發行スル場合ニ之ヲ準用ス

第二百七條 商法第九十二條ノ規定ハ法人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ

之ヲ準用ス相互保險會社カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ基金ノ支拂

ニ付亦同シ

第二百八條 無限責任又ハ保證責任ノ相互保險會社カ破産ノ宣告ヲ受ケタ

ルトキハ破産管財人ハ損失分擔ノ割合ニ應シ會社ノ責務ヲ辨濟スルニ必

要ナル金額ヲ社員ニ賦課スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ社員中ニ無資力者アルトキハ其ノ負擔スヘキ金額ハ他

ノ社員之ヲ負擔ス

第二百九條 前條ノ場合ニ於テハ破産管財人ハ第一百八十九條第二項ノ規定

ニ依リ財產目錄及貸借對照表ノ謄本ヲ裁判所ニ提出シタル後直ニ計算表

ヲ作リ之ニ各社員ノ氏名、住所及負擔額ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百十條 破産管財人ハ前條ノ計算表ニ主務官廳カ認證シタル定款ノ謄

本ヲ添附シ之ヲ裁判所ニ提出シテ其ノ認可ヲ申請スルコトヲ要ス

破産ノ宣告ヲ受ケタル相互保險會社ニ關スル登記簿カ破産裁判所タル區  
裁判所ノ出張所ニ在ルトキハ登記所カ交付シタル社員名簿ノ謄本ヲ申請

書ニ添附スルコトヲ要ス  
第二百十一條 前條ノ申請アリタルトキハ裁判所ハ計算表ニ記載シタル社員ヲ呼出ス爲期日ヲ定メ之ヲ公告スルコトヲ要ス

裁判所ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲期日ヨリ三日前ニ計算表ヲ備へ置  
クコトヲ要ス

第二百十二條 裁判所ハ前條ノ期日ニ於テ相互保險會社ノ取締役、監査役、  
破産管財人及監査委員ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

社員ハ期日ニ於テ異議ヲ述フルコトヲ得  
第二百十三條 裁判所ハ社員ノ異議ヲ理由アリトスルトキ其ノ他必要ト認  
ムルトキハ計算表ヲ更正シ又ハ破産管財人ヲシテ之ヲ更正セシメタル後  
計算表認可ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

計算表認可ノ決定ハ期日又ハ直ニ言渡シタル一週間内ノ期日ニ於テ之ヲ  
言渡スコトヲ要ス

計算表認可ノ決定書ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲計算表ト共ニ之ヲ備  
ヘ置クコトヲ要ス

第二百十四條 第二百十一條第一項及前條第一項第二項ノ規定ニ依ル決定  
ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二百十五條 計算表認可ノ決定アリタルトキハ破産管財人ハ遲滯ナク各  
社員ヲシテ其ノ負擔額ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第二百十六條 各社員ハ計算表認可ノ決定言渡ノ日ヨリ一月ノ不變期間内  
依ル訴ハ第二百四十五條ニ定ムル裁判所ノ管轄ニ專屬ス

ニ破産管財人ニ對シ計算表ニ付異議ノ訴ヲ提起スルコトヲ得  
異議ノ訴ハ期日ニ於テ其ノ理由ヲ主張シタルトキ又ハ過失ナクシテ之ヲ  
主張スルコト能ハサリシコトヲ疏明スルニ非サレハ之ヲ提起スルコトヲ  
得ス

第二百十七條 前條ノ異議ノ訴ハ破産裁判所ノ管轄ニ專屬ス但シ訴訟ノ目  
的ノ價額カ區裁判所ノ權限ヲ超ユル場合ニ於テ本案ノ議論前ニ當事者ノ  
申立アリタルトキハ決定ヲ以テ破産裁判所ノ所在地ヲ管轄スル地方裁判

所ニ一切ノ事件ヲ移送スルコトヲ要ス

前項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得其ノ抗告期間ハ決定言渡ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第一項ノ決定カ確定シタルトキハ事件ハ地方裁判所ニ繫屬ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ノ訴訟手續ニ關スル費用ハ之ヲ地方裁判所ノ訴訟手續ニ

關スル費用ノ一部ト看做ス

第二百十八條 第二百十六條第一項ノ期間ハ異議ノ訴ニ付口頭辯論ヲ開ク

數個ノ訴ノ辯論及裁判ハ併合シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百十九條 強制執行ノ停止及續行並執行處分ノ取消ニ付テハ民事訴訟法第五百四十七條及第五百四十八條ノ規定ヲ準用ス

第二百二十條 異議ノ訴ニ付爲シタル判決ハ社員ノ全員ニ對シテ其ノ效力ヲ有ス

第二百二十一條 社員ノ無資力、異議ノ訴其ノ他ノ理由ニ因リ社員ニ對スル賦課ヲ必要トズルトキハ破産管財人ハ更ニ計算表ヲ作ルコトヲ要ス

第二百二十二條 最後ノ配當ノ許可アリタルトキハ破産管財人ハ最後ノ計算表ヲ作ルコトヲ要ス

第二百二十三條 最後ノ計算表ニ依リ全部ノ辨濟ヲ爲スニ足ルヘキ金額ヲ得ルコト能ハサルトキハ破産管財人ハ更ニ計算表ヲ作ルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ脱退シタル社員ニ對シテモ亦其ノ責任ノ限度内ニ於テ賦課ヲ爲スコトヲ得

第二百二十四條 前十六條ノ規定ハ無限責任又ハ保證責任ノ産業組合其ノ他ノ法人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十五條 匿名組合契約カ營業者ノ破産ニ因リテ終了シタルトキハ破産管財人ハ匿名組合員カ負擔スヘキ損失ノ額ヲ限度トシテ出資ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百二十六條 相續人カ破産ノ宣告ヲ受ケタル後限定承認ヲ爲シタルトキ又ハ財產分離アリタルトキハ相續財產ノ處分ハ財產管財人之ヲ爲スコトヲ要ス限定承認又ハ財產分離アリタル後相續人カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキ亦同シ

破産管財人カ前項ノ處分ヲ終ヘタルトキハ殘餘財產ニ付破產財團ノ財產

## 目錄及貸借對照表ヲ補充スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ包括受遺者カ破産ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百二十七條 前條ノ規定ハ第八條又ハ第九條第一項ノ規定ニ依リ限定承認ノ效力ヲ有スル場合ニ之ヲ準用ス

## 第七章 破產債權ノ届出及調查

第二百二十八條 破產債權者ハ裁判所ノ定メタル期間内ニ其ノ債權ノ額及

原因、一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權アルトキハ其ノ權利ヲ裁判所ニ届出テ且證據書類又ハ其ノ證本若ハ抄本ヲ提出スルコトヲ要ス

別除權者ハ前項ニ規定スル事項ノ外別除權ノ目的及其ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサルヘキ債權額ヲ届出ツルコトヲ要ス

破產債權ニ付破產宣告ノ當時訴訟カ繫屬スルトキハ第一項ニ規定スル事項ノ外裁判所、件名及番號ヲ届出ツルコトヲ要ス

第二百二十九條 裁判所書記ハ債權表ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 債權者ノ氏名及住所  
二 債權ノ額及原因

三 優先權アルトキハ其ノ權利

四 別除權者カ前條第二項ノ規定ニ依リテ届出タル債權額

裁判所書記ハ債權表ノ證本ヲ破產管財人ニ交付スルコトヲ要ス

第二百三十條 債權ノ届出ニ關スル書類及債權表ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲之ヲ裁判所ニ備へ置クコトヲ要ス

第二百三十一條 債權調査ノ期日ニ於テハ届出アリタル各債權ニ付第二百二十九條第一項ニ掲タル事項ヲ調査ス

第二百三十二條 破產者ハ債權調査ノ期日ニ出頭シテ意見ヲ述フルコトヲ要ス但シ正當ノ事由アルトキハ代理人ヲ出頭セシムルコトヲ得

届出ヲ爲シタル破產債權者又ハ其ノ代理人ハ債權調査ノ期日ニ出頭シテ意見ヲ述フルコトヲ得

第二百三十三條 債權ノ調査ハ破產管財人出頭スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第二百三十四條 期間後ニ届出アリタル債權ニ付テハ破產管財人及破產債權者ノ異議アル場合ヲ除クノ外債權調査ノ一般期日ニ於テ其ノ調査ヲ爲

スコトヲ得

破産管財人又ハ破産債權者ノ異議アリタルトキハ裁判所ハ前項ノ債權ノ調査ヲ爲ス爲特別期日ヲ定ムルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ費用ハ期間後ニ届出ヲ爲シタル破産債權者ノ負擔トス

第二百三十五條 前項ノ規定ハ破産債權者カ届出テタル事項ニ付届出期間後他ノ破産債權者ノ利益ヲ害スヘキ變更ヲ加ヘタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十六條 第二百三十四條第二項ノ規定ハ破産債權者カ債權調査ノ一般期日後ニ債權ノ届出ヲ爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二百三十七條 債權調査ノ特別期日ヲ定ムル決定ハ之ヲ公告シ且破産管財人、破産者及届出ヲ爲シタル破産債權者ニ之ヲ送達スバコトヲ要ス

第二百三十八條 前條ノ規定ハ債權調査ノ期日ノ變更並債權調査ノ延期及續行ニ之ヲ準用ス但シ言渡アリタルトキハ公告及送達ヲ爲スコトヲ要セス

第二百三十九條 前二條ノ規定ニ依ル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二百四十條 債權調査ノ期日ニ於テ破産管財人及破産債權者ノ異議ナカリシトキハ債權ノ額及優先權ハ之ニ因リテ確定ス

破産者カ異議ヲ述ヘタル債權ニ付破産宣告ノ當時訴訟カ繫屬スルトキハ債權者ハ破産者ヲ相手方トシテ之ヲ受繼クコトヲ得

第二百四十一條 裁判所ハ債權調査ノ結果ヲ債權表ニ記載スルコトヲ要ス破産者ノ述ヘタル異議亦同シ

裁判所書記ハ確定シタル債權ノ證書ニ確定ノ旨ヲ記載シ裁判所ノ印ヲ押捺スルコトヲ要ス

第二百四十二條 確定債權ニ付テハ債權表ノ記載ハ破産債權者ノ全員ニ對シ確定判決ト同一ノ效力ヲ有ス

第二百四十三條 破産債權者カ債權調査ノ期日ニ出頭セナル場合ニ於テ其ノ債權ニ付異議アリタルトキハ裁判所ハ之ヲ其ノ債權者ニ通知スルコトヲ要ス

第二百四十四條 第一項ノ規定ハ前項ノ通知ニ之ヲ準用ス

第二百四十五條 確定債權ニ付テハ其ノ債權者ハ異議者ニ對シ訴ヲ以テ其ノ債權ノ確定ヲ求ムルコトヲ得

異議者數人アルトキハ之ヲ共同被告トス破産者カ異議者ノ一人ナルトキ

亦同シ

裁判所ハ債權者ニ其ノ債權ニ關スル債權表ノ抄本ヲ交付スルコトヲ要ス

第二百四十六條 異議アル債權ニ付破産宣告ノ當時訴訟カ繫屬スル場合ニ於テ債權者カ其ノ債權ノ確定ヲ求メムトスルトキハ異議者ヲ相手方トシテ訴訟ヲ受繼クコトヲ要ス

第二百四十七條 破産債權者ハ第二百四十一條第一項ノ規定ニ依リ債權表ニ記載シタル事項ニ付テノミ債權確定ノ訴ヲ提起シ又ハ第二百四十條第二項若ハ前條ノ規定ニ依リ訴訟ヲ受繼クコトヲ得

第二百四十八條 執行力アル債務名義又ハ終局判決アル債權ニ付テハ異議者ハ破産者カ爲スコトヲ得ヘキ訴訟手續ニ依リテノミ其ノ異議ヲ主張スルコトヲ得ス

第二百四十四條 第二項第三項、第二百四十六條及前條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二百四十九條 裁判所ハ破産管財人又ハ破産債權者ノ申立ニ因リ債權ノ確定ニ關スル訴訟ノ結果ヲ債權表ニ記載スルコトヲ要ス

第二百五十條 債權ノ確定ニ關スル訴訟ニ付爲シタル判決ハ破産債權者ノ全員ニ對シテ其ノ效力ヲ有ス

第二百五十一條 破産財團カ債權ノ確定ニ關スル訴訟ニ因リテ利益ヲ受ケタルトキハ異議ヲ主張シタル破産債權者ハ其ノ利益ノ限度ニ於テ財團債權者トシテ訴訟費用ノ償還ヲ請求スルコトヲ得

第二百五十二條 債權ノ確定ニ關スル訴訟ノ目的ノ價額ハ配當ノ豫定額ヲ標準トシ受訴裁判所之ヲ定ム

第二百五十三條 公訴附帶ノ私訴ニ付テハ第二百四十六條又ハ第二百四十八條ノ規定ニ依リ訴訟ヲ受繼キ、上訴ヲ爲シ又ハ再審ノ訴ヲ提起スルコトヲ得ス

公訴附帶ノ私訴ノ目的タル債權ニ付破産者カ異議者ノ一人ナル場合ニ於テハ之ヲ共同被告トスルコトヲ得ス

第二百五十四條 第三十八條第四號ニ掲クル請求權ニ付テハ國又ハ公共團體ハ遲滯ナク其ノ額及原因ヲ裁判所ニ届出ツルコトヲ要ス

第二百四十一條第一項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ届出アリタル請求權ニ付之ヲ準用ス

第二百五十五條 前條第一項ノ規定ニ依リ届出アリタル請求權ノ原因カ訴願又ハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ヘキ處分ナルトキハ裁判所ハ遲滯ナク其ノ請求權ノ額及原因ヲ破産管財人ニ通知スルコトヲ要ス

第二百四十八條乃至第二百五十條ノ規定ハ破産管財人カ異議ヲ主張スル場合ニ之ヲ準用ス

## 第八章 配當

第二百五十六條 一般ノ債權調査終了後ニ於テハ破産管財人配當スルニ適當ナル金錢アリト認ムル毎ニ遲滯ナク配當ヲ爲スコトヲ要ス

第二百五十七條 破産管財人配當ヲ爲スニハ監査委員ノ同意、監査委員ナキトキハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第二百五十八條 破産管財人ハ配當表ヲ作リ之ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 配當ニ加フヘキ債權者ノ氏名及住所

二 配當ニ加フヘキ債權ノ額

三 配當スルコトヲ得ヘキ金額

配當ニ加フヘキ債權ハ優先權ノ有無ニ依リテ之ヲ區別シ優先權アルモノニ付テハ其ノ順位ニ從ヒテ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第二百五十九條 破産管財人ハ利害關係人ノ閲覽ニ供スル爲配當表ヲ裁判所ニ提出スルコトヲ要ス

第二百六十條 破産管財人ハ配當ニ加フヘキ債權ノ總額及配當スルコトヲ得ヘキ金額ヲ公告スルコトヲ要ス

第二百六十一條 異議アル債權ニ付テハ債權者カ配當ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間内ニ破産管財人ニ對シ其ノ債權ノ確定ニ關スル訴ノ提起又ハ訴訟ノ受繼ヲ爲シタルコトヲ證明セサルトキハ其ノ配當ヨリ除斥セラル

第二百六十二條 別除權者カ前條ニ定ムル除斥期間内ニ破産管財人ニ對シ其ノ權利ノ目的ノ處分ニ著手シタルコトヲ證明シ且其ノ處分ニ依リテ辨

濟ヲ受クルコト能ハサルヘキ債權額ヲ疏明セサルトキハ配當ヨリ除斥セラル

第二百六十三條 左ノ場合ニ於テハ破産管財人ハ直ニ配當表ヲ更正スルコトヲ要ス

一 債權表ヲ更正スヘキ事由カ除斥期間内ニ生シタルトキ

二 前二條ニ定ムル事項ノ證明及疏明アリタルトキ

三 別除權者カ除斥期間内ニ破産管財人ニ對シ其ノ權利拋棄ノ意思ヲ表示シ又ハ其ノ權利ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサリシ債權額

ヲ説明シタルトキ

第二百六十四條 債權者ハ配當表ニ對シ除斥期間經過ノ後一週間内ニ限り裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

裁判所カ配當表ノ更正ヲ命シタルトキハ其ノ決定書ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲之ヲ備へ置クコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ抗告期間ハ決定書ヲ備ヘタル日ヨリ之ヲ起算ス

第二百六十五條 破産管財人ハ前條第一項ニ定ムル期間經過シタル後ハ異議ノ申立アリタルトキハ其ノ決定アリタル後遲滯ナク配當率ヲ定メ配當ニ加フヘキ各債權者ニ對シテ其ノ通知ヲ發スルコトヲ要ス

配當率ヲ定ムルニハ監査委員ノ同意、監査委員ナキトキハ裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第二百六十六條 解除條件附債權ヲ有スル者ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ配當ヲ受クルコトヲ得ス

第二百六十七條 強制和議ノ提供アリタルトキハ裁判所ハ破産管財人カ未タ配當率ノ通知ヲ發セサル場合ニ限り提供者ノ申立ニ因リ其ノ配當ノ中止ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ公告スルコトヲ要ス

第二百六十八條 前條ノ規定ニ依リ配當ノ中止ヲ命シタル場合ニ於テ強制和議ノ提供ノ棄却若ハ其ノ不認可ノ決定カ確定シタルトキ又ハ債權者集會ニ於テ強制和議ヲ否決シタルトキハ裁判所ハ配當手續ヲ續行スヘキコトヲ命ス此ノ場合ニ於テハ其ノ旨ヲ公告スルコトヲ要ス

第二百六十九條 債權者ハ破産管財人ニ就キ配當ヲ受クルコトヲ要ス  
破産管財人カ配當ヲ爲シタルトキハ債權表及債權ノ證書ニ配當シタル金額ヲ記入シ之ニ記名捺印スルコトヲ要ス

第二百七十條 第二百六十一條又ハ第二百六十二條ニ定ムル事項ヲ證明  
又ハ疏明セサルニ因リテ配當ヨリ除斥セラレタル債權者カ後ノ配當ニ關  
スル除斥期間内ニ其ノ證明又ハ疏明ヲ爲シタルトキハ前ノ配當ニ於テ受  
クヘカリシ額ニ付他ノ同順位ノ債權者ニ先チテ配當ヲ受クルコトヲ得  
第二百七十一條 左ニ掲タル債權ニ對スル配當額ハ破產管財人之ヲ寄託ス  
ルコトヲ要ス

一 第二百四十四條、第二百四十六條又ハ第二百四十八條ノ規定ニ依リ  
異議アル債權ニ付訴ノ提起又ハ訴訟ノ受繼アリタルモノ  
二 配當率ノ通知ヲ發スル前ニ訴願又ハ行政訴訟ノ落著セサル債權  
三 第二百六十二條ノ規定ニ依リ別除權者カ疏明シタル債權額

四 停止條件附債權及將來ノ請求權

五 第二百六十六條ノ規定ニ依リ擔保ヲ供セサル場合ニ於ケル解除條件  
附債權

第二百七十二條 破產管財人最後ノ配當ヲ爲スニハ監査委員ノ同意アリタ  
ルトキト雖裁判所ノ許可ヲ得ルコトヲ要ス

第二百七十三條 最後ノ配當ニ關スル除斥期間ハ配當ノ公告アリタル日ヨ  
リ起算シテ二週間以上一月内ニ於テ裁判所之ヲ定ム此ノ決定ニ對シテハ  
不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第二百七十四條 最後ノ配當ニ在リテハ破產管財人ハ配當表ニ對スル異議  
落著ノ後遲滯ナク各債權者ニ對スル配當額ヲ定メ其ノ通知ヲ發スルコト  
不<sup>ヲ</sup>要ス

第二百七十五條 停止條件附債權又ハ將來ノ請求權カ最後ノ配當ニ關スル  
除斥期間内ニ之ヲ行使スルコトヲ得ルニ至ラサルトキハ其ノ債權者ハ配  
當ヨリ除斥セラル

第二百七十六條 解除條件附債權ノ條件カ最後ノ配當ニ關スル除斥期間内  
ニ成就セサルトキハ第二百六十六條ノ規定ニ依リテ供シタル擔保ハ其ノ  
效力ヲ失ヒ第二百七十一條第五號ノ規定ニ依リテ寄託シタル金額ハ之ヲ  
其ノ債權者ニ支拂フコトヲ要ス第百一條ノ規定ニ依リテ供シタル擔保又  
ハ寄託シタル金額亦同シ

第二百七十七條 別除權者カ最後ノ配當ニ關スル除斥期間内ニ破產管財人  
ニ對シ其ノ權利拋棄ノ意思ヲ表示セス又ハ其ノ權利ノ行使ニ依リテ辨濟

第二百八十七條 確定債權ニ付テハ破產者カ債權調査ノ期日ニ於テ其ノ債  
得ス

第三條 受クルコト能ハサリシ債權額ヲ證明セサルトキハ配當ヨリ除斥セラル  
債權者ノ爲ニ寄託シタル金額ハ之ヲ他ノ債權者ニ配當スルコトヲ要ス第  
二百七十九條 配當額ノ通知ヲ發スル前新ニ配當ニ充ツヘキ財產アルニ  
至リタルトキハ破產管財人ハ遲滯ナク配當表ヲ更正スルコトヲ要ス  
第二百八十條 左ニ掲タル配當額ハ債權者ノ爲破產管財人之ヲ供託スル  
百條ノ規定ニ依リテ寄託シタル金額亦同シ

第二百八十一條 計算報告ノ爲ニ招集シタル債權者集會ニ於テハ破產管財  
人カ價值ナキ爲換價セサリシ財產ノ處分ニ付決議ヲ爲スコトヲ要ス

第二百八十二條 債權者集會終結シタルトキハ裁判所ハ破產終結ノ決定ヲ  
爲シ且其ノ主文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス

第二百八十三條 配當額ノ通知ヲ發シタル後新ニ配當ニ充ツヘキ相當ノ財  
產アルニ至リタルトキハ破產管財人ハ裁判所ノ許可ヲ得テ追加配當ヲ爲  
スコトヲ要ス破產終結ノ決定アリタル後ト雖亦同シ

第二百八十四條 追加配當ノ許可ヲ得タルトキハ遲滯ナク配當スルコトヲ得ヘ  
キ金額ヲ公告シ且各債權者ニ對スル配當額ヲ定メ其ノ通知ヲ發スルコト  
ヲ要ス

第二百八十五条 破產管財人追加配當ヲ爲シタルトキハ遲滯ナク計算報告  
書ヲ作リ之ヲ裁判所ニ提出シテ其ノ認可ヲ申請スルコトヲ要ス

第二百八十六條 配當率又ハ配當額ノ通知ヲ發スル前破產管財人ニ知レサ  
ル財團債權者ハ各配當ニ於テ配當スヘキ金額ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ  
得ス

第二百八十七條 確定債權ニ付テハ破產者カ債權調査ノ期日ニ於テ其ノ債

權ニ對シテ異議ヲ述ヘサリシ場合ニ限リ債權表ノ記載ハ破產者ニ對シ確定期決ト同一ノ效力ヲ有ス  
債權者ハ破產終結ノ後債權表ノ記載ニ基キテ強制執行ヲ爲スコトヲ得此  
ノ場合ニ於テハ第二百五條第三項及民事訴訟法第五百十六條乃至第五百五十八條ノ規定ヲ準用ス  
第二百八十八條 破產者カ天災其ノ他避クヘカラサル事變ノ爲債權調査ノ期日ニ出頭スルコト能ハサリシトキハ破產裁判所ニ原狀回復ノ申立ヲ爲スコトヲ得  
裁判所ハ職權ヲ以テ破產者ノ異議アル債權ノ債權者ニ原狀回復ノ申立書ヲ送達スルコトヲ要ス  
裁判所原狀回復ヲ許シタルトキハ破產者カ債權調査ノ期日ニ於テ異議ヲ述ヘタルト同一ノ效力ヲ生ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ債權表ニ異議ノ記載ヲ爲スコトヲ要ス  
民事訴訟法第二百七十五條及第二百七十六條第二項ノ規定ハ第一項ニ定ムル原狀回復ニ付之ヲ準用ス  
第二百八十九條 相續財產ニ對シテ破產ノ宣告アリタル場合ニ於テ最後ノ配當ヨリ除斥セラレタル相續債權者及受遺者ハ殘餘財產ニ付其ノ權利ヲ行フコトヲ得

### 第九章 強制和議

第二百九十條 破產者ハ何時ニテモ強制和議ノ提供ヲ爲スコトヲ得  
第二百九十一條 強制和議ノ提供ハ法人ニ在リテハ理事又ハ之ニ準スヘキ者ノ一致アルコトヲ要ス  
第二百九十二條 強制和議ノ提供ハ相續財產ニ在リテハ相續人之ヲ爲シ相續人數人アルトキハ其ノ一致アルコトヲ要ス  
第二百九十三條 一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權ヲ有スル者ハ強制和議ニ付テハ之ヲ破產債權者ト看做サス  
第二百九十四條 強制和議ノ提供ヲ爲スニハ提供者ハ辨濟ノ方法、擔保ヲ供セムトスルトキハ其ノ擔保其ノ他強制和議ノ條件ヲ裁判所ニ申出ツルコトヲ要ス  
第二百九十五條 強制和議ノ提供者ノ所在不明ナルトキ又ハ詐欺破產ノ公訴繁盛スルトキハ強制和議ヲ爲スコトヲ得ス詐欺破產ニ付有罪ノ判決確定

定シタルトキ亦同シ

第二百九十六條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ破產管財人及監查委員ノ意見ヲ聽キ強制和議ノ提供ヲ棄却スルコトヲ得

一 債權者集會ニ於テ強制和議ヲ否決シタルコトアルトキ  
二 強制和議ノ爲ニスル債權者集會ノ期日公告後ニ其ノ提供ヲ撤回シタルコトアルトキ

三 強制和議不認可ノ決定ヲ爲シタルコトアルトキ  
四 強制和議取消ノ決定ヲ爲シタルコトアルトキ  
アルトキハ之ヲシテ意見書ヲ提出セシムルコトヲ要ス

第二百九十七條 裁判所強制和議ノ提供ヲ棄却セサル場合ニ於テ監查委員アルトキハ之ヲシテ意見書ヲ提出セシムルコトヲ要ス

第二百九十八條 強制和議ノ提供ニ關スル書類及監查委員ノ意見書ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲之ヲ裁判所ニ備へ置クコトヲ要ス

第二百九十九條 強制和議ノ爲ニスル債權者集會ノ期日ハ其ノ決定公告ノ日ヨリ一月内ニ於テ之ヲ定ムルコトヲ要ス

期日ニハ届出ヲ爲シタル破產債權者、強制和議ノ提供者、強制和議ノ爲ニ保證人ト爲リ其ノ他破產者ト共ニ債務ヲ負擔シ又ハ破產債權者ノ爲ニ擔保ヲ供スル者、破產管財人及監查委員ヲ呼出スコトヲ要ス

前項ニ規定スル者ニハ強制和議ノ條件及監查委員ノ意見ノ要領ヲ記載シタル書面ヲ送達スルコトヲ要ス

第三百條 裁判所ハ強制和議ノ提供者及監查委員ノ申立ニ因リ強制和議ノ爲ニスル債權者集會ノ期日ヲ債權調査ノ一般期日ト併合スルコトヲ得  
第三百一條 強制和議ノ提供者ハ期日ニ出頭シテ強制和議ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス但シ正當ノ事由アルトキハ代理人ヲ出頭セシムルコトヲ得

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ提出スルコトヲ要ス

強制和議ノ提供者又ハ其ノ代理人期日ニ出頭シテ強制和議ノ申立ヲ爲サルトキハ其ノ提供ヲ撤回シタルモノト看做ス

第三百二條 強制和議ノ提供者ハ破產債權者ヲ利スル場合ニ限リ債權者集會ニ於テ其ノ條件ヲ變更スルコトヲ得

第三百三條 強制和議ハ一般ノ債權調査ノ終了前又ハ最後ノ配當ノ許可アリタル後ハ之ヲ決議スルコトヲ得ス

第三百四條 強制和議ノ條件ハ各破產債權者ニ付平等ナルコトヲ要ス但シ

不利益ヲ受クル者ノ同意アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三百五條 強制和議ノ提供者又ハ第三者カ強制和議ノ條件ニ依ラスシテ  
或破産債權者ニ特別ノ利益ヲ與フル行爲ハ之ヲ無效トス

第三百六條 強制和議ヲ可決スルニハ議決權ヲ行フコトヲ得ヘキ出席破產  
債權者ノ過半數ニシテ其ノ債權額カ届出ヲ爲シタル破產債權者ノ總債權  
ノ四分ノ三以上ニ當ル者ノ同意アルコトヲ要ス

前項ノ債權額及總債權ノ計算ニ付テハ確定債權ニ在リテハ其ノ額ニ依リ  
其ノ他ノ債權ニ在リテハ裁判所カ第百八十二條第二項ノ規定ニ依リ定メ  
タル所ニ依ル

第三百七條 前條ニ規定スル條件ノ一カ成立シタルトキ又ハ議決權ヲ行フ  
コトヲ得ヘキ出席破產債權者ノ過半數ニシテ其ノ債權額カ其ノ者ノ總債  
權ノ半額ニ超ユル者カ期日ノ續行ニ同意シタルトキハ裁判所ハ強制和議  
ノ提供者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ續行期日ヲ定メ之ヲ言渡スコトヲ  
要ス

第三百八條 強制和議ノ可決アリタルトキハ裁判所ハ其ノ期日又ハ直ニ言  
渡シタル期日ニ於テ強制和議ノ認否ニ付決定ヲ爲スコトヲ要ス

第二百九十九條第二項ニ規定スル者ハ強制和議ノ認否ニ付意見ヲ述フル  
コトヲ得

第三百九條 第二百三十八條但書及第二百三十九條ノ規定ハ前二條ノ規定  
ニ依リ期日ヲ定ムル決定ニ之ヲ準用ス

第三百十條 裁判所ハ左ノ場合ニ限り破產債權者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ  
以テ強制和議不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ得

一 強制和議ノ手續又ハ決議カ法律ノ規定ニ反スル場合ニ於テ其ノ欠缺  
カ追完スヘカラサルモノナルトキ  
二 第二百九十五條ニ規定スル事由カ強制和議ノ決議後ニ生シタルトキ  
三 強制和議ノ決議カ不正ノ方法ニ因リテ成立スルニ至リタルトキ  
四 強制和議ノ決議カ破產債權者ノ一般ノ利益ニ反スルトキ  
議決權ヲ有セサリシ破產債權者カ前項ノ申立ヲ爲スニハ其ノ破產債權者  
タルコトヲ疏明スルコトヲ要ス

申立人ハ申立ノ原因タル事實ヲ疏明スルコトヲ要ス

第三百十一條 法人カ破產ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ強制和議ノ可決ア

リタルトキハ社團法人ニ在リテハ定款ノ變更ニ關スル規定ニ從ヒ財團法  
人ニ在リテハ主務官廳ノ認可ヲ得テ法人ヲ繼續スルコトヲ得

第三百十二條 法人ヲ繼續スルカ否ノ定リタルトキ又ハ遲滯ナク其ノ手續  
ヲ爲サルトキハ裁判所ハ其ノ法人ノ理事又ハ之ニ準スヘキ者ノ申立ニ因  
リ又ハ職權ヲ以テ強制和議ノ認否ニ付決定ヲ爲ス爲期日ヲ定メ之ヲ公告  
スルコトヲ要ス

前項ノ期日ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス  
法人ヲ繼續セサルトキ又ハ遲滯ナク其ノ手續ヲ爲ササルトキハ裁判所ハ  
強制和議不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

第三百十三條 相續財產ニ對シテ破產ノ宣告アリタル場合ニ於テハ相續債  
權者ニ限リ強制和議ニ關スル決議ニ加ハルコトヲ得

第三百十四條 相續財產ニ對シ破產ノ申立ヲ爲スコトヲ得ル期間内ノ申立  
ニ因リ相續人ニ對シテ破產ノ宣告アリタル場合ニ於テハ相續人ノ債權者  
ニ限リ強制和議ニ關スル決議ニ加ハルコトヲ得

第三百十五條 相續財產及相續人又ハ前戸主ニ對シテ破產ノ宣告アリタル  
場合ニ於テハ相續人又ハ前戸主ノ強制和議ニ付テハ相續人ノ債權者又ハ

前戸主ノ相續開始後ノ債權者ニ限リ之ニ關スル決議ニ加ハルコトヲ得  
第三百十六條 前三條ノ場合ニ於テハ強制和議ニ關スル決議ニ加ハルコト  
ヲ得サル破產債權者ノ債權ハ第三百六條第一項ノ總債權ニ之ヲ算入セス  
第三百十七條 強制和議カ前條ノ破產債權者ノ正當ノ利益ヲ害スヘキトキ  
ハ裁判所ハ其ノ申立ニ因リ強制和議不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

第三百十八條 強制和議認否ノ決定ハ之ヲ言渡シ且公告スルコトヲ要ス但  
シ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第三百十九條 議決權ヲ有セサリシ破產債權者カ強制和議認否ノ決定ニ對  
シテ不服ヲ申立ツルニハ其ノ破產債權者タルコトヲ疏明スルコトヲ要ス

第三百二十條 強制和議ニ關スル決議ニ加ハルコトヲ得サル破產債權者ハ  
強制和議不認可ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス  
第三百二十一條 強制和議ハ認可ノ決定ノ確定ニ因リテ其ノ效力ヲ生ス  
第三百二十二條 強制和議認可ノ決定カ確定シタルトキハ裁判所書記ハ強  
制和議ノ條件ヲ債權表ニ記載スルコトヲ要ス

第三百二十三條 強制和議認可ノ決定カ確定シタルトキハ破産管財人ハ財團債權者及一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權ヲ有スル者ノ確定債權ノ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス

財團債權及一般ノ優先權アル債權ニシテ異議アルモノニ付テハ破産管財人ハ債權者ノ爲供託ヲ爲スコトヲ要ス破産管財人ニ對シ疏明アリタル一般ノ優先權アル債權ニ付亦同シ

第三百二十四條 第二百八十二條ノ規定ハ強制和議ノ認可ノ決定カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百二十五條 破産財團ノ管理及處分ニ付テハ破產者ハ強制和議ニ定メタル制限ニ從フコトヲ要ス

第三百二十六條 強制和議ハ破産債權者ノ全員ノ爲且其ノ全員ニ對シテ效力ヲ有ス

強制和議ハ破産債權者カ破產者ノ保證人其ノ他破產者ト共ニ債務ヲ負擔スル者ニ對シテ有スル權利及破產債權者ノ爲ニ供シタル擔保ニ影響ヲ及ホサス

第三百二十七條 法人ノ債務ニ付責任ヲ負フ社員ハ破產債權者ニ對シ強制和議ノ定ムル限度ニ於テ其ノ責任ヲ負フ但シ強制和議ニ別段ノ定アルトキハ其ノ定ニ從フ

第三百二十八條 確定債權ヲ有スル破產債權者ハ破產者カ債權調査ノ期日ニ於テ其ノ債權ニ對シ異議ヲ述ヘサリシ場合ニ限り破產終結ノ後破產者、強制和議ノ爲ニ保證人ト爲リ其ノ他破產者ト共ニ債務ヲ負擔シ又ハ

破產債權者ノ爲ニ擔保ヲ供シタル者ニ對シ債權表ノ記載ニ基キテ強制執行ヲ爲スコトヲ得但シ民法第四百五十二條及第四百五十三條ノ適用ヲ妨ケス

第二百十五條第三項及民事訴訟法第五百十六條乃至第五百五十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三百二十九條 強制和議カ不正ノ方法ニ因リテ成立スルニ至リタルトキハ各破產債權者ハ強制和議ヲ以テ定メタル讓歩ヲ取消スコトヲ得但シ失ニ因リ強制和議不認可ノ申立ヲ爲ササリシ破產債權者ハ此ノ限ニ在ラ

讓歩ノ取消權ハ破產債權者カ取消ノ原因ヲ知リタル時ヨリ一月間之ヲ行

ハサルトキハ消滅ス強制和議認可ノ決定確定ノ時ヨリ二年ヲ經過シタルトキ亦同シ

第三百三十條 破產者カ強制和議ノ履行ヲ怠リタルトキハ其ノ履行ヲ受ケサル破產債權者ハ強制和議ヲ以テ定メタル讓歩ヲ取消スコトヲ得ス

第三百三十一條 讓歩ノ取消ハ破產債權者カ強制和議ニ因リテ得タル權利ニ影響ヲ及ホサス

第三百三十二條 破產者カ強制和議ノ履行ヲ怠リタル場合ニ於テ届出ヲ爲シタル破產債權者ノ過半數ニシテ其ノ債權額カ其ノ者ノ總債權ノ四分ノ三以上ニ當ル者ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ強制和議取消ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

強制和議ノ定ムル所ニ從ヒ全部ノ履行ヲ受ケタル破產債權者ハ前項ノ申立ニ必要ナル員數ニハ之ヲ算入セス全部又ハ一部ノ履行ヲ受ケタル者ニ付テハ從前ノ破產債權ノ額ヨリ其ノ受ケタル額ヲ控除シタルモノヲ以テ其ノ債權額トス

第一項ノ債權額及總債權ノ計算ニ付テハ第三百六條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三百三十三條 詐欺破產ニ付有罪ノ判決カ確定シタルトキハ裁判所ハ破產債權者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ強制和議取消ノ決定ヲ爲スコトヲ得裁判所ハ有罪ノ判決確定前ト雖第百五十四條及第百五十五條ニ定ムル處分ヲ命スルコトヲ得

第三百三十四條 第三百三十一條第一項ノ規定ハ強制和議ノ取消ニ之ヲ準用ス

第三百三十五條 強制和議取消ノ決定カ確定シタルトキハ破產手續ヲ續行

第三百三十六條 第一編ノ規定ノ適用ニ付テハ強制和議ノ取消ハ之ヲ破產ノ宣告ト看做シ第三百三十二條ノ場合ニ在リテハ強制和議取消ノ申立、第三百三十三條ノ場合ニ在リテハ公訴ノ提起ハ其ノ前ニ支拂ノ停止又ハ破產ノ申立ナキトキハ之ヲ支拂ノ停止又ハ破產ノ申立ト看做ス

第三百三十七條 第百四十一條乃至第百四十六條及第百五十四條乃至第一百五十六條ノ規定ハ強制和議ノ取消ニ付之ヲ準用ス

破産手續續行ノ費用ハ假ニ國庫ヨリ之ヲ支辨ス

第三百三十八條 強制和議ノ效力ヲ受ケタル債權者ニ付テハ從前ノ破産債權ノ額ヨリ強制和議ノ定ムル所ニ從ヒテ受ケタル額ヲ控除シタルモノヲ以テ破産債權ノ額トス

第三百三十九條 從前ノ確定債權ニ付テハ破産債權者カ強制和議ノ定ムル所ニ從ヒテ受ケタル額ノミヲ調査ス

第三百四十條 強制和議ノ效力ヲ受ケタル債權者カ強制和議ノ定ムル所ニ從ヒテ受ケタルモノアルトキハ從前ノ破産債權ノ額ヲ以テ配當ニ加フヘキ債權ノ額ト看做シ破産財團ニ其ノ債權者カ受ケタルモノヲ加算シテ

配當率ノ標準ヲ定ム但シ其ノ債權者ハ他ノ破産債權者カ自己ノ受ケタルモノト同一ノ割合ノ配當ヲ受クル迄ハ配當ヲ受クルコトヲ得ス

第三百四十一條 破産終結ノ後破產者カ強制和議ノ效力ヲ受ケタル債權者ニ對シテ爲シタル擔保ノ供與ハ強制和議ノ取消ニ因リテ其ノ效力ヲ失フ

第三百四十二條 強制和議ノ效力ヲ受ケタル債權者ハ從前ノ債權ニ付テハ破產ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第三百四十三條 強制和議取消ノ申立及破產ノ申立アリタル場合ニ於テ裁判所カ其ノ一一付強制和議取消ノ決定又ハ破產ノ宣告ヲ爲シタルトキハ

他ノ一ノ申立ヲ棄却スルコトヲ要ス

前項ノ規定ニ依ル棄却ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百四十四條 第三百三十一條第一項及第三百三十八條乃至第三百四十一條ノ規定ハ強制和議ノ履行完了前ニ破產ノ宣告アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第三百三十三條ノ規定ニ依リ強制和議取消ノ決定ヲ爲スコトヲ得ル場合ニ於テ破產ノ宣告アリタルトキ亦同シ

第三百四十五條 相續財產ニ對シテ破產ノ宣告アリタル場合ニ於テハ相續用ス

人ハ強制和議ノ履行完了前其ノ固有財產ニ於ケル同一ノ注意ヲ以テ相續財產ノ管理ヲ繼續スルコトヲ要ス但シ強制和議ニ別段ノ定アルトキハ其ノ定ニ從フ

民法第六百四十五條、第六百四十六條、第六百五十條第一項第二項及第

千二十一條第二項第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
第三百四十六條 第百三十一條ノ規定ハ相續財產ニ關スル強制和議取消ノ申立ニ之ヲ準用ス

#### 第十章 破産廢止

第三百四十七條 破產者ハ債權届出ノ期間内ニ届出ヲ爲シタル總破產債權者ノ同意ヲ得タルトキ又ハ同意ヲ爲ササル破產債權者ニ對シ他ノ破產債權者ノ同意ヲ得テ破產財團ヨリ擔保ヲ供シタルトキハ破產廢止ノ申立ヲ爲スコトヲ得

未確定債權ニ付其ノ債權者ノ同意ヲ必要トスベキカ否ハ裁判所之ヲ定ム破產債權者ニ供スベキ擔保カ相當ナルカ否ニ付亦同シ

前項ノ規定ニ因ル決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百四十八條 法人カ破產ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ破產廢止ノ申立ヲ爲スニハ法人繼續ノ手續ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ第三百十

一條ノ規定ヲ準用ス

第三百四十九條 破產廢止ノ申立ヲ爲スニハ其ノ申立ニ必要ナル條件カ具備スルコトヲ證スル書面ヲ提出スルコトヲ要ス

第三百五十條 裁判所ハ破產廢止ノ申立アリタル旨ヲ公告シ且利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲其ノ申立ニ關スル書類ヲ備へ置クコトヲ要ス

第三百五十一條 破產債權者ハ前條ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間内ニ破產廢止ノ申立ニ付裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

前項ノ期間經過前ニ届出ヲ爲シタル破產債權者モ亦異議ヲ申立ツルコトヲ得

第三百五十二條 裁判所ハ前條第一項ノ期間經過ノ後破產廢止ノ決定ヲ爲スニ必要ナル條件カ具備スルカ否ニ付破產者、破產管財人及異議ヲ申立

テタル破產債權者ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

第三百五十三條 破產宣告ノ後裁判所カ破產手續ノ費用ヲ償フニ足ラスト認メタルトキハ破產管財人ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破產廢止ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス此ノ場合ニ於テハ裁判所ハ債權者集會ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

前項ノ規定ハ無限責任又ハ保證責任ノ相互保險會社、產業組合其ノ他ノ法人ニハ之ヲ適用セス破產手續ノ費用ヲ償フニ足ルベキ金額ノ豫納アリ

ル場合亦同シ

第三百五十四條 裁判所カ破産廢止ノ決定ヲ爲シタルトキハ其ノ主文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス

第三百五十五條 破産廢止ノ決定カ確定シタルトキハ破産管財人ハ財團債權ノ辨濟ヲ爲シ異議アルモノニ付テハ債權者ノ爲供託ヲ爲スコトヲ要ス

第三百五十六條 第二百九十一條及第二百九十二條ノ確定ハ破産廢止ノ申立ニ之ヲ準用ス

第三百五十七條 第二百八十七條ノ規定ハ破産廢止ノ決定カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス

## 第十一章 小破產

第三百五十八條 破産財團ニ屬スル財產ノ額カ一萬圓ニ満タスト認ムルトキハ裁判所ハ破産ノ宣告ト同時ニ小破產ノ決定ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テハ裁判所ハ第一百四十三條第一項ニ掲タル事項ノ外小破產決定ノ主文ヲ公告シ且同條第二項ノ書面ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第三百五十九條 裁判所破産手續中ニ破産財團ニ屬スル財產ノ額カ一萬圓ニ満タアルコトヲ發見シタルトキハ小破產ノ決定ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル小破產ノ決定ヲ爲シタル場合ニ於テハ裁判所ハ決定ノ主文ヲ公告シ且破産管財人、監査委員並知レタル債權者及債務者ニ之ヲ記載シタル書面ヲ送達スルコトヲ要ス

第三百六十條 裁判所破産手續中ニ破産財團ニ屬スル財產ノ額カ一萬圓以上ナルコトヲ發見シタルトキハ小破產取消ノ決定ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三百六十一條 小破產ノ決定及小破產取消ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百六十二條 第一回ノ債權者集會ノ期日及債權調查ノ期日ハ已ムコトヲ得サル事由アル場合ヲ除クノ外之ヲ併合スルコトヲ要ス

第三百六十三條 監査委員ハ之ヲ置カス

第三百六十四條 第一回ノ債權者集會、強制和議取消後ノ第一回ノ債權者集會並債權調查、計算報告及強制和議ノ爲ニスル債權者集會ヲ除クノ外裁判所ノ決定ヲ以テ債權者集會ノ決議ニ代フ

前項ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百六十五條 配當ハ一回トシ最後ノ配當ニ關スル規定ニ依ル但シ追加配當ヲ爲スコトヲ妨ゲス

第三百六十六條 小破產手續ニ關スル公告ハ第百十六條ノ規定ニ依ル揭示ヲ爲スヲ以テ足ル

## 第三編 復權

申立人ハ免責ヲ證スル書面ヲ提出スルコトヲ要ス

第三百六十八條 復權ノ決定ハ確定ノ後ニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第三百六十九條 裁判所ハ復權ノ申立アリタル旨ヲ公告シ且利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲其ノ申立ニ關スル書類ヲ備ヘ置クコトヲ要ス

第三百七十條 破産債權者ハ前條ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ三月内ニ復權ノ申立ニ付裁判所ニ異議ヲ申立ツルコトヲ得

第三百七十一條 異議ノ申立アリタルトキハ裁判所ハ破産者及異議ヲ申立テタル破産債權者ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

第三百七十二條 復權ノ決定カ確定シタルトキハ裁判所ハ其ノ主文ヲ公告スルコトヲ要ス

## 第四編 賞罰則

第三百七十三條 第百八條乃至第百十二條及第百十四條乃至第百十七條ノ規定ハ復權ノ手續ニ之ヲ準用ス

## 第三百七十四條 債務者破産宣告ノ前後ヲ問ハス自己若ハ他人ノ利益ヲ圖リ又ハ債權者ヲ害スル目的ヲ以テ左ニ掲タル行爲ヲ爲シ其ノ宣告確定シタルトキハ詐欺破産ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

一 破産財團ニ屬スル財產ヲ隱匿、毀棄又ハ債權者ノ不利益ニ處分スルコト

二 破産財團ノ負擔ヲ虛偽ニ増加スルコト

三 法律ノ規定ニ依リ作ルヘキ商業帳簿ヲ作ラス、之ニ財產ノ現況ヲ知ルニ足ルヘキ記載ヲ爲サス又ハ不正ノ記載ヲ爲シ又ハ之ヲ隱匿若ハ毀

前項ノ規定ニ依リ裁判所書記カ閉鎖シタル帳簿ニ變更ヲ加

ヘ又ハ之ヲ隠匿若ハ毀棄スルコト  
第三百七十五條 債務者破産宣告ノ前後ヲ問ハス左ニ掲タル行爲ヲ爲シ其  
ノ宣告確定シタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス  
一浪費又ハ賭博其ノ他ノ射幸行爲ヲ爲シ因テ著ク財產ヲ減少シ又ハ過  
大ノ債務ヲ負擔スルコト  
二 破産ノ宣告ヲ遲延セシムル目的ヲ以テ著ク不利益ナル條件ニテ債務  
ヲ負擔シ又ハ信用取引ニ因リ商品ヲ買入レ著ク不利益ナル條件ニテ之  
ヲ處分スルコト  
三 破産ノ原因タル事實アルコトヲ知ルニ拘ラス或債權者ニ特別ノ利益  
ヲ與フル目的ヲ以テ爲シタル擔保ノ供與又ハ債務ノ消滅ニ關スル行爲  
ニシテ債務者ノ義務ニ屬セス又ハ其ノ方法若ハ時期カ債務者ノ義務ニ  
屬セサルモノ  
四 法律ノ規定ニ依リ作ルヘキ商業帳簿ヲ作ラス、之ニ財產ノ現況ヲ知  
ルニ足ルヘキ記載ヲ爲サス又ハ不正ノ記載ヲ爲シ又ハ之ヲ隠匿若ハ毀  
棄スルコト  
五 第百八十七條ノ規定ニ依リ裁判所書記カ閉鎖シタル帳簿ニ變更ヲ加  
ヘ又ハ之ヲ隠匿若ハ毀棄スルコト  
第三百七十六條 債務者ノ法定代理人、理事及之ニ準スヘキ者並支配人前  
二條ニ規定スル行爲ヲ爲シ債務者ニ對スル破産宣告確定シタルトキハ前  
二條ノ例ニ依ル相續財產ニ對スル破産ニ於テ相續人及前戸主並其ノ法定  
代理人及支配人ニ付亦同シ  
第三百七十七條 本法ニ依リ監守ヲ命セラレタル者逃走シ又ハ裁判所ノ許  
可ヲ得シテ外人ト面接若ハ通信シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓  
以下ノ罰金ニ處ス  
破産者裁判所ノ許可ヲ得シテ居住地ヲ離レタルトキ罰前項ニ同シ  
第三百七十八條 債務者及第三百七十六條ニ規定スル者ニ非シテ第三百  
七十四條ニ規定スル行爲ヲ爲シタル者又ハ自己若ハ他人ヲ利スル目的ヲ  
以テ破産債權者トシテ虛偽ノ權利ヲ行ヒタル者ハ債務者ニ對スル破産宣  
告確定シタルトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス  
第三百七十九條 第三百七十四條、第三百七十五條及前條ノ規定ノ適用ニ  
付テハ強制和議ノ取消ハ之ヲ破産ノ宣告ト看做ス

第三百八十條 破産管財人又ハ監査委員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又  
ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金  
ニ處ス破産債權者、其ノ代理人又ハ理事若ハ之ニ準スヘキ者債權者集會  
ノ決議ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキ亦同シ  
前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス  
スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス  
第三百八十一條 破産管財人、監査委員、破産債權者、其ノ代理人又ハ理  
事若ハ之ニ準スヘキ者ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下  
ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス  
前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコト  
ヲ得  
第三百八十二條 第百五十三條ノ規定ニ依リ説明ノ義務アル者故ナク説明  
ヲ爲サス又ハ虛偽ノ説明ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下  
ノ罰金ニ處ス  
前項ノ罪ヲ犯シタル者破産裁判所ニ其ノ事實ヲ申出テタルトキハ其ノ刑  
ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得  
附 則  
第三百八十三條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
第三百八十四條 明治二十三年法律第三十二號商法第三編、同年法律第百  
一號及家資分散法ハ之ヲ廢止ス  
第三百八十五條 民法施行法第二條第三條及非訟事件手續法第一百五十二條  
第一百五十三條ハ之ヲ削除シ刑法施行法第二十五條第一項第三號ハ之ヲ削  
除  
第三百八十六條 他ノ法令中身代限ノ處分ヲ受ケ債務ヲ完済セサル者ニ關  
スル規定ハ破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタル者ニ之ヲ準用ス  
身代限ノ處分ヲ受ケ債務ヲ完済セサル者及家資分散ノ宣告ヲ受ケタル者  
ハ他ノ法令ノ適用ニ付テハ之ヲ破産者ト看做ス  
第三百八十七條 本法施行前破産若ハ復權ノ申立、破産若ハ家資分散ノ宣  
告又ハ支拂猶豫ノ許可若ハ假許可アリタルモノユ付テハ仍舊法ニ依ル但  
シ明治二十三年法律第三十二號商法第千五十四條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラ  
ス

本法施行前ニ爲シタル家資分散又ハ支拂猶豫ノ申立ハ決定ヲ以テ之ヲ棄却ス此ノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第三百八十八條 舊法ニ依リテ破産若ハ家資分散ノ宣告又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタル者ハ本法ニ依リテ復權ノ申立ヲ爲スコトヲ得此ノ申立ハ其ノ事件ノ第一審裁判所ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三百八十九條 他ノ法律ニ依リ法人ノ理事又ハ之ニ準スヘキ者カ其ノ法人ニ對シ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ要スル場合ニ於テモ和議開始ノ申立ヲ爲スコトヲ妨ヶス

第三百九十九條 商法第四百五條ヲ左ノ如ク改ム

保険者カ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ保険契約者ハ契約ノ解除ヲ爲スコトヲ得但其解餘ハ將來ニ向テノミ其效力ヲ生ス

前項ノ規定ニ依リテ解除ヲ爲ササル保険契約ハ破産宣告ノ後三個月ヲ経過シタルトキハ其效力ヲ失フ

第三百九十一條 商法施行法中第百三十八條乃至第百四十五條及第一百四十條ヲ削リ「第百四十六條」ヲ「第百三十八條ニ改メ同法ニ左ノ一條ヲ加

第二十三條及第五十一條ノ規定ハ舊商法ノ規定ニ依ルヘキ場合ニ至

テハ仍其ノ效力ヲ有ス

參照  
○明治二十三年法律第百一號

商法ニ從ヒ破産ノ宣告ヲ受ケタル者ニ關スル件

和議法案

右  
勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

大正十一年一月十八日

内閣總理大臣兼  
大藏大臣  
臨時海軍大臣事務管理  
子爵高橋是清

外務大臣 伯爵内田康哉

## 和議法案

### 第一章 總則

第一條 本法ニ於テ和議ト稱スルハ破産豫防ノ爲ニスル強制和議ヲ謂フ

第二條 和議手續ハ其ノ開始決定ノ時ヨリ效力ヲ生ス

第三條 破産法第百五條及第百七條ノ規定ハ和議事件ノ管轄ニ付之ヲ準用ス

第四條 破産法第八十七條、第八十八條、第八十九條第一項、第九十條及

第五條 破産法第九十八條乃至第百四條ノ規定ハ和議債權者ノ相殺權ニ付之ヲ準用ス

第六條 前二條ノ規定ノ適用ニ付テハ和議開始ノ申立ハ之ヲ破産ノ申立て

看做シ和議ノ開始ハ之ヲ破産ノ宣告ト看做ス  
第七條 和議手續ニ關スル裁判ニ對シテハ本法ニ特別ノ規定アル場合ニ限リ其ノ裁判ニ付利害關係ヲ有スル者ハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得其ノ期間ハ裁判ノ公告アリタル場合ニ於テハ其ノ公告アリタル日ヨリ起算シテ二週間トス

第八條 破産法第百十九條、第百二十條、第百二十二條及第百二十四條ノ規定ハ和議開始、和議開始決定取消又ハ和議廢止ノ決定アリタル場合及

和議認否又ハ和議取消ノ決定カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス  
第九條 和議廢止ノ決定アリタル場合又ハ和議不認可若ハ和議取消ノ決定カ確定シタル場合ニ於テ裁判所ハ破産ノ申立アルトキハ其ノ申立ニ因リ、申立ナキトキハ職權ヲ以テ破産ノ宣告ヲ爲スコトヲ要ス  
前項ノ規定ニ依リ破産ノ宣告ヲ爲シタル場合ニ於テハ前條ノ規定ニ依ル

農商務大臣 男爵山本達雄  
内務大臣 床次竹二郎  
文部大臣 中橋徳五郎  
遞信大臣 野田卯太郎  
鐵道大臣 元田肇  
陸軍大臣 伯爵大木遠吉  
司法大臣 山梨半造

登記又ハ登録ノ囑託ハ破産ノ登記又ハ登録ノ囑託ト共ニ之ヲ爲スコトヲ  
要ス

第十條 前條第一項ノ規定ニ依リ破産ノ宣告アリタルトキハ破産法第一編  
ノ適用ニ付テハ和議開始若ハ和議取消ノ申立又ハ詐欺破産ノ罪ニ該ルヘ  
キ和議申立人ノ行爲ハ其ノ前ニ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立ナキトキハ之  
ヲ支拂ノ停止又ハ破産ノ申立ト看做シ和議ノ爲ニ生シタル債權及和議手  
續ノ費用ハ之ヲ財團債權トス

第十一條 破産法第二條、第三條、第一百九條乃至第一百一條、第一百十三條  
乃至第一百十八條及第一百二十五條ノ規定ハ和議ニ關シ之ヲ準用ス  
和議手續ニ關シテハ本法ニ別段ノ定ナキトキハ民事訴訟法ヲ準用ス

## 第二章 和議ノ開始

第十二條 破産ノ原因タル事實アル場合ニ於テハ債務者ハ和議開始ノ申立  
ヲ爲スコトヲ得但シ法人ニ在リテハ理事又ハ之ニ準スヘキ者ノ一致アル  
コトヲ要ス

相續財產ニ付テハ和議開始ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條 和議開始ノ申立ヲ爲スニハ辨濟ノ方法、擔保ヲ供セムトスルト  
キハ其ノ擔保其ノ他和議ノ條件ヲ裁判所ニ申出ツルコトヲ要ス

和議申立人ハ申立ト同時ニ財產ノ狀況ヲ示スヘキ明細書並債權者及債務  
者ノ一覽表ヲ提出スルコトヲ要ス  
キハ爾後遲滯ナク之ヲ提出スルコトヲ要ス

第十四條 和議開始ノ申立ヲ爲スニハ和議手續ノ費用トシテ裁判所カ相當  
ト認ムル金額ノ豫納アルコトヲ要ス

第十五條 和議開始ノ決定アリタル後ハ破産ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス

第十六條 破産ノ宣告アリタル後ハ和議開始ノ申立ヲ爲スコトヲ得ス  
第十七條 和議開始ノ申立及破産ノ申立アリタルトキハ破産手續ハ之ヲ中  
止ス

第十八條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ和議開始ノ申立ヲ棄却スルコトヲ要  
ス

一 破産回避ノ目的ヲ以テ申立ヲ爲シタルトキ  
二 和議申立人ノ所在カ不明ナルトキ  
三 詐欺破産ノ罪ニ該ルヘキ行爲アリト認ムルトキ

四 和議ノ條件カ法律ノ規定ニ反スルトキ  
五 和議ノ條件カ和議債權者ノ一般ノ利益ニ反スルトキ

第十九條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ和議開始ノ申立ヲ棄却スルコトヲ得  
一 和議手續ノ費用ノ豫納ナキトキ  
二 債權者集會ニ於テ和議ヲ否決シタルコトアルトキ

三 和議開始ノ申立又ハ和議ノ提供ヲ撤回シタルコトアルトキ  
四 和議不認可ノ決定ヲ爲シタルコトアルトキ  
五 和議取消ノ決定ヲ爲シタルコトアルトキ

第二十條 裁判所ハ和議開始ノ決定前ト雖利害關係人ノ申立ニ因リ又ハ職  
權ヲ以テ債務者ノ財產ニ關シ假差押、假處分其ノ他ノ必要ナル保全處分  
ヲ命スルコトヲ得

第二十一條 裁判所ハ整理委員ヲ選任シ期間ヲ定メテ債務者ノ財產、帳簿  
及和議ノ條件ニ付必要ナル調査ヲ爲サシメ且和議ヲ開始スヘキカ否ニ付  
意見書ヲ提出セシムルコトヲ要ス

第二十二條 整理委員ハ自己ノ責任ヲ以テ鑑定人ヲ選任スルコトヲ得  
和議申立人ハ前條第一項ニ依ル調査ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十三條 破産法第一百五十三條ノ規定ハ和議ニ關シ整理委員ノ請求アリ  
タル場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條 重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人ノ申立ニ因リ又  
ハ職權ヲ以テ整理委員ヲ解任スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ整理委員ヲ  
審訊スルコトヲ要ス

第二十五條 破産法第一百五十九條乃至第一百六十條、第一百六十四條乃至第  
一百六十六條、第一百六十九條及百七十二条ノ規定ハ整理委員ニ之ヲ準用ス

第二十六條 和議開始決定書ニハ決定ノ年月日時ヲ記載スルコトヲ要ス  
第二十七條 裁判所ハ和議開始ノ決定ト同時ニ管理人ヲ選任シ且左ノ事項  
ヲ定ムルコトヲ要ス

一 債權届出ノ期間但シ其ノ期間ハ決定ノ日ヨリ二週間以上二月以下ナ  
ルコトヲ要ス

二 債權者集會ノ期日但シ其ノ期日ト債權届出期間ノ末日トノ間ニハ一週間以上一月以下ノ期間ヲ存スルコトヲ要ス

和議開始ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第二十八條 裁判所カ和議開始ノ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ左ノ事項ヲ公告スルコトヲ要ス

一 和議開始決定ノ主文

二 管財人ノ氏名及住所

三 債權届出ノ期間及債權者集會ノ期日

知レタル債權者、和議申立人、管財人及整理委員ニハ前項ニ掲タル事項、和議ノ條件及整理委員ノ意見ノ要領ヲ記載シタル書面ヲ送達スルコトヲ要ス

前二項ノ規定ハ第一項第二號及第三號ニ掲タル事項ニ變更ヲ生シタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條 裁判所カ和議開始決定取消ノ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ其ノ主文ヲ公告スルコトヲ要ス

前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十條 和議開始申立ニ關スル書類竝第二十一條ノ規定ニ依ル整理委員ノ調査書類及意見書ハ利害關係人ノ閱覽ニ供スル爲之ヲ裁判所ニ備

ヘ置クコトヲ要ス

第三十一條 和議開始申立ノ時ヨリ決定ノ時迄ハ債務者ハ通常ノ範圍ニ屬セサル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第三十二條 和議ノ開始ハ債務者カ其ノ財產ヲ管理及處分スル權利ニ影響ヲ及ボサス但シ通常ノ範圍ニ屬セサル行爲ハ管財人ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

通常ノ行爲ト雖管財人ノ異議アルトキハ債務者ハ之ヲ爲スコトヲ得ス  
重要ナル行爲ニ付管財人カ第一項ノ規定ニ依リ同意ヲ爲スニハ整理委員ノ意見ヲ聽クコトヲ要ス

第三十三條 第三十條又ハ前條第一項第二項ノ規定ニ反スル行爲ハ和議債權者ニ於テ之ヲ否認スルコトヲ得但シ相手方カ行爲ノ當時其ノ事實ヲ知リタルトキニ限ル

第三十四條 管財人ハ自ラ金錢ノ收支ヲ爲スヘキコトヲ債務者ニ請求スル

コトヲ得

第三十五條 管財人ハ裁判所ノ許可ヲ得テ債務者及之ニ扶養セラル者ニ給スヘキ扶助料ノ額ヲ定ムルコトヲ得

第三十六條 管財人ハ何時ニテモ債務者ニ對シテ其ノ財產ニ關スル報告ヲ求メ又ハ債務者ノ財產ノ狀況ヲ調査スルコトヲ得

整理委員ハ何時ニテモ管財人ニ對シテ債務者ノ財產ニ關スル報告ヲ求ムルコトヲ得

第三十七條 破産法第百五十三條ノ規定ハ和議ニ關シ管財人又ハ債權者集會ノ請求アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第三十八條 管財人ノ任務終了ノ場合ニ於テハ管財人又ハ其ノ相續人ハ遲滞ナク裁判所ニ計算ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

第三十九條 第二十四條及破產法第百五十八條乃至第百六十一條第百六十條乃至第一百六十六條第百六十九條ノ規定ハ管財人ニ之ヲ準用ス

第四十條 和議手續中ハ和議債權ニ付債務者ノ財產ニ對シ強制執行、假差押又ハ假處分ヲ爲スコトヲ得ス

和議開始前和議債權ニ付債務者ノ財產ニ對シタル強制執行、假差押及假處分ノ和議手續中之ヲ中止ス

第四十一條 債務者ニ對シ和議開始前ノ原因ニ基キテ生シタル財產上ノ請求權ハ之ヲ和議債權トス

第四十二條 一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權アル債權ハ之ヲ和議債權トセス

第四十三條 破產ノ場合ニ於テ別除權ヲ行使スルコトヲ得ヘキ權利ヲ有スル者ハ其ノ權利ノ行使ニ依リテ辨濟ヲ受クルコト能ハサル債權額ニ付和議債權者トシテ其ノ權利ヲ行フコトヲ得

第四十四條 左ニ掲タル請求權ハ之ヲ和議債權トセス

一 和議開始後ノ利息

二 和議開始後ノ不履行ニ因ル損害賠償及違約金

三 和議手續參加ノ費用

四 罰金、科料、刑事訴訟費用、追徵金及過料

前項ノ請求權ハ和議債權ニ後ル

第四十五條 破產法第十七條乃至第二十條、第二十二條乃至第二十七條及

第二百二十八條乃至第二百三十條ノ規定ハ和議債權ニ付之ヲ準用ス此ノ

場合ニ於テハ和議ノ開始ハ之ヲ破產ノ宣告ト看做ス

#### 第四章 債權者集會

第四十六條 債權者集會ノ期日ニハ届出ヲ爲シタル和議債權者、和議申立

人及和議ノ爲ニ保證人ト爲リ其ノ他債務者ト共ニ債務ヲ負擔シ又ハ和議

債權者ノ爲ニ擔保ヲ供スル者ヲ呼出スコトヲ要ス

前項ニ規定スル者ニハ和議ノ條件及整理委員ノ意見ノ要領ヲ記載シタル

書面ヲ送達スルコトヲ要ス但シ第二十八條第二項第三項ノ規定ニ依リ既

ニ送達ヲ受ケタル者ニ付テハ此ノ限り在ラス

第四十七條 管財人及整理委員ハ届出アリタル各債權ニ付債權者集會ニ於

テ議決權ヲ行ハシムヘキカ否及如何ナル金額ニ付之ヲ行ハシムヘキカヲ

調査スルコトヲ要ス

第四十八條 管財人及整理委員ハ債權者集會ニ於テ和議ノ開始ニ至リタル

事情、債務者及其ノ財產ニ關スル経過及現狀並前條ノ規定ニ依ル調査ノ

結果ニ付報告ヲ爲シ且和議ノ條件ノ適否ニ關シ意見ヲ述シタルコトヲ要ス

破產法第百八十二條第二項乃至第四項ノ規定ハ届出アリタル債權ニ付第

四十六條第一項ニ規定スル者、管財人又ハ整理委員ノ異議アル場合ニ之

ヲ準用ス

第四十九條 破產法第百七十八條、第百八十一條、第二百三十八條但書、

第三百一條ハ、第三百二條、第三百六條及第三百七條ノ規定ハ債權者集會

ニ付之ヲ準用ス

破產法第三百四條及第三百五條ノ規定ハ和議ニ付之ヲ準用ス

第五章 和議ノ認否

第五十條 債權者集會ニ於テ和議ヲ可決シタルトキハ裁判所ハ其ノ期日

又ハ直ニ言渡シタル期日ニ於テ和議ノ認否ニ付決定ヲ爲スコトヲ要ス

見ヲ述フルコトヲ得

破產法第二百三十八條但書ノ規定ハ和議認否ノ期日ヲ定ムル決定ニ付之

ヲ準用ス

第五十一條 裁判所ハ左ノ場合ニ限リ和議債權者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ

以テ和議不認可ノ決定ヲ爲スコトヲ得

一 和議ノ手續又ハ決議カ法律ノ規定ニ反スル場合ニ於テ其ノ欠缺カ追

完スヘカラサルモノナルトキ

二 第十八條第二號又ハ第三號ニ規定スル事由アルトキ

三 和議ノ決議カ和議債權者ノ一般ノ利益ニ反スルトキ

四 和議ノ決議カ和議債權者ノ一般ノ利益ニ反スルトキ

第五十二條 和議認否ノ決定ハ之ヲ言渡シ且其ノ主文及理由ノ要領ヲ公告

スルコトヲ要ス但シ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第五十三條 和議認否ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

破產法第三百十九條ノ規定ハ和議債權者ニ之ヲ準用ス

第五十四條 和議ハ認可ノ決定ノ確定ニ因リテ其ノ效力ヲ生ス

第五十五條 和議認可ノ決定カ確定シタルトキハ裁判所書記ハ和議ノ條件

ヲ債權表ニ記載スルコトヲ要ス

第五十六條 和議認可ノ決定カ確定シタルトキハ債務者ハ和議ノ爲ニ生シ

タル債權、和議手續ノ費用及一般ノ先取特權其ノ他一般ノ優先權アル債

權ノ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス

前項ニ規定スル債權ニシテ異議アルモノニ付テハ債權者ノ爲供託ヲ爲ス

コトヲ要ス

第五十七條 破產法第三百二十五條乃至第三百二十七條及第三百四十二條

ノ規定ハ和議ノ效力ニ付之ヲ準用ス

第五十八條 和議認可ノ決定カ確定シタルトキハ第十七條ノ規定ニ依リ手

續ヲ中止シタル破產ノ申立並第四十條第二項ノ規定ニ依リ中止シタル強

制執行、假差押及假處分ハ其ノ效力ヲ失フ

第六章 和議ノ廢止

第五十九條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ職權ヲ以テ和議廢止ノ決定ヲ爲ス

コトヲ要ス

一 和議ノ可決前ニ和議ノ提供者カ其ノ提供ヲ撤回シタルトキ

二 債權者集會ノ第一期日ヨリ二月内ニ和議ヲ可決セサルトキ

第六十條 左ノ場合ニ於テハ裁判所ハ管財人若ハ整理委員ノ申立ニ因リ

又ハ職權ヲ以テ和議廢止ノ決定ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ債務者

ヲ審訊スルコトヲ要ス

第一 第二十條第一項第二項ノ規定ニ依リ裁判所ノ命令ニ違反シタルトキ

二 債務者カ第三十一條又ハ第三十二條第一項第二項ノ規定ニ違反シタルトキ

三 債務者カ第三十四條ノ規定ニ依ル請求アリタルニ拘ラス自ラ金錢ノ

收支ヲ爲シタルトキ

第六十一條 裁判所カ和議廢止ノ決定ヲ爲シタルトキハ其ノ主文及理由ノ要領ヲ公告スルコトヲ要ス

## 第七章 讓歩及和議ノ取消

第六十二條 破産法第三百二十九條乃至第三百三十一條ノ規定ハ和議ヲ以テ定メタル讓歩ノ取消ニ之ヲ準用ス

第六十三條 債務者ニ詐欺ノ破産罪ニ該ルヘキ行爲アルトキハ裁判所ハ和議債權者ノ申立ニ因リ又ハ職權ヲ以テ和議取消ノ決定ヲ爲スコトヲ得

第六十四條 破産法第三百三十二條第一項及第二項ノ規定ハ和議ノ取消ニ之ヲ準用ス

和議取消ノ申立ニ必要ナル債權額及總債權ノ計算ニ付テハ第四十八條ノ規定ニ依リテ定リタル債權額ニ依ル

第六十五條 和議ノ取消ハ和議債權者カ和議ニ因リ得タル權利ニ影響ヲ及ボサス

第六十六條 裁判所カ和議取消申立棄却又ハ和議取消ノ決定ヲ爲シタルト前項ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第六十七條 破産法第三百三十八條、第三百四十條及第三百四十一條ノ規定ハ第九條ノ規定ニ依リ破産ノ宣告アリタル場合ニ之ヲ準用ス

## 第八章 好則

第六十八條 整理委員又ハ管財人其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス和議債權者、其ノ代理人又ハ理事若ハ之ニ準スヘキ者債權者集會ノ決議ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス

第六十九條 整理委員、管財人又ハ和議債權者、其ノ代理人、理事若ハ之ニ準スヘキ者ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

## 第七十條 第二十三條又ハ第三十七條ノ規定ニ依リ説明ノ義務アル者ナク説明ヲ爲サス又ハ虛偽ノ説明ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス和議申立人又ハ債務者第二十一條又ハ第三十六條ノ規定ニ依ル調査若ハ報告ヲ拒ミ又ハ虛偽ノ報告ヲ爲シタルトキ亦同シ」

前項ノ罪ヲ犯シタル者和議裁判所ニ其ノ事實ヲ申出テタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

### 附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

和議手續參加ハ時效ノ中斷ニ關シテハ之ヲ裁判上ノ請求ト看做ス

〔政府委員山内確三郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(山内確三郎君) 唯今議題トナリマシタ破産法案及ビ和議法案ニ付キマシテ、提出ノ理由ヲ簡單ニ御説明ヲ致シマス、御承知ノ通り現行破産法ハ明治二十三年ノ制定ニ係ツテ居ルノデアリマス、即チ舊商法ノ一篇ニ破産ノコトガ規定イタシテアリマスルノガ、明治二十六年ニ一部ノ修正ヲ經テ今日マテ實施サレテ居ル次第アリマス、當時民法即チ舊民法及ビ舊商法ノ全部ハ施行サレズシテ、今日ノ民法ノ現行法ト商法ニ依テ改正ヲセラレマシテ、其ノ民法商法ハ明治三十一年及ビ三十二年ニ實施サレテ今日ニ至ツテ居ルノデアリマス、其際破産法ダケハ民法商法ガ完全成立シマシタ上デ、之ヲ審議スルト云フコトニナツテ、民法商法ト同時ニ完全ニ修正スルコトガ出来ナカッタ、民法商法ガ法律トナリマシテ漸ク破産法ノ審議ニ移リマシテ、一度明治三十五年ニ法典調査會ニ於テ案ヲ具ヘマシテ之ヲ公表イタシマシタノガ、今日社會ニ破産法案トシテ發表サレテ居ルモノニアリマス、ソコデ民法商法ガ出來上リマシテ、破産法ノ審議ニ掛リマシテ、爾來二十年程ノ間ニ漸ク此案ヲ議會ニ提出スルコトガ出來ルヤウニナツタ次第アリマス、勿論此ノ破産法ハ民法商法トノ關係ガ非常ニ多イノデアリマス、尙ホ民法商法ノミナラズ諸般ノ實體法規ニ瓦ツテ交渉スル所ガ澤山アルノデアリマス、是等ノ

點ヲ此ノ破産法ノ中ニ細カク處理シタリ規定イタシタイト云フノデ、此ノ破産法ハ實體的ノ規定ト、ソレト破産手續ト云フ此二ツノ編ニ分チマジテ、詳細ナル規定ヲ致シテ居ル、規定イタシテ居ルコトハ諸般ノ法律事項ニ亘ツテ

居リマスノデ、茲ニ細カク一々申上ゲルコトガ出來ナイノデアリマスガ、要スルニ破産ト實體法ノ關係、ソレカラ破産手續、是ダケノコトヲ四百條ニ亘ツテテ茲ニ規定イタシテ居ル次第デアリマス、內容ノ詳細ニ至リマシテハ、寧ロ是ハ特別委員會ニ於テ御説明申上ゲタイト思ヒマス、ドウゾ慎重ニ御審議ノ上御協贊アラムコトヲ希望スル次第デアリマス、尙ホ和議法案ハ是ハ破産法ト餘程深イ關係ノアルモノデ、破産法ノ中ニモ和議ノコトガ規定イタシテアリマスルガ、ソレハ破産宣告後ノ手續ト、和議法案ハ破産宣告前ニ債權者債務者ノ間ノ和議、即チ今日通常申シマスル整理ヲ致スニ付キマシテ、法規ガ備ハッテ居リマセヌガ爲ニ、特ニ此ノ法律ヲ作ッテ、サウシテ裁判上ノ手續ニ依テ、破産ニ瀕スル債務者ノ經濟事情非常ニ困難ナル場合ニ於キマシテ、其整理ニ付テノ一ツノ手續ヲ定メマシタノガ、此和議法案デアリマス、要スルニ破産ニ瀕スル者ヲ救濟シテ破産者ト爲サズシテ當事者ノ協和ニ依テ事ヲ處理スルト云フノガ、和議法案ノ眼目トナツテ居ルノデアリマス、ドウゾ是亦慎重ニ御審議ノ上ニ御協贊アラムコトヲ希望スル次第デアリマス、提案ノ理由ハ此説明ノ程度ニ止メテ置キマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 議事日程第二ニ移リマス、右議案ノ審査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉  
○淺田徳則君 特別委員ノ選舉ハ本會期ヲ通ジマシテ、特別ノ場合ヲ除キマスベキ特別委員ノ選舉  
○副議長(侯爵黒田長成君) 唯今淺田君ガ述ベラレマシタコトニ付キマシテ、議長ニ一任スルコトニシタイト思ヒマス、尙ホ此際第一日程ニ出テ居リマスル破産法案、是ノ特別委員ハ十五名トシテ、是亦議長ノ御指名アラムコトヲ望ミマス、ドウゾ此動議ニ御賛成ヲ請ヒマス

○子爵西大路吉光君 贊成  
○子爵前田利定君 贊成

○副議長(侯爵黒田長成君) 唯今淺田君ガ述ベラレマシタコトニ付キマシテ、御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵黒田長成君) 御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ報告

イタサセマス

〔成瀬書記官朗讀〕

破産法案特別委員

伯爵松平 賴壽君	男爵小澤 武雄君	子爵酒井 忠亮君
子爵伊東 祐弘君	子爵板倉 勝憲君	松室 致君
男爵矢吹 省三君	男爵若王子 文健君	男爵長松 篤棐君
橋本圭三郎君	藤田四郎君	加太邦憲君
菅原通敬君	鈴木總兵衛君	

○副議長(侯爵黒田長成君) 議事日程第四ハ自然ニ消滅イタシマシタ、依テ議事日程第三ノ法案ハ、第一ノ破産法案ノ特別委員ニ付託ヲ致シマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 是ヨリ一昨日ニ續イテ質疑ヲ許シマス、藤村男爵

〔男爵藤村義朗君演壇ニ登ル〕

○男爵藤村義朗君 私ノ第二ノ質疑ニ入リマスル前ニ、一昨日ノ物價問題ノ質疑ニ對スル總理大臣ノ御答辯ニ付キマシテ、一言確メテ置キタイコトガゴザイマス、總理大臣ノ御答辯ハ二三ノ箇所聽取リ得マセナンダ所モゴザイマシタガ、大體ニ於テノ御趣意ハ拜承イタシタノデゴザイマス、ソコデ今日ハ特ニ二三ノ事項ニ付テ私ハ斯クスニ了解シテ居ルト云フコトダケラ申上げテ、一應御確メヲ致シテ置キタイノデアリマス、若シ私ガ了解シテ居リマスコトガ其通りゴザイマシタラバ、ドウゾ御辯明ヲ煩ハシタイト思ヒマス、總理大臣ハ一昨日ハ日本ノ政府ガ露西亞ノ勞農政府ノ如ク赤化シナイ限り、政府ノ力ヲ以テ上下シ得ルモノデハナイ、政府ハ物價ヲ左右シ得ル程ノ力ハ無イ、物價ト云フモノハ世界ノ大勢ニ依リ需給關係ニ依テ定マルモノデアルト云フヤウナ御説明デアツタヤウニ私ハ伺フ、即チ政府ハ物價調節ニ付テハ國家トシテハ何等施スベキ策ノ御持合セガナイト云フコトヲ總理大臣ハ仰シヤッタノデアル、又物價ヲ調節セムトスル所ノ意思モ力モ御有リニナラナイ、デ物價ノ高率カラ生ジマスル所ノ各種ノ困難ナル問題ニ付テハ、現政府ハ全然沒交渉デアルト云フコトニ私ハ了解イタシタノデアリマス、ソレカラ又斯様ナコトヲ總理大臣ハ仰シヤッタノデアル、世界ノ各國民中安定ヲ得テ居ル國ガ

アリトシマスレバ、ソレハ日本ガ其ソ筆頭デアルト云フコトヲ仰セラレタ、之ヲ言葉ニ換ヘテ申シマスレバ我ガ日本國民ハ世界中最モ生活ノ安定ヲ得テ居ル國デアルト云フコトデアリマス、誠ニ驚入ッタ御言葉デ、若シ此御言葉ガ總理大臣ノ御口カラ出タモノデナイナラバ、私ハ之ヲ一場ノ放言トシテ受取ル外ハナイノデアリマス、併ナガラ若シヤ善意ニ解釋イタシマシテ、首相ハ斯ウ云フ意味ノコトヲ仰シヤッタノデアラウト思フ、即チ世界各國民ハ今日デハソレゾレナカナカ其不安定ノ状態ニアル、併ナガラ其中デモ最モ安定ヲ得テ居ルノハ日本デアルト云フヤウナコトニ、私ハ解釋イタシマスノデアリマス、兎ニ角首相ノ御言葉カラ申シマスルト云フト、今日社會ノ裏面ニ流レテ居リマスル所ノ各種ノ生活難、國家ノ最モ健全分子デアル所ノ中流階級、殊ニハ俸給ヲ以テ衣食シテ居ル所ノ國民、ソレ等ノ人ノ生活難、或ハ失業問題、労働問題、労働爭議ト云フヤウナコトニハ、全然總理大臣ハ沒交渉デ御居ニナルト云フコトヲ證シテ居ルモノト私ハ了解イタシタノデアリマス、コトハヤルガドウ云フ風ナ程度デ何時ヤルカ、ソレハ分ラヌト云フコトニ仰次ニ政府ハ行政及ビ財政ノ整理ヲ根本的ニ圖ルト云フ御意思ハ、今日ニ於テハ持ツテ御居デニナラナイト私ハ了解イタシマス、又陸軍ノ軍備縮小ハヤルコトハヤルガドウ云フ御意思ハ、今日ニ於テセラレタト私ハ了解イタシマシタ、又政府ノ關稅政策ハ從來ノ政策トハ少シモ異ナラヌ、即チ國庫收入主義ノ保護貿易デアッテ、經濟的ノ門戶開放ヲ行ツテ、我國ノ產業貿易ヲ發達サセル爲ニ、自由貿易ヲ行フト云フ御意思ハ毛頭ナイト云フコトニ私ハ了解シタノデアリマス、又食料政策ニ付キマシテノ私ノ質問ノ趣旨ヲ、總理大臣ニ於カレテハ、少々御取違ヘニナッテ居ルヤウニ思フ、私ハ決シテ米穀ノ官營ヲ申シタ譯デハナイノデアリマス、併ナガラ此事ヲ申上ゲルト云フト大分長クナリマスカラ、是ハ他日ノ機會ニ譲リマシテノ此儘ニ致シテ置キマス、最後ニ總理大臣ハ斯様ニ仰シヤッタ、粗製濫造品ハ買フ者ガアルカラ賣ルノデアル、喜ンデ先方ガ買フカラコツチガ賣ル、少シモ話デアルト云フヤウナ意味ノコトヲ仰シヤッタ、此奴ハ少々聞流シニシテ置クコトハ出來ナイ私ハ御言葉デアルト思フ、是ハ粗製濫造品ニ政府ノ「トレードマーク」ヲ總理大臣ガ御貼リニナッタモノデアルノデアリマス、サウシテ此御言葉ハ日本ノ商業道德ニ容易ナラザル影響ヲ與ヘル、サウシテ將來ノ商業發展ニ少ナカラサル所ノ關係ヲ持ツテ居ル、御言葉デアルト私ハ思フノデア

ル、總理大臣ハ粗製濫造品ヲ先方ガ喜ンデ買フト仰セラレマシタガ、商賣ト云フモノハ通常見本取引ニ依テ成ルト云フコトハ、總理大臣モ御承知ノコトデアルト思フ、若シ日本ノ商人ガ外國ノ得意ニ送ツタ見本ガ粗製濫造品デアッテ、其見本通リノ粗製濫造品ヲ海外ニ送出シタト云フコトナラバ、ソレナラバ總理大臣ノ御言葉ハ當ツテ居ルノデアリマス、併ナガラ若シ日本ノ商人ガ優良ナル見本商品ヲ送ツテ、サウシテ商品トシテハ粗製濫造品ヲ送ツタト云フコトデアリマスルナラバ、總理大臣ノ御言葉ハ當ラヌノデアリマス、私ガ火事場泥棒的ト申シタノハ、此ノ後ノ場合ノ事實ヲ指シテ申シタノデアリマス、此總理大臣ノ御言葉ガ當ツテ居リマスルカ、當ツテ居リマセヌカハ、是ハ内外商人ノ常識判断ニ委セルノ外ハナイノデアリマスガ、若シ私ノ言フ通りノ意味ガ事實デアッテ、サウシテ而モ總理大臣ノ御言葉ガ當ツテ居ルト云フコトデアルナラバ、今後農商務大臣ハ良貨廉賣ナドト云フコトハ、モウ仰セラレルコトガ出來ナイト私ハ思フ、私ハ左様ニ了解致シマシタ、是デ物價問題ニ對スル質疑ハ打切ツテ置キマス、是ヨリ第二ノ綱紀肅正問題ニ對スル質疑ニ移リタイト思ヒマス、綱紀肅正ニ關スル問題ハ前議會ヨリノ懸案デアリマス、御承知ノ如ク前議會ニ於キマシテ、貴族院ノ豫算總會ハ全會一致ヲ以テ今日ノ綱紀頽廢ノ現狀ニ鑑ミマシテ、政府ハ速ニ適當ノ方法ニ依テ矯正ノ實ヲ擧げラレムコトヲ希望スル旨ヲ假決議トシテ決議イタシテ、サウシテ豫算ヲ通過セシメタノデアリマス、元來此綱紀ノ弛緩、風教ノ頽廢デアルトカ、或ハ政治ノ腐敗墮落デアルトカ申シマスルコトハ、何レノ時代ノ政治ニ於キマシテモアルコトデアリマシテ、之ガ全滅ヲ期スルト云フコトハ、到底出來難イコトデアリマスル、併ナガラ去リトテ之ヲ政治ニ附物ノ避クベカラザル惡事トシテ放任スルト云フコトモ許サレナイト思フ、我々ハ極力之ガ肅正ニ努メナケレバナラヌト云フコトハ勿論デアリマス、殊ニ近年ノ我國ノ如ク大小幾多ノ風紀ノ潰亂ニ屬シマスル事件ガ頻發イタシマスルコトハ、誠ニ容易ナラヌ事態デアリマシテ、政府ガ之ニ對シテ如何ニ措置セラルルカハ、我々國民ト致シマシテモ、又議員當然ノ職責ト致シマシテモ、深甚ノ注意ヲ拂ツテ居ル所デアリマス、一昨日高橋總理大臣ハ施政方針ニ關スル御演說中ニ、殊ニ思想上及ビ風教上ノ問題ニ思ヒヲ寄セラレマシテ、利慾ニ走ツテ節義ヲ輕ンズルノ傾向ノアルコトヲ嘆ゼラレ、又極端ナル學說ニ依テ社會ノ秩序ヲ紊ルト云フ傾キガアルト云フコトヲ嘆カレマシテ、サウシテ今後大ニ風紀ヲ振興シ、

官紀ヲ肅正セムコトヲ圖ルト云フコトヲ御聲明ニナリマシタ、私ハ國家ノ爲ニ幸慶ニ堪ヘヌノデアリマス、茲ニ於テ私ハ數箇ノ問題ヲ掲ゲマシテ、稍、具體的ニ總理大臣ノ御所見ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス、彼ノ滿鐵事件、或ハ大連ノ阿片事件、乃至寶塚郵便局事件、横濱稅關ノ不正事件ノ如キ、滿天下ニ知レ通ツタ所ノ事件ハ申スニ及バズ、之ニ類似イタシマシタ所ノ幾多ノ不正濱職事件ハ近來ニ於キマシテ、頻發ノ有様デアルノデアリマス、斯様ナ有様デアリマスト、我ミハ我ミノ承知イタシテ居リマセヌ所ノ裏面ニ尙ホドセヌカハ、是ハ別問題ト致シマシテ、斯ノ如キ不正事件ヲ單ニ法律上ノ方カラ見マスルト云フト、摘發セラレマシタ所ノ犯罪者ハ司法權ノ發動ニ依テ、トデアラウト思フ、政治ノ關係ガ此事件ノ中ニ這入ツテ居リマスルカ、居リマセヌカハ、是ハ別問題ト致シマシテ、斯ノ如キ不正事件ヲ單ニ法律上ノ方カラ見マスルト云フト、監督不行屆ニ對シテ政府ハ如何ニ措置セラレソレゾレ適宜ニ處分サレルデアリマセウ、併ナガラ斯ル犯罪者ヲ出ダシテ官紀ヲ紊亂シ、國民ヲシテ政府ノ施政ニ對シテ疑惑ヲ抱カシメルト云フニ至ツタ關係各官廳ノ放漫ナル不取締、監督不行屆ニ對シテ政府ハ如何ニ措置セラレムトセラレマスルヤ、縱令是ガ官吏ノ服務規律ニ觸レヌト致シマシタ所ガ、政府ハ監督官廳ノ當事者ニ對シテ、政治上ノ責任ヲ糺サナクテ御濟ミニナルノデアリマセウカ、先づ私ハ此點ニ付キマシテ總理大臣ノ御所見ヲ伺ヒタイノデアリマス、又事件其モノハ法律上何等ノ關係ガナイト致シマシテモ、政治道德ノ上カラ見マシテ、明カニ綱紀官紀ノ紊亂ナリト認メラレル所ノ事實ガ近頃非常ニ多いノデアリマス、サウシテ斯様ナ事件ハ國家ノ威信ヲ傷ケ、國民ヲ蠹毒スル點ニ於キマシテハ、法律上ノ事件ヨリハ尙更ニ甚ダシイモノト私ハ思フノデアリマス、試ニ二三ノ事例ヲ舉グマシテ總理大臣ニ伺ヒタイ、近年一般官吏ノ氣風ガ何トナク眞面目緊張味ヲ缺キマシテ、國家ノ公僕トシテ公ニ仕ヘ、國ニ奉スルノ念慮ガ薄クナッタヤウニ感ゼラレルノデアル、從ツテ義務責任ト云フ如キ觀念ガ誠ニ薄弱ニナッテ、唯自分ハ勞力ト報酬ヲ經濟的ニ交換シテ仕事ヲスルンダ、俺ハ百圓ノ給料ヲ取ツテ居ルカラ、百圓ダケノ仕事ヲスレバ宜イト云フヤウナ物質的ノ觀念ニ趨ルト云フコトガ餘程多クナツテ來タ、從ツテ何トナク頽廢氣分ガ官場一帶ニ漲リテ居ルト云フヤウナ感じガスルノデアリマス、其結果ト致シマシテハ、官廳事務ノ弛緩瀧滯、怠慢疏略、不深切ト云フヤウナコトガ事實トシテ現ハレテ參ツテ居ル、殊ニ通信交通事務其外國民ガ直接ニ交渉シマスル事務ニ於テ、殊ニ斯様ナ弊害ガ著シイ

ト云フコトガ我ミノ眼ニ映ジテ居ルノデアリマス、斯様ナ事實ニ付キマシテ總理大臣ハ如何ニ御考ヘニナリマスルヤ、又近來全國各地ノ小學校、中學校其他ノ學校ニ於キマシテ教員ヲ排斥スルト云フ如キ排斥運動ガナカナカ激シイ、或ハ又生徒ガ同盟休校ヲスルト云フヤウナコトガ起リ、若クハ生徒教育間ニ風紀問題ガ屢々起ル、斯様ナコトハ現代ノ思潮カラ參リマスル所ノ個性主義トカ、或ハ自由思想トカ、或ハ解放主義トカ申シマスル極端ナル學說カラ參リマスル所ノ惡影響デアラウト思ヒマスルガ、兎ニ角斯ノ如キ現象ガ教育界ニ現ハレテ參ツテ居ルト云フコトハ甚ダ憂フベキコトデアルト私ハ思フ、嚴肅ナル規律節制ノ下ニ第二第三ノ國民ヲ教養シナケレバナラヌ所ノ教育界ガ斯ノ如ク放縱紊亂ノ有様ニアッテ、サウシテ文政ノ當局ニ於キマシテ、何等斯ノ如キ傾向ヲ抑制スル所ノ權威ガナイト云フコトハ、ドウ云フモノデアリマセウカ、文政竝ニ文政ノ首腦者ニ對シテハ、前議會ニ於キマシテ貴族院ハ熱心ニ議論ヲ闘ハシタノデアリマス、而シテ今日尙ホ幾多ノ痛心ニ堪ヘヌコトガ多イノデアル、高橋總理ハ此ノ事實ニ對シマシテドウ御考ヘニナリマスカ、又近頃社會ノ公安ノ維持ニ任ジテ居リマスル所ノ警察、殊ニ其首腦部タル所ノ警視廳ニ對スル國民ノ非難ノ聲ガ頗ル激シイ、又警視廳内ニ風紀紊亂ノ事實ガアルト云フコトガ社會ノ間ニ著シク喧傳セラレテ居ルノデアリマス、或ハ又警察部内ニ於ケル不正事件ノ如キハ屢々起ツテ居ルカノ如ク考ヘラレル、サウシテ若シ司法官ガ之ヲ檢舉シヤウトシマスレバ、是ハ警察行政ノ威信ニ係ルカラ、ドウゾ其コトダケハ止メテ貰ヒタイト云ウテ、ソレヲ阻止スルト云フヤウナ事實ガアルヤウニ私ハ承ッテ居ルノデアリマス、嚴肅方正ヲ命トスル所ノ警察官ニ、警察部ニ斯ノ如キコトガアルト云フコトハ何事デアリマセウカ、殊ニ私ハ警視廳ニ關スルコトニ付キマシテ一二默止スルコトノ出來ナイコトガアルノデアリマス、ソレハ第一ハ警視廳ノ保安部長タル人ガ賄賂ノ取次ヲシタト云フ廉ヲ以テ起訴セラレテ居ルト云フ事實デアリマス、警察事務ノ主管者ガ斯ノ如キ嫌疑ノ裡ニ陥ツテ居リマスルト云フコトハ何事デゴザイマセウカ、警視廳ノ面目ガ何處ニアリマス、警視總監ハ之ニ對シテ責任ヲ御感ジニナラナインデゴザイマセウカ、若シ斯ノ如キ重大ナル責任ヲウツチヤツテ置クト云フコトデゴザイマスルト云フト、モウ責任觀念ナドト云フコトハ滅茶苦茶ニナッテシマフト私ハ思フ、又第二ニハ帝都ノ中央デアル所ノ東京驛ノ構内ニ於テ一國ノ總理大臣ガ一青年ノ爲ニ非業ノ死ヲ遂ケラ

レタ、是ハ實ニ國家ノ爲ニ重大事件デアルノデゴザイマス、サウシテ之ニ對シテ誰ガ政治上ノ責任ヲ負ヒマシタカ、若シ之ガ不問ニ付セラルルヤウナコトデアリマシタナラバ、我國固有ノ道德觀念ハ地ヲ拂ッテ無クナッタト云フモノデアリマス、ソレカラ又近來中央及ヒ地方ノ公共自治團體ノ紊亂ト云フモノハ頗ル激シイヤウニ思フ、東京及ビ京都ノ市政紊亂ノ如キハ顯著ナル實例マスルト、昨年東京市全體ニ亘ッテ六十何箇條、或ハ七十箇條ト云フ如ク、違法不當行爲ガ發見サレタノデアリマス、又彼ノ有名ナル東京ノ獄事件、是ハ何タル奇々怪々事デアリマセウカ、官吏、代議士、市會議員、實業家、其他社會ニ於テ相當ナル地位ヲ占メテ居ル所ノ七十何名ト云フモノガ法廷ニズラリト竝ンデ、司法官ノ糾彈ヲ受ケテ居ル、東京市ト云フモノハ百鬼夜行ノ體デアルノデアリマス、勿論其直接ノ責任ハ市民其者ニアル、又市行政部ニアルノデアリマス、併ナガラ自治團體ノ監督者タル所ノ内務大臣ハ監督ヲ完全ニシテ御居デニナツタ御考ヘニナツテ居リマセウヤ否ヤ、總理大臣ハ斯様ナ事實ヲドウ御考ヘニナリマスカ、又最近ノ例トシマシテ金澤、名古屋、熊本ナドデ市會議員ノ選舉ガアリマシタ、ソレニ對シテ極端ナル選舉干渉ガ行ハレタヤウニ私ハ聞イテ居リマス、是ハモウ明カニ中央政治界ノ弊害、政黨競争ノ弊害ガ地方ニ浸潤シタモノト見テ宜シウゴザイマセウ、總理大臣ハソレ等ノ事實ヲドウ御覽ニナリマスカ、尙ホ私ハ一步ヲ進メマシテ、政府ト原内閣ハ我國最初ノ政黨内閣デアル、政友會ニ依テ始メテ真正ナル政黨政治ガ我國ニ行ハレタト云フコトハ、私ハ衷心政友會ニ對シテ感謝スル次第デアリマス、現内閣モ亦先代原内閣ヲソックリ其儘御引繼ニナリマシテ、矢張政黨内閣デアル、勿論陸海軍大臣ダケハ今日尙ホ依然トシテ軍人ノ專有ニナツテ居ルノデアリマシテ、軍人以外ノ國民ガ軍事行政ヲ司ルコトガ出來ナイト云フコトハ、頗ル私ハ不本意ニ存ジマスガ、ソレヲ除キマシテ、此ノ日本ニ於テ立派ナ政黨政治ガ其當時樹立イタシタモノト考ヘテ宜カラウト思フ、此ノ政黨政治ガ再び官僚内閣デアルトカ、或ハ超然内閣ト云フガ如キ非立憲ノ政治ニ逆戻リシヤウト云フコトハ、私ハ毛頭考ヘテ居リマセヌ、又國民モ斯様ナコトヲ許スコトハナイト思ヒマス、茲ニ至リマシテ政黨ト云フモノノ責任ガ非常ナル重大ヲ加ヘテ來タヤウニ思フ、政黨ハ飽迄公正ノ態度ヲ以テ、飽

迄立憲的ノ言議行動ニ依テ國家ノ爲ニ盡サネバナラヌ、若シ政黨ノ言動ニ聊カタリトモ政治道德上缺陷ガアリ、少シタリトモ國民ノ疑惑ヲ招クヤウナコトガ起リマシタナラバ、モウ其政黨ハ政黨タルノ價值モナク、資格モナク、名モナイモノニナツテシマフノデアリマス、故ニ我ニ國民ハ内閣ノ基礎タルベキ政黨ニ對シテハ、今後ニ於キマシテモ、常住不斷ノ注意監視ヲ以テ見ネバナラヌト思フノデアリマス、然ニ今日我國ノ政黨及び政府ノ關係ニ付キマシテ、識者ノ見ル所ニ依リマスルト、識者ノミデハアリマセヌ、國民一般ガ見ル所ニ依リマスルト云フト、今日我國ノ政黨ハ政黨ニ非ラズシテ朋黨ナリ、私黨ナリ、我國ノ今日ノ政黨ハ唯モウ黨利黨勢ノ擴張ノミニ汲々トシテ、眼中國家ナク、政黨員ハ政權利權ノ獲得ノミニ熱中イタシマシテ、之ヲ達スル爲ニハ如何ナル手段方法ヲモ擇バヌト云フヤウナ狀況デアル、政府及ビ政府ノ與黨ハ官權ヲ利用シテ、地方問題デアルトカ、利益問題デアルトカ云フヤウナモノヲ提ゲテ、地盤ノ擴張ヲ計リ、或ハ政權ヲ濫用シ、議員ノ選學ノ時ノ如キハ、或ハ地方官或ハ警察官、甚シキニ至ツテハ郵便局員ナドモ使用イタシマシテ、極力壓迫干涉ヲ試ミルト云フコトデアリマス、政府ハ空漠雲ヲ掴ム如キ黨勢擴張的ノ法案ヲ議會ニ提出シテ、サウシテ地方人士ノ歡心ヲ買ハムトシテ居ラレル、野黨ヨリ云ヒマスト、政府ノ高官ハ己レノ地位職權ヲ利用シテ自己ノ爲、又自己ニ與スルモノノ爲ニ、利權利益ノ獲得ニ斡旋奔走シテ居ルト云フ有様デアル、甚シキニ至ツテハ檢事ノ起訴權ヲ左右シテ司法權ノ獨立ヲ侵害スルト云フコトガアルト云フヤウナコトヲ感ジテ居ルモノサヘルノデアリマス、果シテ斯ノ如キ事實ガ少シデモアリト致シマスレバ、我國政黨ノ弊害ト云フモノハ、其極ニ達シタモノデアリマシテ、綱紀ノ紊亂ハ實ニ今日ヨリ甚シキハナシト言ツテモ宜カラウト思フ、之ニ對スル政府者ノ答辯ヲ聞イテ見マスト云フト、ソレハ反對黨ノ言フコトデアル、反對黨ノ言フコトハ事實ハ無イ、少シモ證據ガ舉ラヌコトデハナイカ、政府ヲ攻撃スルナラバ證據ヲ御擧ゲナサイ、事實ヲ擧ゲテ言ハナケレバ政府ハ何トモ御答スルコトハ出來ナイ、又地方官警察官吏ノ如キモ同ジク人間デアル以上ハ、愛憎好惡ノ無イコトハナイ、斯様ナコトハ政黨ハ御互ニ言フコトデアリマス、ト云フヤウナ御答ヲ往々政府者カラ承ツテ居ルノデアル、私ハ決シテ反對黨デアルトカ、或ハ政府黨デアルトカ云フモノノ區別ヲ眼中ニ置ク者デアリマセヌ、又私ハ斯様ナ政治道德上ノ問題ヲ證據ガ有ルノ無イノト云フコ

トヲ申シテ、三百代言的ニ取扱ハウト思ッテ居ラヌノデアリマス、或國ノ政府ノ如キハ政府全體ガ瀆職者ニアツタ爲ニ瀆職ノ事實ガ舉ラナカツタト云フコトガアルサウデアリマス、私ハ是等ノ事實ニ對シテ法律上ノ事實ニ對シテ、法律上ノ責任ヲ問ウテ居ルノデナイ、私ガ申シテ居ルノハ政治上ノ責任如何ト云フコトデアル、若シ國民ノ頭ノ中ニ斯ノ如キ疑惑ヲ生シテ、サウシテ其ノ疑惑ガ凝ツテ國民ノ心證トナッテ、サウシテ影響スル所ガ國家ノ休戚、國民ノ利害ニ非常ニ面白カラザル影響ヲ來タシタトシマスレバ、ドウデゴザイマセウカ、是等ニ對シテ政治上ノ責任ハ無イト御考ヘデアルデアリマセウカ、私ハ總理大臣始メ閣臣御一同ガ良心ニ訴ヘラレテ、ドウゾ此問題ハ御考慮ニナラムコトヲ希フノデアリマス、高橋總理大臣ハ先般政友會總裁御就任ノ弊頭ニ於カレマシテ、時勢ニ鑑ミテ世道人心ノ肅正ヲ高調セラレ、黨勢擴張ノ手段ハ國家ノ爲ニ最善ヲ盡スニアリト仰セラレテ黨員ヲ戒メラレタノハ、總理ニ於カレマシテモ政黨ノ時弊ヲ大ニ感ゼラレタ所ガアツタノ故デアラウト私ハ思フノデアリマス、昨日モ總理大臣ガ利慾ニ走テ節義ヲ輕ンズル傾向アリト仰セラレマシタノハ、誠ニ緊切ニ今日ノ政黨ノ時弊ヲ仰セラレタノデアリマシテ、一語千金ノ重ミガアルト私ハ感ジテ居ル、私ハ切ニ高橋内閣總理大臣ノ御健在デアラムコトヲ祈ルノデアリマス、私ハ此際、私ガ茲ニ申述べ

マシタ所ノ政府ト政黨トノ關係ヨリ生ズル所ノ綱紀紊亂ノ事實ニ就テ、總理大臣ヨリ正直ナル僞ラザル所ノ御所見ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス、最後ニ今一言申シテ置キタイノハ、凡ソ政府ノ言フ所行フ所ガ國民ノ心理ニ反映スル影響ト云フモノハ、誠ニ大ナルモノガアルデアラウト思フ、例へバ國務大臣ガ議會ニ於ケル説明應答ニ於テ、唯徒ラニ詭辯強辯ヲ弄シテ、一時其場ヲ糊塗スルニ止メテ、國事ヲ議スルヤウナ誠心誠意ガ御有リニナラナカッタリ、或ハ國務大臣ガ當然國民ニ對シテ執ラナケレバナラヌ所ノ責任ヲ回避シ渦中に没頭セシメタリ、或ハ政府ガ已レヲ支持スル所ノ政黨派ノ爲ニ、萬人ノ見テ最モ適任ニアラズトスル所ノ人ヲ擧ゲテ、之ニ高官榮職ヲ與ヘテ選叙ヲ案ルガ如キ、若シ斯様ナコトガアリマシタナラバ、是ハ明カニ官紀紊亂、或ハ其誘因トナルモノデアリマシテ、國民ノ心理ニ少カラザル惡影響ヲ與ヘルノデアラウト私ハ思フノデアリマス、政府ハ如何ニ之ヲ御考ヘニナリ

#### 〔國務大臣子爵高橋是清君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(子爵高橋是清君) 唯今藤村男爵ヨリ初ニ矢張物價問題ニ付テ一昨日御答ヲ致シマシタル事柄ニ付テ、更ニ又御質疑ニナツタノデアリマスガ、悉ク藤村男爵ノ御理解ニナツタル事柄ガ相當デ、私ノ同意ノ出來ルコトナラバ、之ニ對シテ御答ハ要ラヌノデアリマス、少シク辯明ヲシナケレバナラヌ必要ヲ感ジタノデ、ソレ故御答イタシテ置キマス、藤村男爵ノ確メタイト仰シヤルコトハ、物價調節ト政府ノ政策トハマルデ沒交渉ダ、而モ政府ハ物價調節ニ對シテ何等之ニ努力スル意思ガ無イカト云フコトデ、左様ナ御考ノ起ルヤウナ答辯ヲシタ心ハナイノデ、マダ速記ヲ見マセヌカラ……當日ノ速記ヲ見マセヌカラ、定メシ藤村男爵モマダ御覽ニナラヌカモ知レマセヌ、其當時私ノ諒解シタコトハ、藤村男爵ノ御希望、物價調節ニ付テハ、總テ政府ノ力ニ依テ是ガ出來ルト云フ前提ノ下ニ御希望ガ述ベラレタヤウデアツテ、ソコデ若シ政府ノ力ヲ以テ有ラユル物價ヲ調節セムトスレバ、所謂共產黨トイト云フ所ニ行カナケレバ、ソレハ出來ナイノデアル、併シソレモ決シテ長

マスカ、更ニ又茲ニ一つノ法律上ノ不正事件ガ出來シタト假定スル、便宜上或ハ之ヲ満鐵事件ト申シテモ大連阿片事件ト申シテモ宜イノデアリマス、其事件ノ内容ガ政治ニ關係シテ居ル、サウシテ其關係シテ居ルト云フコトハ政事者ノ利益デアル、ソレカラ此事件ノ裏面ニハ政府ノ與黨ノ黨員ガ介在シテ居ル、ソレハ政治上ノ意味ヲ以テシテモ、又其政黨ノ「ボッケット」上ノ意味ヲ以テシテモ關係ヲシテ居ル、ソレカラ又其事件ノ主犯者ハ政府ガ任命シタ所ノデアル、サウシテ此事件ニ對シテ國民ハ深イ疑惑ノ念ヲ以テ見テ居リマシテ、偶氣違ノヤウナ者ガ起ツテ、自ラ制スルコトガ出來ズシテ、唯徒ニ國事ヲ憂ヘテ政府ノ行爲ヲ惡事ナリトシテ直接行動ニ出デ、國家ニ對シテ測ルベカラザル損害ヲ與ヘタトシマスレバ、政府ハ斯ノ如キ事實ヲ如何ニ御考ヘニナリマスカ、綱紀ノ紊亂ヨリ生ズル所ノ國民思想ノ荒廢惡化、之ヲ政府ハ如何ニ御考ヘニナリマスカ、抑、政府ハ右私ガ數條掲ゲテ申シマシタ所ノ綱紀紊亂ノ事實及ビ國民ノ疑惑ニ對シテ如何ニ綱紀ヲ肅正サレ官紀ヲ匡正サレテ我ミニ安心ヲ與ヘラレルデアリマセウカ、ドウカ是等ノ點ニ付キマシテ高橋總理大臣ノ誠意アル御明答ヲ伺ヒタイト思フノデアリマス

ク續クモノデアリマセヌ、一時露國ノ「レニン」氏ガヤッタヤウナコトヲスレバ、一時ハ何カ效ヲ奏スルカ知ラヌケレドモ、是ハ長クハ續クモノデナイ、物價ヲシテ個々人々ノ生活ノ程度ニ適フヤウニ平準ヲ得セシメル、斯ウ云フ趣意デ御質疑ニナツタヤウニ私ハ諒解シタノデアル、果シテ國民個々ノ人ノ生活ノ程度ニ總テノ物價ヲシテ相當ナラシメムトスレバ、是ハ總テノ事ヲ國ノ力ヲ以テスルヨリ外方法ハ無イト考ヘラレタカラ、左様ナ御答ヲシタノデアル、左様ナ御答ヲシタカラト言フテ、政府ハ決シテ物價ノコトニ何等頓著セヌト云フ意味ニハナラヌノデアリマシテ、左様ナ過激ナ方法ヲ探ラズシテ、出來得ルダケノ手段ヲ採リ、努力シテ居ルコトハ申上グルマデモナイユトデアルノデアル、ソレカラ國民ノ生活ト云フコトニ付テ、若シ安定ト云フコトガ今日ノ場合世界中ニ於テ言ハレルナラハ、其ノ場合ニ於テハ、或ハ日本ノ國民ノ生活ノ安定ト云フコトガ筆頭ニ位セヌカト考ヘル、斯ウ申シタコトハ是ハ唯空漠タル妄想デハナイノデ、勿論御承知ノ通り、今日國民ノ生活ノ安定ト云フコトニ付テモ、社會ノ秩序ノ安定ト云フコトニ付テモ、歐羅巴ハ無論是ハ取ルニ足ラヌ非常ナコトデアル、併シ今日我國ト比較シ得ベキ所ノモノハ、先ツ大體亞米利加ヲ指シテ私ハ言ウタノデアル、是ハ近頃亞米利加ヘ我國ノ人ガ行ツテ歸ツタ人ノ話、或ハ亞米利加カラ渡來シテ來ル人ノ話、其ノ他新聞、雜誌、諸會社ノ報告等ニ依テ、大體ノ亞米利加ノ狀態ヲ觀察シテ見マシテモ、亞米利加ノ農村ノ如キハ非常ニ困難シテ居ル、御承知ノ通り失業者ガ今日五百萬人以上ニ上ボッテ居ル、農家ハ借財ヲシテ今日尙困ツテ居ル、事業家ハ戰爭後ノ打擊ニ依テ一時ヲ凌グ爲ニ借財ヲシテ、其借財ヲ戻スタメニ汲々トシテ新ニ仕事ヲ起サウト云フ氣合ヒハナイ位デアル、一億萬人ノ人口ヲ有スル歐洲諸國ノ全體ノ狀態ヲ以テ、我國ノ七千萬ノ全體ノ人口ヲ有スル狀態ト比ベテ見レバ、生活上社會ノ安定ト云フコトハ私ハ亞米利加ヨリ日本ノ方が遙ニ上デハナイカト真ニ考ヘテ居ル、ソレカラ第三ニハ行政財政ヲ根本的整理ヲシナイ、陸軍ノ縮小モ十分ヤル氣ガナイカト云フ御疑ヒモアルヤウデアル、行政財政ノ根本的整理ト云フコトハ、何人モ之ヲ希望シナイ者ハナイ、行政財政ノ根本整理甚ダ言フニ安クシテ行フニ難イモノナノシイコトデ、併シソレナラバ全クヤラヌノカト云フト、常ニヤル考ヲ有ツテ

居ル、機會ノアル毎ニ之ヲ實行シテ行カウト考ヘテ、決シテ怠ル考ハ無イノ  
デアル、又陸軍ノ縮小ト雖モ具體的ニドレダケノ縮小ヲスルト云フコトハ、  
今日マデ華盛頓會議ニ於テ總テノモノガ確定シタト云フ譯デモナイ、幸ニシ  
テ是ガ總テ協定ガ出來テ、各國トモニ之ニ批准シテ初メテ之ヲ實行スル時期  
ニ入ルノデ、今日ハ豫想ニ止マルノデアル、左様ナ狀態デアリマスカラ、陸  
軍ノ如キモ此四圍ノ事情ニ依テ國ノ安全ヲ保ツ爲ニ、必要ナ程度ニ於テ總テ  
ノ事ヲ成ルベク縮小シテ行カウト云フコトハ當然ノコトデアリマス、其意思  
ハ十分ニ當局ハ有ツテ居ルノデアリマスガ、茲ニ數字方法等ニ付テハ形式上  
ニ於テモ具體的ニマダ申上ゲル時機ニ達シテ居ラヌノデアリマス、又關稅ノ  
コトニ付テハ、政府ハ自由貿易ヲ行ウテ殖產……國ノ產業ヲ振興スルト云フ  
手段ヲ採ラナイカト、斯ウ云フノデ、自由貿易必シモ其國ノ殖產興業ヲ發達  
セシムルノ最上ノ政策トハ私ハ信ジテ居ラナイ、尙更今日ノ戰後ニ各國トモ  
恐ラク自由貿易ヲ眞面目ニ實行スル國ハ先づ當分ハナカラウト思フノデ、自  
由貿易ノコトハ茲ニ細カクドウ云フモノダト云フコトヲ申上ゲル必要ハナ  
イ、諸君御承知ノコトデアリマス、我國ハ關稅ノコトハ歲入ヲ圖ル爲ノ關  
稅デアリマス、又ドコマデモ保護稅、保護ノ政策……一般ノ保護政策チヤナ  
イ、所謂外國語ヲ用ヒチャ恐入リマスクレドモ、「プロテクチブタリフ」是ハ  
或種類ノ工業製造、之ヲ十分ニ發達セシムレバ、決シテ將來外國ノ品物ト競  
争シテ負ケナイ、縱令他日ハ無稅ニシテモ外國品ガ這入リ得ナイ位我國ニ一  
ツノ新ナル製品ナリ、工業ナンカガ興ル、斯様ナ目的ノ立ッタモノニ對シ  
テハ、五年十年ニ現代ノ人ガ稍高イ價ヲ拂ッテ居ツテモ、ソレハ忍ンデ後來ノ  
爲ニ一時所謂「プロテクチブタリフ」保護稅ヲ掛けニヤナラヌ、左様ナモノニ  
ドウシテモ貿易ヲ以テ立國ノ方針トセネバナラヌ、ソレニハ製造工業……此  
シタ製品ヲ海外ノ市場ニ提ゲテ行ツテ貿易ヲ進メテ行カナケレバナラナイ、  
製造工業ニ對シテ不幸ニシテ天然資源ノ薄イ國デアリマスカテ、原料ノ主ナ  
ルモノハ大概海外ヨリ輸入シテ來ネバナラヌ、此原料ニ加工シテ再ビ其加工  
ル、是ハ從來我國ノ關稅ノ方針デアル、關稅制度ノ方針デアル、今日モ何等

變ツタコトハナイ、矢張依然トシテ斯ノ如キ方針ヲ執ツテ進ム積リデアル、左様御承知ヲ願ヒタイ、又粗製濫造品ノコトニ付テ、何ヤラ私ガ此頃優良品ヲ安く造ラニヤイカヌト云フコトヲ民間ニ於テ殊更勸メテ、ソンナコトヲ云フ權利ハナイト云フ御話デスケレドモ、是ハ能ク速記録ニ就テ御調ベヲ願ヒタイモノデアル、如何ナル場合ニ私ハ粗製濫造ノ已ムヲ得ナカッタト云フコトヲ申シタカ、戰爭中ニ於テ俄ニ歐羅巴アタリカラ輸入シテ居ツタ國ノ人々ガ其製品ガ這入ラヌ爲ニ、商品ガ這入ラヌ爲ニ今日ノ生活上ニモ甚ダ困難ヲ感ジタノデ、ソコデ其品物ヲ供給シ得ル所ノ國カラ新ニ輸入ヲ圖ラナケレバナラヌ狀態ニナッタ、トコロデ我國ハ幸ニシテ直接戰爭ニ這入ラナカッタ爲ニ、我國ニ其缺陷ヲ補フ爲ニ種々ノ品物ニ付テ注文ガ出テ來タノデアリマス、其時ニ於テ粗製濫造ハ自然ノ勢ヒソコニ來タノデアリマス、之ヲ以テ火事場泥棒的貿易ノ發達ヲサセタト云フヤウニ御演説ニナッタカラ、私ハ是ハ已ムヲ得ナカッタンデアリマセウ、粗製濫造……粗製品デモ濫造品デモ無イヨリハ宜イカラ、之ヲ買ツ行クト云フコトニアレハナッテ行ツタノデアル、此ノ粗製濫造品ヲ政府ガ獎勵シタト云フ意味デヤナイノデ、又今日機會アル毎ニ今後海外ニ於テ貿易上ノ競爭ヲスルニ當ツテハ、優良品ヲ廉價ニ造ルコトニ國民ガ努力ヲシナケレバ、逆モ此競爭場裏ニ立ツテ行クコトハ出來ナイト云フコトハ機會アル毎ニ聲明シテ居ルノデアリマス、而シテ粗製濫造ヲ宜イト云ツテ獎勵スルノデハナイ、アノ時ニ於テ之ヲ止メルコトガ出來ナカッタデセウト云フコトヲ私ハ言ツタ、ソレカラ此綱紀肅正、官紀肅正等ニ……其爲ニ色々官吏ノ如キ、又教育上ニ……教育界ニ於ケル教員ヲ生徒ガ排斥スル、或ハ警視廳内ニ忌ハシキコトガアル、或ハ東京市ノ不正事件或ハ又名古屋ノ近頃ノ選舉ニ付テ政府ノ干渉トカ、種々具體的ニ色々ニ中ニハ言ハレタケレドモ、ソレハ政府トシテ一々首肯スル譯ニハイキマセヌ、事實ハ……併シ官公吏ノ瀆職事犯ハ藤村男爵ノ御述ベニナツタ通リ根絶スルコトノ出來ナイノハ甚ダ遺憾デアリマス、ドウモ從來矢張ドノ政府ト雖モ之ヲ宜イトシタ政府ハナイノデアタル所ヲ審ニシテ是ガ廓清ヲ圖ラムガ爲ニ、最善ノ方法ヲ講ジマシテ、最善ノ努力ヲナスニ敢テ怠ルコトハ決シテナイノデゴザイマス、又阿片トカ満鐵ノコトニ付テモ引證セラレテ色々御辯論ガアリマシタ、是モデス、是等ニ付

イテモ客年中政府ノ要職ニアル官吏ニシテ犯罪ノ嫌疑ニ依テ刑事上ノ訴追ヲ受ケタル者ガ出來マシタ、併シ其事件ハマダ審理中ニアリマスカラシテ、眞ヲ知ルコトハ出來マセヌ、併ナガラ其眞ニ非違ノ存スルト存セザルトニ拘ラズ既ニ嫌疑ヲ受ケルト云フヤウナ事態ノ生ジマシタルコトハ、政府ノ甚ダ遺憾トスル所ニアリマス、政府ハ一層選敍ヲ慎重ニシマシテ、監督ヲ嚴重ニシテ、以テ此官紀ヲ肅正セムト期シテ居ル次第デアリマス、併ナガラ此犯罪ハ其人ノ個人的色々ナ事情ニ依テ偶然ニ發スルコトガ多イノデアリマス、ドウモ個人的ノ色々ナ事情カラシテ發スルコトガ多イノデアリマシテ、有ラユル努力ヲ政府ハ盡シテ居リマスケレドモ、到底之ガ防止ヲスルコトハ……完ニ何カ政府ガ之ニ便宜ヲ與ヘタトカ、或ハソレヲ知ツテ黙過シテ居ルト云フヤウナ、政府ニ於テサウ云フヤウナ事實ガアリマスナラバ、是ハ政治上政府トシテハ其責ニ任ジナケレバナラヌコトハ言フヲ俟タヌノデアリマス、併シ政府ハ之ニ便宜ヲモ與ヘズ又知ツテ黙過スルコトモナクシテ、個人的ニ種々ナ事情カラシテ偶然發シタ所ノ犯罪ニ付テハ、政府ノ監督上ニ於キマシテモ、從來カラ是ハ懲罰委員モ出來テ居リマシテ、大抵先づ其近接ノ監督者ニ於テ、其監督ノ不行届ト云フコトハ處辨ヲシテ居ル譯デアリマス、先日ノ施政ノ方針ニモ述べマシタル通り、獨リ政府ハ官吏社會ニ止マラズ……官公吏ノ間ニ止マラズ、一般社會ニ於テ此戰後ノ影響ニ依テ、殆ど此社會ヲ崩壊スル……社會ノ善風美俗ガ崩壊サレムトスル狀態デアルノデアリマス、是ハ獨リ我國ノミデナイト見エマシテ、昨日外國カラ受取リマシタ雜誌ノ中ニモ、亞米利加ノ如キハ「ソーシャル、デモラリゼーション」社會ノ綱紀ノ頽發ト云フコトデ、是ハ矢張一般國民ガ社會ノ秩序ヲ重ンズルノ氣分ガ薄ラギ、法律ヲ輕ンジ公德ヲ輕ンズル、是ハ國民一般ノ目ガ覺メテ來ナケレバ社會ノ安定ヲ期スル譯ニ行カヌ、社會ノ安定ガナケレバ商工業ノ上ニ於テノ安定モ望ミ難イアリマスカラ、左様ニ御了承ヲ願ヒタイ、又政黨ト政府トノ關係、又政黨ノ通リ、諸君ト共ニ此弊風ノ匡正ニ任ジテ行キタイト政府ハ考ヘテ居ル譯デト云フヤウナコトニ大體ナツテ居リマス、ソコデ施政方針ノ中ニ述べマシタル所ヲ審ニシテ是ガ廓清ヲ圖ラムガ爲ニ、具體的ニ如何ナル事ト云フコトハ或ハ御同意ハ出來マセヌケレドモ、此政黨ノ間ニ於ケル弊ガ全ク無イトハ決シテ言ハヌ、併ナガラ唯今ノ御演説ニ依テ見マスト云フト、政黨ト云

フモノガ何カ國民ノ外ニアルヤウニ御考ヘニナツテ居ル、政黨ノ中ニ若シ惡イ事ガ在ルト云ウタナラバ、是ハ政黨バカリノ廓清ヲハイカナイ、政黨モ矢張國民ノ中ニアリマス、國民ガ政黨ノ中ニ這入ツテ居ル、國民ヲ外ニシテ、政黨ヲ國民外ニ置イテ、之ヲ廓清シャウト云フコトハ出來ナイコトデアリマスカラ、一般ノ國民ハ政黨ノ弊ヲ斯ク認メテ居ルト仰シャイマスガ、此政黨ハ矢張國民デアル、國民ハ矢張政黨デアル、悉クノ國民ガ政黨員デナイコトハ無論デアリマスガ、是ハ矢張政黨ノ廓清ヲ促スニハ、一般ノ人ガ矢張自覺シテ來ナケレバ困ルノデ、ソレデ藤村男爵ハ私ガ政友會ノ政黨員デアルガ故ニ、其政黨ノ弊ヲ匡正スルコトニ於テ十分ノ考慮ヲ願フト云フ御希望デアリマスルカラ、是ハ誠ニ感謝ヲ致シマス、私モ我ガ政黨ニ對シテハ十分ニ其點ノコトニ於テ自省シテ、間違タ事ヲシテハナラヌ、斯ウ訓誡モ致シテ居ルノデアリマス、併シ唯之ヲ政黨バカリガ惡イ、國民ガ善クテ政黨ガ惡イト云フコトノ御議論ニハ私ハ承服出來ナイ、ドウカ政黨バカリデナク、國民全體ニ付テ、今日ノ戰後ノ惡影響ニ依テ、世界各國共ニ苦シニ居ル、此社會ノ秩序ノ亂レタコト、思想ノ亂レタコトニ付テハ、是ハデス殘ラズ上下舉ツテ之ニ努力シテ掛ラナケレバナラヌノデアリマス、左様ニドウカ御承知ヲ願ヒタイノデアリマス

○男爵藤村義朗君 私ハ綱紀ト云フコトニ付キマシテハ、一々出來ルダケ分ルヤウニ具體的ノ案ヲ立テマシテ、政府ニ伺ヅタノデアリマシタガ、總理大臣ノ御答辯ハ其外ノ事ニ涉ツテ居リマスガ、私ノ質問ニ對シマシテハ、甚ダ要領ノ得難イ御答デアッタヤウニ私ハ思ヒマス、殊ニ政黨ガ國民ナリ、國民ガ政黨ナリト仰シヤルニ至ツテハ驚カザルヲ得ナイガ、之ヲ議論シテ居リマスルト大變ニ時間ヲ取リマスカラ、是ハ他日尙ホ伺フコトニ致シマス、物價問題ニ付テモ同様、マダ少々私ノ首肯イタシ兼ネル所モゴサイマスガ、是モ他日ニ讓リマシテ、私ノ質問ハ是デ止メマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 仲小路廉君

〔仲小路廉君演壇ニ登ル〕

○仲小路廉君 私ハ内閣諸公ニ色ミ御尋ヲ致シタイコトガ有ルノデアリマス、今日ハ就中最モ重要ナ問題ト存ジマスル綱紀肅正ニ關スル點ニ付キマシテ、高橋總理大臣ニ御尋ヲ致シタイノデアリマス、此問題ニ付キマシテ、今朝藤村男爵ヨリ詳細ニ而モ各種ノ具體的事實ヲ舉ゲラレマシテ、誠ニ詳シ

イ質問ガ有ツタノデアリマス、私ハ此際少シク立場ヲ變ヘマシテ、單リ此問題ニ付テハ、我ニ一二ノ議員ニ止ラズシテ、事ハ貴族院ノ立場、貴族院全體ニ關スル極メテ重大ナ問題ト存ジマス、此ノ貴族院ノ立場、貴族院ノ面目信用ニ關シテ、現内閣ハ如何ニ之ヲ取扱ハレタルカト云フ點ニ付テ、御尋ヲ致シタイノデアリマス、高橋總理大臣モ御承知デアリマス通リニ、昨第四十四議會ニ於テ貴族院ニ於テハ、殆ド滿場一致ヲ以テ決議イタシテ居リマス、申ス迄モナク、實ハ綱紀ノ頽廢民心ノ墮落ホド、世ニ憂フベキコトハゴザリマセヌノデアリマス、外ニ對シ公正ヲ主トシ民心ヲシテ倦怠ナカラシムコトヲ希望ス」是ハ貴族院ニ於テ殆ド滿場一致ヲ以テ決議イタシテ居リマス、申ス迄モナク、實ハ綱紀ノ頽廢民心ノ墮落ホド、世ニ憂フベキコトハゴザリマセヌノデアリマス、外ニ對シテハ我ガ日本帝國ノ信用ヲ傷ケ内ニ於テハ實ニ國民ノ安定ヲ害スル、民心ノ動搖ヲ來スノデアリマス、非義非道ノ者ガ世ニ跋扈ヲ致シテ、ソレ等ノ者ハ榮耀榮華ヲ極メルト共ニ、他ノ一面ニ於テハ日夜營々トシテ勞苦ヲ致シ、正直ナ人ミハ社會ニ其身ヲ置クニ處ナキニ至リ、加フルニ物價ハ益、騰貴ヲ致シテ、生活ノ脅威ヲ感ズル、斯様ナコトヨリシテ、茲ニ民心ニ動搖ヲ來スノデアリマス、其ノ結果ハ殆ド正邪善惡ノ觀念ハ所ヲ異ニシテ、世ノ中ニ殆ド神モ無イト云フ感シヲ起シテ來ル、畢竟今日此民心ニ不安ヲ來シ、トモスレバ動搖ノ感ジガアリトスルノハ、皆之ニ原因ヲ致シテ居ルト思フノデアリマス、幸ニシテ高橋總理大臣ハ此點ニ付テ我ニト感ヲ同シウセラルモノト御見受申ス、先刻藤村男爵ヨリモ述ベラレマシタガ、先般黨員其他世上ニ對シテ注意ヲ與ヘラレタモノデアリマセウカ、高橋總理大臣ハ深ク世道人心ノ頽廢ヲ憂ヘラレテ、人ミガ私ニ從ツテ公ニ殉ズル觀念ノ薄イコトヲ歎息セラレ、殊ニ又一昨日當議場ニ於テモ或ハ節義ノコトヲ呼ハリ、人心一般ニ射利ニ流レ、公義心ヲ失フコトヲ嘆息セラレタノデアリマス、私ハ是等ノ御言葉ニ依リマシテ、高橋首相ハ定メシ貴族院ノ決議ヲ尊重セラレマシテ、之ニ付テ必ズ適切ノ途ヲ執ラレタコト存ズルノデアリマス、是ニ於テ私ハ高橋總理大臣ニ伺ヅテ置キタイ、現内閣ハ果シテ貴族院ノ決議ヲ尊重セラレテ、其決議ノ趣旨ニ適フ途ヲ執ラレタカ否ヤ、但シ私ノ今、現内閣ト申スノハ、高橋君ノ大命ヲ奉ゼラレテ以後ノ内閣デハゴザイマセヌ、藤村君モ言ハルル通

リ前首相タリシ原君ノ内閣ト今回ノ内閣トハ同様ナモノニアリマス、其中ニ何等ノ區別ヲ置ク必要ハナイト存ジマス、故ニ私ノ茲ニ謂フ現内閣ハ、前内閣ト今回ノ内閣ト通ジテノコト御承知ヲ願ヒマス、先づ私ハ此點ニ付テ伺ヒタイノデアリマス、現内閣ハ貴族院ノ決議ヲ尊重セラレマシタナラバ、如何ニ今日マデ適切ナル途ニ依テ時弊ヲ矯正セラレマシタカ、如何ニ庶政ヲ釐革セラレマシタカ、如何ニ公正ヲ主トシテ民心ヲ倦マザラシムル途ヲ執ラレタノデアリマスカ、此三點、此三點ニ付テ先づ御伺ヒ致シタイ、私ハ主トシテ問題ノ要領ヲ得ムコトヲ望ミマス、御答辯ハ極メテ簡潔ニ、此三點ニ付テ今日マデ如何ナル施設ヲ執ラレタカト云フ點ニ付テ、先づ最初ニ御伺ヒ致シマス、然ル後ニ御答辯ニ依リマシテ、引續イテ二三必要ナル要點ニ付テ、御尋ネ致ス積リデアリマス、ドウカ左様ニ御承知ノ上御答辯アラムコトヲ希望イタシマス

## 〔國務大臣子爵高橋是清君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(子爵高橋是清君) 唯今仲小路君ヨリ 三點ノ御尋トアリマシタガ、貴族院ノ決議ト仰シヤルノハ文部省ニ關係シタコトデアリマシタカ、或ハ豫算ニ付テ決議ニハナリマセスケレドモ御希望ノ箇條ガ綱紀肅正ノコトニアッタ、無論決議ニナラウトナルマイト御精神ハ貴族院滿場ノ御精神ト承ツテ宜シイノデアリマスルガ、第一原内閣ト高橋内閣ハ同ジモノデアル、成程政友會ノ總裁トシテ大命ヲ拜シマシテ内閣ハ組織ヲ新ニ致シマシタルガ、人ガ替ラヌ、閣員ハ以前ノ儘デアル、ソレ故ニ原内閣時代ノコトモ矢張當然責任ヲ此内閣ガ執ッテ然ルベキダラウト云フ御考ノヤウニ察セラレマスガ、固ヨリ政友會ト云フモノガアッテ原内閣ガ出來タノデ、其主義政策ニ取ッテハ無論異ナルコトハナイノデアル、併シ政策ナルモノハ時勢ノ變遷ニ從ツテソレニ順應シテ立ツベキモノデアリマスルカラ、必ズ原内閣ノ執ッタ政策ハ少シモ變ヘズニ此内閣ガ遂行シテ行クト云フヤウナ責住ハ取レナイノデアリマス、又綱紀肅正ニ付キマシテハ其後先刻モ申マシタル通り在職者ニシテ左様ナ嫌ノデアリマス、マダ其審理中デアリマス、事實ノ確定ヲ見ル譯ニ行キマセヌケレドモ、ソレゾレ官紀ノ肅正ニ付キマシテハ司法機關ニ依テ今日審理中デアリマスカラシテ、苟モ左様ナ官紀ヲ紊亂シ、惡事ヲ爲シタヤウナ者デ相當

ニ檢舉スペキ者ハ、少シモ怠ラズニ司法機關ノ活動ヲ期待シテ居ル譯デアリマス、其他ニ付テ何カモウ少シ具體的ニ此箇條ハドウダトカ云フヤウナ御尋トナリマスト、御答ニモ甚ダ便利ヲ得ルノデアリマス、大體昨年カラノ問題ト云フ疑ガ深クナツタノデアリマスガ、其後司法機關ニ依テ今日ハ審理中デアリマス、何レ事實ハ明白ニナルコトデアル、但シ時ノ政府ガ之ヲ若シ犯罪アリトシテ此犯罪ヲ獎勵シタトカ、或ハ犯罪ヲ爲スコトヲ知リツツ之ヲ默過シテ居タト云フヤウナコトハナイコトハ私ハ信ジテ居ルノデアリマス、此二件ニ付キマシテバモウ少シ裁判上ノ方ノコトガ進行シテ參ツテ初メテ國民ガ真相ヲ知ツテ、此事ニ付テ安心ヲスルコトダラウト考ヘテ居リマス、唯今ノ御問ニ付テハ此位ノ御答シカ出來ヌト考ヘテ居リマス

○仲小路廉君 成ベク時間ヲ省キマス爲ニ此席ヨリ質問ヲ致シタイ……

○副議長(侯爵黒田長成君) 宜シウゴザイマス

○仲小路廉君 唯今高橋君ノ御答辯ヲ得マシタガ、誠ニ御答辯ハ質問ノ要點ニ當ラヌコトヲ私ハ殘念ニ思ヒマス、質問ハ簡単デアリマス、現内閣ガ貴族院ノ決議ヲ御尊重ニナリマスルナラバ、現内閣ハ時弊ヲ矯正スル爲ニドウ云フ御施設ガアリマシタカ、庶政ヲ釐革スルト云フ點ニ付テハドンナコトヲナサレタノデアリマスカ、又一般民心モ甚ダ倦シニ居ルデアラウト思フガ、其厭倦ヲ來タサナイ爲ニハドウ云フコトヲナサレタカ、是ハ私ノ一意デヤナイ、決議ノ要項ハ……貴族院ノ院議ヲ以テ政府ニ要求シタ點ハソレデアリマス、故ニ其要求イタシタ點ヲ現内閣ハ容レラレタカ、容レラレナイカト云フコトガ重大ナル點デアリマス、是ニ御答カナカツタコトハ甚ダ遺憾デアリマス、其上ニ尙ホ現内閣ト前内閣ノコトニ言及イタシタ際ニ、現内閣ト前内閣トハ多少違フ、其政策ノ上ニ於テモ違ヒカアルカモ知レナイ、如何ニモソレハ御尤デアリマス、併シ私ハ斯様ナコトヲ申シタク思フ、實際ニ於テ現内閣ト前内閣トハ變リハナイ、而シテ今日ノ首相タル高橋君ガ原内閣ニ於テ三年重要ナル任務ニ當ツテ居ラレタ御方デアル、然ニ今日ハ首相ノ地位ニ居ルカラ前内閣ニアッタ事柄トシテハ自分ノ關係スル所デハナイトハ、マサカ仰セニナラヌデアラウ、モウ一ツ言葉ヲ換ヘテ申シマスト前内閣ノコトハ悉ク原敬君ノコトデ、我々初メ閣員一同其コトハ知ラヌ、斯クハ申サレマイト思フ、所

謂一蓮舟ヲ共ニシテ生ヲ托スル、黨籍ヲ共ニスレバ責ヲ共ニスル、是ハ政治上當然ノコトデゴザイマスカラ、其間ニ前内閣ト現内閣トノ區別ヲツケルコトハ出來ヌト思フ、サスレバ第四十四議會ニ於テ、貴族院ニ於テ決議テ以テ前内閣ニ要求イタシタコトヲ現内閣ハ其要求ヲ容レテ、斯様ナコトヲ致シタト云フ點ハナクテハナラスト思フノデアリマス、然ニ唯今ノ御答辯ニ依リマスルト、唯僅ニ司法權ニ付シテ居ル、司法權ノ活動ヲ俟ツト云フ、是ハドウナツタノカ、是ハ甚ダ私奇怪ニ思フ、司法權ニ付スルコトハ御承知ノ如ク、昨年此決議ヲ我ゝガ致ス以前ニ於テ、司法權ニ付セナケレバナラヌ情勢ニナツテ居ツタ、隨ツテ司法權ニ付サレタト云フコトハ此決議以後ニ於テ何等ノコトモナイ、況ヤ司法權ニ付シタト云フコトヲ、ソレヲ現内閣ノ廓清ノ一ダト御考ヘニナツテ居ルノハ誤ツテ居ルト思フ、司法官ハ法規ノ規定ニ遁ツテ告訴ガアルカ告發ガアルカ、其他ノ事情ニ因ツテ犯罪ノ有ルコトヲ知ツタナラバ、當時ノ政府ハ其事ヲ望マズトモ、又司法官ノ一二ノ人ハ左様ナコトヲ望マズトモ、是ハ法律ノ下ニ於テ當然起訴ヲシナケレバナラヌ、又審問シ追究イタスノハ當然ノコトデアル、現内閣ガ厭デアッテモ司法官ハ其通リニスル、是ハ即チ司法權ノ本質デアッテ、司法權ニ付セラレタコトヲ以テ政府ノ行爲トハ云ヘナイ、司法權ノ審究ノ繼續イタシテ居ルト云フコトハ、貴族院ガ現内閣ニ要求イタシテ居ル庶政廓清ノ一端トハナラヌノデアリマス、次ニ伺ツテ置キタイコトハ、高橋君ハ斯ウ言ハレタ、世道人心ノ頽廢ヲ憂ヒラレルト云フコトハ、其中ニ於テ最モ重要ナル關係ハ、人間ノ羞耻ノコトデアル、廉耻ヲ知リ、責任ヲ重ンジ、世道人心ノ頽廢ヲ真ニ憂フルト云フナラバ、責任ノ觀念程重イコトハナカラウカト存ジマス、又廉耻ヲ知ル、之ガ最モ世道人心ノ頽廢ヲ防止スルニ必要ナル點デアラウト思ヒマス、現内閣ハ此三年有餘ノ間ニ實ニ忌ハシイコトガ多ク起リハシナカツタカト思ヒマス、就中今日ハ既ニ全天下ノ問題トナツテ居ル幾多ノ疑獄、幾多ノ不正事件ガ續出ヲ致シテ居ル、而モ之ガ普通生活ニ窮スル如何ナル時ニモソレハアリマス、今回阿片ノ事件満鐵ノ事件其外之ニ似寄ツタ多クノ事件ガアル、此ノ事犯ヲ何ト御覽ニナルカ、尋常一樣ノ事犯ニアラズシテ政治ト聯關ヲ致シテハ居リマセヌカ、政治關係カラ生ズル事犯デハナイ、満鐵事件阿片事件、其重ナル關係ハ大正九年五月十日ノ前後ニ於テ其事ガ釀

生サレテ居ルノデアル、大正九年二月二十六日ノ解散ハ私ハ甚ダ無理デアッタ  
ト思ヒマス、此一ツノ無理ヲ致シテ置イテ、茲ニ是非共五月十日ノ總選舉ニ  
於テ捷ヲ制セムトスルニ急ナルコトヨリシテ、各種ノ無理ヲ生ジハシナカッタ  
カ、多數ノ人ヲ選出セムトスレバ、所謂之ニ對シテ相當ノ費用ヲ要スル、此  
費用ヲ要スルコトノ爲ニ、茲ニ滿洲其他又内地ニ於テモ同様デアリマスガ、  
遂ニ事ノ急ナルヨリシテ斯ル事犯ヲ釀生シタノデハナイノデアリマセウカ、  
私ハ何故ニ斯様ナコトヲ申スカ、現ニ阿片事件、滿鐵事件、其他ニ依テ繫屬  
審究サレテ居ル當事者ガ何ト云ツテ居ル、其犯罪當事者自ラ左モ一大事ヲ爲  
シタト云フヤウナコトヲ言ツテ居ルノデアル、時ノ政府ニ忠勤ヲ勵ンタ結果斯  
様ナ事ヲ爲シタト云フヤウナコトヲ言ツテ居ルノデアリマス、實ニ滿鐵事件  
ニ對スル中西某、其記錄ヲ見テモ一大事、大事ノ前ニハ小事ヲ顧ミヌ、又其  
他ノ者モ時ノ政府ニ忠勤ヲ擢ンデータト云フコトヲ言ツテ居ル、ノミナラズサウ  
考ヘテ居ルノデアラウト思フ、ソレデアリマス、蓋シ政府ノ大官デアッタト  
云フ即チ拓殖局長官、若クハ當時政府ヨリ指名ヲシタ滿鐵副社長首メ、是等  
ノ人ミ、實ニ今日其真相ヲ知ルニ付テハ忌ムベキコトガ甚シイモノデアリマ  
ス、重大ノ責任ヲ有ツテ居ル滿鐵會社ニ於テ、其會社ノ爲ニ背信ノ行爲ヲシ、  
會社ノ爲ニ損失ヲ來ス、斯様ナ事、ソレ等ノ人ミハマサカ好ンデ致シタノデ  
ハナイ、是ハ或他ノ偉大ナル勢力ガ加ハツテ餘儀ナクシテ斯様ナコトヲシタ  
ノデ、其或他ノ偉大ナル勢力ガ加ハツテ斯様ナルコトヲシタ、其シタ人間ノ  
薄志弱行ハ云フ迄モアリマセヌガ、其之ヲ爲サシメタルモノハ、如何デアリ  
マスカ、現ニ現内閣ニ參與セラレタ拓殖局長官、現内閣ノ任命セラレタ滿鐵  
副社長、其他ノ人ミ、是皆遂ニ其職ヲ免ジ、或ハ職ヲ罷メテ、憐レニモ繫獄  
ノ身トナツテ居ルカ、若クハ訴訟繫屬中ノ人ミデアリマス、斯様ナ人ミ、斯様  
ナコトヲ爲スニ至ツタ其原因ハ何所ニ在ルカ、然ニ之ヲ爲サシメタ者ハ、恬  
然耻ナクシテ世ニ傲語ヲスル、斯ノ如クニシテ人間羞耻ノコトアルヲ知レリ  
ト言ヘマセウカ、ソレデ果シテ責任觀念ナルモノガ起ツテ參リマセウカ、若  
シモ高橋君ニシテ、眞ニ世道人心ノ頽廢ヲ憂フルナラバ、此責任ノ點ニ付テ  
ハ如何ニ思召シニナリマスカ、殊ニ一例デアリマスガ殊ニ、今朝藤村君モ言  
テ渺ナカラヌ關係ヲスルノミナラズ世界的ニ眼ヲ側テ居ル、之ニ對シテ一

人ノ責任者ガナクテ濟ムモノデアリマセウカ先づ此點ヲ伺ヒマス

〔國務大臣子爵高橋是清君〕唯今重ネテ責任ノコトニ付テ御尋デアリマス

○國務大臣(子爵高橋是清君) 唯今重ネテ責任ノコトニ付テ御尋デアリマス、ルガ、色ニ御推定ニナツタ事柄ニ付テ、私ハマダ其事實ガ判明シテ居ラヌト考ヘルノデアリマス、總テノ御議論ニ付テ、首肯スル譯ニ行カヌノデアリマス、唯先刻モ申上ゲタ通リ豫算委員會ニ於テ、貴族院ガ……決議ニハナリマセヌガ、併ナガラ滿場ノ御希望トシテ報告セラレテ、其儘ニナリマシタ所謂綱紀肅正ニ對シテノコトデアリマス、是ハ「政府ハ速ニ適切ノ方途ニ由リ時弊ヲ矯正シ庶政ヲ釐革シ公正ヲ主トシ民心ヲシテ倦怠ナカラシメンコトヲ望ム」ト云フコトニナツテ居リマス、其前ニハ「近來國家ノ綱紀ノ漸ク弛廢シ外國威ノ進暢ヲ礙ゲ内民心ノ安定ヲ缺キ征利私ヲ計リ義勇奉公ノ氣節將ニ萎靡セントス國家ノ大患之ニ過グルモノナク洵ニ深憂ニ堪ヘザルモノアリ」斯ウアリマシテ、政府ハ速ニ其矯正スルノ途ヲ講ゼラレタイト云フ御希望デアッテ、此時ニ當ツテ所謂決議案ト仰シャル此モノノ理由ニ付テ當時御説明ガアル、此御説明ニ依テ當時政府ニ對シ如何ナルコトヲ具體的ニスベキコトヲ御希望ニナツタカト云フコトヲ窺フコトガ出來ルノデアリマス、斯ウ云フコトデアリマス「故ニ政府ニ於キマシテハ、速ニ司直ノ府ヲシテ司法ノ淨玻璃ノ鏡ニ照ラシマシテ、正邪曲直是非善惡ヲ明カニサレマシテ善ノ尊ムベク惡ノ憎ムベキモノ、勸善懲惡ノ事柄ヲ、國民ノ前ニ實物教訓トシテ示サルルト云フコトガナカツタナラバ到底此國民ノ心ヲ安定サセルコトガ出來ナイノミナラズ國家ニ對スルトコロノ、奉公ノ精神ヲ涵養スルコトハ到底出來ナイコトデアルト思フノデアリマス、此建議案ノ御提出ニナリマシタ趣旨モ其點ニアルト思フノデアリマスガ」ト斯ウ云フコトデアリマスソレ故ニ其後唯今御述ベニナツタ阿片ノコトト云ヒ、堵連炭抗ノコトト云ヒ、之ニ對シテハソレゾレ茲ニ説明ノ中ニアリマスルガ如ク、司法ノ是カラ淨玻璃ノ鏡ニ照ラシテ、曲直ガ解ルコトニナツテ居ル、之ニ依テ國民ガ安心ヲスルト云フ手續モ、今執テハ確メ難イノデ、裁判ノ結果ヲ待ツテ見ナケレバ分ラヌノデアリマス、ソレカラサヤウニ疑ノ掛ル者ヲ、高位高官ニ用ヒタ、此責任ハ現内閣ハ

ドウダ、サヤウナ嫌疑ノ掛ルヤウナ者ヲ高位高官ニ用ヒルト云フコトハ決シテ宜イコトデハナイ、知ツテ之ヲ用ヒレバ甚ダ惡イノデアル、左様ナコトハ

證議ヲ慎シマナケレバナラヌト云フコトハ、先刻モ申シタコトデアリマス、併シ前内閣ト現内閣トハ、ソレハ同ジダ、成程拓殖局ノ監督者トシテハ總理

大臣ハ最モ近接シテ監督者デアル、其拓殖局ノ長官ヲ前キノ總理大臣ガ任命シタ、左様ニ嫌疑ノ掛ル者ヲ任命シタノハ其證議ヲ誤ッタ、又其在職中ニ左様

ナ嫌疑ノ掛ルヤウナコトヲシテ、其監督ガ届カナカツタ、監督不行届、其責任ヲ此内閣ノ總理大臣ニ執レト云フコトハ、如何ナモノデアリマセウカ、是ハ

私ハ俄ニ此ノ同意ハ出來ヌノデアリマス、其他總テ監督不行届ニ付テノ責任ナリ、監督官タル者ガ進退伺ヲ出シテ、之ニ依テ、其輕重ニ依テ、懲罰委員

ハ、先刻モ申シマシタ通リ、最モ近イトコロノ監督者ガ先づ第一ニ責任ヲ負

ウテ居ルコトガ、慣例ニナツテ居ルノデアリマス、從來或ル……例ヘバ稅務官吏ガ私ヲシテ犯罪ヲシタ、是等ニ對シテハ先づ其直接監督者タル所ノ局長

ナリ、監督官タル者ガ進退伺ヲ出シテ、之ニ依テ、其輕重ニ依テ、懲罰委員ニ依テヤラレルコトニナツテ居リマス、一ツノ稅務官吏ガ公金ヲ例ヘバ私ヲシタ、之ニ對スル其責任ヲ一々大藏大臣マデ及ボシテ問フト云フコトハ、從

來ノ慣例ニハナイノデアリマス、責任ヲ問フコトハ必ズ其監督者ノ一番接近シタ者ニ從來歸シテ居ル、是ハ監督不行届ノ場合ヲ申スノデアリマス、是ダケ……

○仲小路廉君 更ニ伺ヒマス、私ハ實ニ高橋總理大臣ノ御答辯ヲ伺ツテサウ思フノデアリマス、或ハ是ハ高橋君ニハ御氣ノ毒デアルカモ存ジマセヌ、衷ラズ國家ニ對スルトコロノ、奉公ノ精神ヲ涵養スルコトハ到底出來ナイコトデアルト思フノデアリマスガ」ト斯ウ云フコトデアリマスソレ故ニ其後唯今御述ベニナツタ阿片ノコトト云ヒ、堵連炭抗ノコトト云ヒ、之ニ對シテハソレゾレ茲ニ説明ノ中ニアリマスルガ如ク、司法ノ是カラ淨玻璃ノ鏡ニ照ラシテ、曲直ガ解ルコトニナツテ居ル、之ニ依テ國民ガ安心ヲスルト云フ手續モ、今執テハ確メ難イノデ、裁判ノ結果ヲ待ツテ見ナケレバ分ラヌノデアリマス、ソレカラサヤウニ疑ノ掛ル者ヲ、高位高官ニ用ヒタ、此責任ハ現内閣ハ從事イタシテ居ルモノガ、甚ダシク暴狀暴慢ヲ極メテ居ル、實ニ一部ノ人ミ

ノ歎心ヲ買フコトノ爲メニ職務ヲ犠牲ニスル、私怨請託或ハ愛憎ニ依テ事ヲ

爲ス、實ニ中央地方ヲ問ハズ、多クノ原因ハ今日官吏公吏其他公職ニ從事シ

テ居ル者ノ行爲ニ付テハ甚シク憂ヘテ居リマス、今日程拘制力ヲ缺イテ居ル

政府ハナイカト思フ、苟モ政府ヲ立ツル以上ハ嚴正ニシテ部下ノ官吏公吏其

外ノモノニ嚴正ニ職務ヲ執ラシムル位ノ威重ハアツテ宜シカラウト思フ、今

日程放恣邪僻ニ流レテ居ルコトハゴザイマセヌ、ソレガ爲ニ勢ヒ國民ハ其苦

痛ニ惱ンデ居ル、是ハ下ミノ官吏公吏其他ヨリ上ノ方ニ行ケバ行ク程益、酷

クナツテシマッテ居ル、各地方長官、是ハ實際ノ事實デゴザイマスガ、昨年第

四十四議會ニ於テ貴族院ガ綱紀問題ニ付テハ隨分ヤカマシイ議論ヲナシタ、

サウシテ東京市ノ疑獄事件ハ既ニ知レテ居ル時デアツタ、サウ云フヤウナ場合

ニ四十四議會ガ濟ンダ後ニ、内務大臣モ各地方長官ヲ招集セラレテ、總理大

臣ヲ始メ各大臣色ニナ訓示ガアツタ、私ハ其時ニサウ思ウタ、政府ガ眞ニ貴族

院ノ決議ヲ尊重シテ、其議ヲ容レル考ガアルナラバ、必ズ各地方長官招集ノ

場合ニハ嚴重ノ訓令ノアルベキ筈デアラウト思フガ…市町村其他ノ監督ノ

不行届ノコト、總テノ點ニ對シテ嚴重ナ訓令モアリ戒飭モアルベキモノダト

考ヘル、一言ダモ其事ニ及バナカツタコトハドウ云フ譯デアリマスカ、一言

ダモ各地方長官ニ戒飭ノ言葉ガナカツタ、ナカツタノミナラズ、其當時地方長

官トシテ現ニ東京府知事ノ狀態ハドウデアツタカ、ソレハ多クモ言フニ忍ビナ

イ、斯ノ如ク上ニ立テバ立ツ者程酷イ、ソレデアリマスカラ、下多クノ官吏

公吏ノ放縱邪恣ニ流ルコトハ、是ハ當然ノコトデアリマス、斯ル狀態ニナッ

テ居リマスルモノヲ、之ヲ高橋首相ハ何ト見ラレマス、一口ニ申シマスト、

スウハナリマセヌカ、實ニ多クノ人ガ困ツタコトヲシテ吳レルト、口ニハ申ス

モノノ、コノ上ニ立ツ人ミ自己ノ都合ノ爲、其他ノ爲ニ見テ見ヌ振リヲスル、

サモナケレバ寧ロ之ヲ助長セシメテ居ルヤウナ感ハゴザイマセヌカ、若シモ

ソレデアリマスルナラバ、今日斯ノ如キ狀態ニナッタノハ、高橋首相ガ常套

ノ言葉トシテ國民ガ惡イ、國民ガ惡イ、國民ガ改マラヌカラサウ云フコトニ

ナル、是ハ餘リ國民ニ責メテ掛ケスギル、其原因ヲ作り爲スモノハ、寧ロ官

吏公吏、公務ニ從事スルモノ、其中樞タルベキモノガ、此狀勢ヲ釀因セシメ

タコトニナリハシマセヌカ、此點ニ付テハ高橋首相ハ如何ニ御考ヘデゴザイ

マセウカ

テ止メ、明日續キヲ開キタイト思ヒマスガ、御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ」

○副議長(侯爵黒田長成君) 御異議ナイト認メマス、明日ノ議事日程ヲ報告

ニ及ビマス

〔成瀬書記官朗讀〕

○副議長(侯爵黒田長成君) 大正十一年一月二十四日

議事日程 第四號

午前十時開議

第一 銃砲火薬類取締法中改正法律案(政府提出)

第二 大正十年勅令第三百七十五號(承諾ヲ求ムル件)

第三 大正十年勅令第三百七十五號(承諾ヲ求ムル件)

第一讀會  
會 議  
會 議

○副議長(侯爵黒田長成君) 本日ハ是ニテ散會

午後零時二十九分散會

大正十一年一月二十三日